

民ヲ獎勵シ益競争ノ精神ヲ惹起シ愈進取ノ念慮ヲ發揮シテ務メテ興産富國ノ基ヲ立
サシメ以テ閣下ノ厚意ニ報スル所アラントス

四、本會開設ノ理由 各村勸業世話係ヨリ經費ノ内金百二十圓ヲ寄納シ其ノ開會ヲ
郡長ニ請求セシヨリ郡長ハ縣令ニ稟申シテ開會セシモノニシテ更ニ金三百五十
圓ノ寄附ヲ募集セリ故ニ總經費金四百七拾圓全部有志ノ醸金ヨリナル

五、效果 本會ハ無經驗者ノ合意的事業ニシテ殊ニ審査員ハ我カ製品スラ鑑別シ得
ベキ經驗ナキモノ多キヲ以テ其審査ハ頗ル慎重周到ヲ極メタリ因テ本審査ニ依
リ自業ノ製品上得ル所多大ナルモノアリシト云フ且ツ一般觀覽人モ未タ此種ノ
陳列會ヲ見ザリシモノ多キヲ以テ普通出品ニ依リテハ産業上ノ智識ヲ進メ參考
品ニ依リテハ常識ヲ養フ所多カリシト云フ

六、出品成績 出品點數五百九十八ニシテ内受賞百八十名内優等賞五名左ノ如シ

- 一等 五人
 - 素麵 蒲生村 松下 磯平
 - 鹽油 安田村 高橋彌三治
 - 麥 池田村 眞砂伴五郎
 - 麥 苗羽村 鹽田庄作
 - 白砂糖 上村 成瀬孫郎

- 二等 七人
- 三等 一人
- 四等 百六十七人

第二章 各種品評會及競技會

今項ヲ別チテ記述スレバ左ノ如シ

一、各村聯合農產品評會

明治二十七年三月廿三日ヨリ廿九日マテ 會場 淵崎村 寶生院

(イ) 出品總點數 七百五點

米	八四	裸麥	二二一	小麥	一五二	大麥	一三
黍	一一	粟	一一	蜀黍	六	夏大豆	二六
青大豆	一〇	黒大豆	一〇	小豆	七	蠶豆	二二
大角豆	一一	蕎麥	三一	葡萄豆	二	胡麻	五
豌豆	一	粳	八二				

(ロ) 出品人員 六百五十三人
 (ハ) 受賞人員 一等 五人 二等 五十人 三等 百三十人
 (ニ) 賞品 一等 吸物膳 二等 飯櫃 三等 二升入大杓
 二、牛馬品評會

明治二十八年十月十六日ヨリ十八日マテ 會場 安田村字植松
 (イ) 出品總點數 牛百八頭 馬二十八頭
 (ロ) 出品人員 百三十人
 (ハ) 受賞人員 一等 三人 二等 十七人 三等 三十五人
 (ニ) 賞品 一等 毛布 二紅 白木綿 三等 白木綿

三、第一回麥稈真田競技會
 明治三十四年十月九日ヨリ十一日マテ 會場 土庄町 西光寺
 (イ) 出席總人員 不詳
 (ロ) 受賞者 五十名
 一等 五人 二等 十五人 三等 三十名
 (ハ) 賞品

一等 瓦斯綿 二等 紺金巾 三等 紅木綿
 四、第二回小豆郡麥稈真田競技會
 明治三十六年三月五日ヨリ七日マテ 會場 淵崎村 延齡淵

(イ) 出席總人員 不詳
 (ロ) 受賞者 六十名
 一等 四名 二等 二十人 三等 三十六人
 (ハ) 賞品 一等 双合織 二等 紺金巾 三等 紅木綿

五、第三回麥稈真田競技會
 明治三十八年十月十二日 會場 安田村 西榮 光光寺
 (イ) 出席總人員 二百五十名
 (ロ) 受賞者 七十八人

一等 五名
 淵崎村 山下トメ 土庄村 谷 マッ 二生村 宮本 ハナ
 淵崎村 西岡 × イ 坂手村 岩井千代

六第四回麥稈具田競技會

明治三十九年十月^五四日

會場 〔安田町 四榮 光光 寺〕

(イ) 出席總人員 二百九十三人

(ロ) 受賞者

- 一等 十人 賞金一圓十五錢ツ、
- 二等 二十人 同 六十錢ツ、
- 三等 六十五人 同 三十錢ツ、
- 等外 百九十八人 同 十錢ツ、

七、小豆郡外三郡一市聯合醬油及麴品評會

明治四十二年十月十日ヨリ十二日マテ

會場 内海高等小學校

(イ) 出品總數 醬油二百三十四點 麴八十點 計三百十四點

(ロ) 受賞者 三十七人

- 一等 五名 賞品置時計
- 醬油 安田村 高橋肇四郎 醬油 草壁村 草壁醬油株式會社
- 醬油 西村 水野邦次郎 麴 苗羽村 小沙彌太郎

八第一回小豆郡醬油麴品評會

明治四十三年十一月二日ヨリ四日マテ

會場 内海高等小學校

(イ) 出品點數 七十八點

(ロ) 受賞者 二十六名

- 一等 二人 賞品尺七金火鉢
- 醬油麴 草壁村 島醬油株式會社 醬油麴 苗羽村 黑島嘉市
- 二等 四人 賞品尺四金火鉢
- 三等 十人 賞品尺壹金火鉢

九第二回醬油麴品評會

明治四十四年十一月十六日ヨリ十八日マテ

會場 内海高等小學校

(イ) 出品點數 六十五點

(ロ) 受賞人員 十六人

- 一等 二人 賞品大帳筆筒
- 醬油麴 苗羽村 船山組 醬油麴 苗羽村 丸金油株式会社
- 二等 五名 賞品中帳筆筒
- 三等 九名 賞品小帳筆筒

一〇、第三回醬油及醬油麴品評會

大正元年十一月二日ヨリ四日マテ 會場 内海高等小學校

(イ) 出品點數 醬油八十八點 醬油麴 七十三點

(ロ) 受賞者 三十七人

- 一等 四人 賞品丸テーパー一個及銘仙一反
- 醬油 安田村 高橋筆四郎 醬油 安田村 大町忠八郎
- 醬油麴 苗羽村 小汐彌太郎 醬油麴 苗羽村 鹽田龜吉
- 二等 九名 賞品テーパー一個及尾洲袖一反
- 三等 二十二名 賞品撥當箱一個及双子織一反

一一、第二回素麵競技會

明治四十四年十一月二日 會場 池田村素麵組合事務所

(イ) 競技人員 二十人 (手製)

(ロ) 受賞人員 十六人

- 一等 二人 賞金四圓
- 池田村 田村喜市 池田村 田村シヨブ
- 二等 六人 賞金二圓五十錢
- 三等 八人 賞金一圓五十錢

一二、第二回素麵競技會

大正元年十月十五六日

會場 池田村素麵組合事務所

(イ) 競技人員 四十二人 (手製)

(ロ) 受賞人員 十六人

- 一等 二人 賞金四圓
- 池田村 田村清吉 池田村 岡田カヲ
- 二等 四人 賞金二圓五十錢
- 三等 十人 賞金一圓五十錢

一三、第三回素麵競技會

會場 池田村素麵組合事務所

大正三年二月十五日

(イ) 競技人員 六十人 (器械製)
(ロ) 受賞人員 二十三人

一等 三人

池田村 藤岡藤吉

池田村 近藤木曾次郎

池田村 川口岩吉

二等 六人

三等 十四人

第廿二編 租稅

租稅ハ古今其ノ法ヲ異ニシ各藩其ノ趣ヲ別ニセリ殊ニ本郡ニ於テハ加子浦ト稱スル一種特別ノ血稅法アリ畑地ニ於ケル麥納制ノ特典アリテ其ノ沿革上頗ル異彩ヲ放テリ今時代ヲ逐ウテ之ヲ記述セントス

第一章 無年貢時代

無年貢時代トハ上古皇室ノ御料地タリシ時代ヨリ興國元年北朝曆三年佐々木信胤來リテ星ヶ城ニ據リ私領トナシ後正平二年北朝貞三年細川師氏ニ亡サレシマテノ年間ヲ云フ此等ノ時代ニ於テハ本郡ハ年貢地ニシテ時ニ產物ヲ獻納シ又獻納ヲ命ゼラレシコトハアリシナランモ主トシテ自耕自收ヲ事トシタリ但シ信胤ノ私領セン時ハ屢諸物ヲ徵發セラレシト云フ蓋シ當時戰場ノ地トナリタレバ財政極メテ困難ニ陥リシ爲メナルベシ

第一章 加子浦時代

加子浦時代トハ正平年間細川家ノ管領地トナリシ以來元祿二年加子役御免トナリシマテヲイヒ此時代ニ在テハ鹽飽島等ト等シク臨時事アルニ際シ船舶水夫ヲ徵シ軍事ノ任務ニ當ラシム此時代ニハ戰亂絶ヘズ或ハ朝鮮ノ役アリ或ハ藝ノ福島家肥後ノ加藤家ノ改易島原ノ亂等屢船舶ヲ徵セラレテ水主役ヲ命ゼラレ家ヲ空シクシテ其ノ役ニ服スルコト多ク家業ニ從フノ時日少カリシモ當座ノ扶持ヲ給セララルト

其ノ田畑等ノ年貢ハ賦課セラレザリシトニ依リ多少生活ニハ餘裕アリシナルベシ

第三章 幕府時代

左ニ項ヲ別チテ記述ス

一、慶長年間ノ檢地 慶長十年豊臣家ニ於テ片桐且元ニ命ジテ始メテ檢地竿入ヲナサシム世ニ之ヲ古檢ト云フ乃チ當時ノ地圖ニ左ノ記事アリ(慶長年間小豆島地圖 參看)

小豆島高畝目錄

土庄組	高八百八十九石三斗一升	里數十二村
池田組	高八百四十六石五斗六升	里數十一村
草加部組	高千三十石一斗三升	里數十六村
北浦組	高四百二十石七斗	里數十二村
高都合	三千百八十六石七斗	里數五十一村
畑高	四百九十五町三反九畝	

慶長十年十月十五日

伏見飛禪守 改之
水原石見守

二、慶安年間ノ檢地

慶安元年、徳川幕府ハ小堀政一(遠江守)ニ命ジテ再檢地ヲナサシム乃當時ノ地圖ニ左ノ記事アリ(慶安年間小豆島地圖參看)

小豆島地圖 (看色細圖)

高百十七石二斗一升二合	村數 二ヶ村本村共	福田村
高百四十九石三斗四升一合	村數 四ヶ村本村共	大部村
高百六十二石七斗四升	村數 七ヶ村本村共	小海村
高二百四十二石九斗六升六合	村數 四ヶ村本村共	肥土山村
高百四十四石七斗五合	村數 二ヶ村本村共	上左村
高二百四十石一斗八升八合	村數 三ヶ村本村共	淵崎村
高二百六十九石九斗六升五合	村數 六ヶ村本村共	土庄村
高八百五十八石八斗四合	村數 十三ヶ村本村共	池田村
高千四十三石四斗七升二合	村數 十七ヶ村本村共	草加部村

本高合三千二百二十九石三斗九升四合 村數 五十八ヶ村本村共

備考 當時ノ年貢畑方ハ麥斗代ナリ(小豆島風土記參看)

三、延寶年間ノ檢地 延寶五年徳川幕府ハ木下公定中足守城主ニ命ジテ更ニ檢地

ヲナサシム三年ヲ費シテ結了ス其ノ成績左ノ如シ當時檢地總奉行ハ木下宮内家

來田中五郎右衛門之ニ當ル(小豆島三才圖會又小豆島加子浦舊記參看)

一總高中檢地高合シテ

七千七百五十八石一斗六升二合

内

三千四百石七斗八升七合

田高

四千三百五十七石三斗七升五合

畑高

外

百五十八石三斗九升

酉新田

八百七十二石

亥新田

元米二百十五石七升五合

鹽濱高

五十五石三斗五升

山年貢

二百四十石六分

御運上銀

八百六十石

樹木後銀

石場御運上帆別寄魚廻船米御運上年々不同

一新御檢地總高

三千三百五十四石八斗八升三合

内

千九百五石七斗七升六合

米納

銀百八十貫五百九十四匁

銀納

是ハ十分一三分一

山年貢鹽濱帆別寄魚新檢地ニテ如斯有増申候

田畑増計ニテハ無御座候大分位違斗代上ニテ多ク罷成申候御事

元祿二年ニ至リ此ノ更定實行セラル今其ノ增高ヲ比較スレハ左ノ如シ

古檢慶長十年田畑一反歩分米麥

上田分米一石二斗

上畑分麥壹石 米ニシテ五斗

中田分米一石

中畑分麥七斗 米ニシテ三斗五升

下田分米七斗 下畑分麥五斗 米ニシテ二斗五升
下々田分米五斗 下々畑分麥三斗米ニシテ一斗五升

新檢田畑一反歩米麥

上田分米一石六斗 上畑分麥一石二斗
中田分米一石四斗 中畑分麥九斗
下田分米一石二斗 下畑分麥六斗
下々田分米八斗 下々畑分麥三斗

尙ホ如斯增高御座候田畑開キ増ニテハ御座ナク候斗代上リ位上リ分麥ノ上リ
ニテ有之候事トアリ

此ノ如キ增高ニナリケレバ村民ノ驚キ譬フルニ物ナク庄屋年寄等種々歎訴セシモ其
效ナク果テハ重税ニ耐ヘズシテ諸國ニ移住セシモノ多キニ至リ遂ニ池田村民チシテ
復舊ノ訴願チナサシムルニ至ル

四、寶永年間寄高反別明細帳 寶永七年十二月松平讃岐守御預リトナリシ際提供セ
シ書上ノ謄本(小豆島九ヶ村寄高反別明細帳參看)

小豆島九ヶ村寄高反別明細帳 寶永七年十二月書上寫

反別千三百六十六町三反五畝十五歩
一高八千六百九十四石三斗三合

反百八十七町七反八畝三歩

内高六百九十六石五斗二升八合

反十一町九反四畝十一歩

内高八十三石三斗一升五合

新田 諸引

反別千三百五十四町四反一畝四歩

殘高八千六百一十一石一斗一升八合

取米三千六百十六石七斗四升

田畑譯

反別三百四町九反六畝六歩

田高三千五百三十三石三斗五升一合

反別千六十一町三反九畝九歩

畑高五千六百一十一石八升二合

一田四反十八歩

見取場

川欠引

砂入

内一反二畝步

一畑十町九畝十九步

内三畝十二步

十町五反七步

此取米三石六斗九升三合

反別四十一町五反六畝二步

一御林九ヶ所

此木數一萬八千五百九十一本

外苗木三百四本

一郷藏十四ヶ所高一石三斗五合

一御高札場四十一ヶ所

御制數百十五枚

一株酒屋九軒御座候

反別四十四町八反四畝二十九步

一御除地堂社百九十一ヶ所

外ニ二ヶ所御除地中山村七郎左衛門

一御普請所三百十二ヶ所

一自普請所五百二十三ヶ所

小物成

反別七十三町五反三畝十七步

一鹽田三千百七十俵半

高千十五石六斗八合

二百五十九俵

内 四千百一十一俵五分

反別六千四百三十一町五反一畝六步

一米三百四十八斗八升一合一勺

一銀二百六十四匁五分

一銀九十匁八分二厘

一銀三百四十四匁七分

一銀七十六匁三分七厘五毛

鹽濱數二千百八十五ツ二分五厘

大阪御鹽納

甲州御廻鹽

山年貢

樹木役定納

簀成定納

問屋運上代

酒造冥加銀

一銀七十一匁二分五厘

一銀一貫四百八十六匁三分五厘

一銀五百八十四匁七分六厘

一銀十五匁

一銀九百七十六匁

內 八百六十匁

百十六匁

一米三十八石九斗二升八合一勺

一米七石六斗二升

一米一石三升七合四勺

一米十七石三斗八升九合

一米五石二斗一升七合

一銀一貫三百四匁一分六厘

年々不同廻船後四艘

右同斷船運上

右同斷寄魚運上

右同斷鱒網運上

石運上

定納

丑ヨリ戌マテ十ヶ年季

網運上

帆別運上

鱒網運上

六尺給

御傳馬宿

御藏敷入用

備考 此明細帳ニ存スル年貢諸税ノ徴收ハ徳川幕府租税徴收法算法地方大成租税ノ部ニアリ又爾後時々新開檢地ヲ施シ反別石高ヲ増加セリ就中元文四年草加部村庄

區管與一左衛門ヨリ倉敷代官所へ提供セシ小豆島村々諸色指出帳及文化年間ニ調製セシ小豆島地圖ニ其ノ石高等ノ記載アルモ甚シキ差違ナキヲ以テ之ヲ省略ス但シ此明細帳中家數寺數牛馬ノ數アレドモコハ該當ノ各編ニ記入ス

五天保年間小豆島明細改記略 天保九年全島九ヶ村ノ内池田土庄淵崎上庄肥土山

小海ノ六ヶ村美作國津山藩主松平參河守ノ分領ナリシ際御領私領兩巡察使來島

ハ節提供セシ書上ノ謄本(小豆島三才圖會參看)

一總高八千九百九十五石二石七升六合

一上納鹽四千三百六十四俵五斗

一山年貢米三百三十五石八斗七升五合

一御林山九ヶ所浦草加部郷坂手橋岩ヶ谷當濱四ヶ所池田郷神之

一社堂御除地百五十七ヶ所浦草加部郷坂手橋岩ヶ谷當濱四ヶ所池田郷神之

備考 此外本枝村ニ分テ反別石高戸數神社寺院等ノ記載アリシモコハ該當ノ各編ニ

記入スルコトトス

六文久年間年貢諸税増徴 天保九年東部ハ依然御料ニシテ西部ハ津山藩ノ私領ニ屬セシモ年貢物成治政ニ於テハ御料同様何等ノ異動ナキヲ以テ郷村役人ヲ始メ

村民一同各其ノ堵ニ安ンシ居リシニ文久二年ニ至リ津山藩ハ突如藩政ヲ改メ新ニ左ノ課稅ヲ施セリ(亂妨後日ノ聞書參看)

一 去ル百歲以來御年貢御取箇壹割増方仰付ラレ候事

一 諸株式御運上銀上納可仕候様仰付ラレ候事

一 御國元津山表へ罷出候奉公人給銀百姓高割ニ仰付ラレ候事

是ハ作州津山御家中御召遣ヒノ仲間奉公人當島方ヨリ差出シ候様仰付ラレ島方ニテ色々心配仕リ差出候所右奉公人ノ給銀百姓共へ相掛ケ候ニ付高割ニ相成候事也又諸株式御運上ト申スハ島方諸仲買諸問屋并ニ素麵問屋油絞リ方小賣方又醬油作り方砂糖車其外商賣株式定リ御運上銀上納可仕様仰付ラレ候事

一 海面諸漁御運上之事

是ハ春網夏網秋網冬網寄魚又ハ手繰網穴子ハへ繩鳥賊釣等總テ海魚海事一切夫々御運上銀仰付ラレ候事

一 當島大庄屋并ニ村庄屋村庄屋ト申スハ御料所ノ節ノ年寄役ナリ右給銀之義下方百姓共高割ニ仰付ラレ候事

右庄屋年寄給米御料所ノ節ハ御年貢米納取立ノ節百姓共ノ人別ニ六分米納辻ニテ壹歩ト申壹分ヲ取立是則チ庄屋ノ給料引當也又村方年寄給米ハ其ノ村々ニテ山林ノ薪又ハ地子麥ナド當テ差出居候然ル所御私領ニ相成御改革ノ節大庄屋給米小庄屋給米共百姓ヨリ差出ニ及バズ此段御上ヨリ大庄屋へハ扶持米差遣候事御國ノ御定法也又小庄屋へハ壹ケ年ニ米貳石並ニ筆紙墨料御上ヨリ差遣候間以來ハ百姓共ヨリ差出候事無用也ト仰付ラレ候テ大庄屋ノ扶持米代小庄屋へ遣シ候米二石代筆紙墨共皆々百姓高割ニ相成候事

一 藝州廣島行脚夫賃錢下方百姓高割ニ仰付ラレ候事

是ハ慶應二年寅年公儀ハ防長二ヶ國御征伐遊バサレ候ニ付御國御上様ニモ右御征伐ニ付廣島マデ御出張ニ付當島ノ者ハ船所持ノ者共御用船ニ徵召セラレ候節脚夫ト申御用人足相勤候者共ノ賃錢島方百姓高割ニ仰付ラレ候事

此ノ新課稅發セラレタルニ付部民一同其ノ苛酷ニ苦シミ哀訴歎願下情ヲ陳シタルモ之ヲ容レザリシヲ以テ遂ニ慶應三年ニ至リ強訴ト唱フル一大暴亂ヲ起スニ至ル(第四編統治參看)

第四章 明治時代

幕府時代ニアリテハ租税ハ主トシテ地租ニシテ田畑宅地(屋敷鹽田(鹽濱)等ニハ貢米ノ稱ヲ以テシ山林(草山又ハ杉山)ニハ山手米ノ名ヲ以テ課シ其ノ他樹木鋸成問屋酒造廻船寄魚帆別等ニハ運上米又ハ冥加銀等ノ名稱ヲ以テ之ヲ賦セリ而モ其ノ税法ハ藩々其ノ趣ヲ異ニシ寬嚴輕重極リナキモノアリ是ヲ以テ明治以後其ノ統一ヲ期セントシテ先ヅ地租改正ノ大業ヲ決行シ且ツ國費ノ多額ヲ要スルニ伴ヒ種々ナル新税設定セラル、ニ至レリ而シテ諸税ヲ大別シテ國稅府縣稅市町村稅ノ三種トセラル

第五章 國稅

左ニ項ヲ分チテ關係事項ヲ記述スベシ

一、地租

(イ) 石代金納ヲ許ス 明治四年五月石代金納ヲ許サル是レ舊慣ノ石納ハ其ノ運搬納付極メテ煩ハシク民ヲシテ其ノ勞費ニ堪ヘザラシメ又穀價毎年昂低常ナク

國庫ノ豫算得テ期スベカラズ誠ニ官民共ニ不便ナリシヨ以テ石代金納ヲ許スコト、ナリタリ

(ロ) 石高ノ稱ヲ廢ス 六年六月石高ノ稱ヲ廢サル是レ石高ノ稱ハ慶長年間ニ起リタルモノニシテ今日實地ニ不適當ナレバナリ

(ハ) 地租改正 六年七月二十八日地租改正ノ詔ヲ發セラレ條例ヲ布キ地租改正事務局ヲ設ケ府縣ニ地租改正係ヲ置キ大小區及ビ各村ニ各總代ヲ配置シ官民戮力慎密ニ調査シ十二年ニ至リ完結ヲ告グ當時ノ石代相場前五ヶ年ヲ平均セシモノ米一石ニ付金四圓七拾六錢ナリ而シテ本郡ノ改正成績左ノ如シ

反 別

一田	五百壹町三反九步
一畑	貳千拾八町六反七畝七步
一宅地	貳百三拾五町九反五畝貳畝步
一鹽田	三拾七町壹反拾貳步
一山	九千百七拾五町五反五畝拾步
一林、竹林	七拾四町七反四畝壹步

一 水生草地

九町三反八畝七步

一 雜種地

六反七畝貳拾九步

計

壹萬貳千五拾三町三反七畝步

地

一 田

拾九萬六千七拾八圓八拾三錢

一 畑

貳拾六萬三千五百三拾三圓九拾八錢

一 宅地

六萬千七百七拾四圓八拾錢

一 鹽田

八千四百八拾五圓七錢

一 山

拾壹萬千六百九拾九圓拾壹錢

一 林、竹林

千三百九拾八圓九錢

一 水生草地

九拾三圓拾五錢

一 雜種地

貳拾三圓六拾三錢

計

六拾四萬三千百八拾五圓六拾錢

地

租

一 田

四千九百五圓九拾九錢

一 畑

六千五百九拾三圓拾三錢

一 宅地

千五百四拾五圓三拾八錢

一 鹽田

貳百拾貳圓拾八錢八厘

一 山

貳千七百九拾七圓

一 林、竹林

三拾四圓八拾八錢三厘

一 水生草地

貳圓三拾四錢六厘

一 雜種地

五拾六錢四厘

計

壹萬六千九拾壹圓四拾八錢壹厘

地租新舊對比 (舊租ハ種目別不判明ナルヲ以テ合算ス)

一 耕宅地新租

壹萬三千四拾四圓五拾錢四厘

一 同 舊租

壹萬八千貳圓三拾八錢五厘

差引

四千九百五拾七圓八拾八錢壹厘

減額

一 鹽田新租

貳百拾貳圓拾六錢八厘

一 同 舊租

百八拾參圓貳拾錢八厘

差引

貳拾八圓九拾六錢

增額

一山林新租 貳千七百九拾圓七拾九錢五厘
 一同 舊租 千三百九拾六圓貳拾三錢六厘
 差引 千三百九拾四圓五拾五錢九厘
 增額

合計

一新地租 壹萬六千四拾七圓四拾六錢七厘
 一舊地租 壹萬九千五百八拾壹圓八拾貳錢九厘
 差引 三千五百三拾四圓三拾六錢貳厘
 減額

備考 外ニ嶺岨山ニハ元大部村外二十三ヶ村ノ共有ニ係ル無稅公有地凡一千町步アリシカ改租ノ際有租地ニ變シ分割セラレテ各接續村ニ附屬セシメタリシモ今之ヲ詳記セス

(ニ)田畑地價修正 十七年地租條例ヲ設定シ同時ニ比較的重稅ノ府縣ニ對シテハ特別地價修正ヲ行ヒ其ノ均衡ヲ保タシム本郡亦ソノ恩典ニ浴セシモ今其ノ減額ヲ記スルヲ得ス

(ホ)宅地々價修正 四十三年郡村宅地市街宅地ノ區分ヲ廢シ賃貸價格ノ十倍トシ市街ハ地價ノ十八倍郡村ハ地價ノ七倍二割以內ニテ全國ヲ通シテ郡村ノ權衡

ヲ謀リタリ本郡ハ其ノ委員ニ森遷三宅一雄水野邦次郎鹽田啓次郎大森貞資ノ五名ヲ公選シ同年十月十三日委員會ヲ開キ其ノ十一月九日調査決定セリ其ノ成績左ノ如シ

- 一總坪數 八拾壹萬九千七百八拾六坪
- 二賃貸價格 貳萬七千貳百四拾五圓貳厘
- 三地租 六千八百拾壹圓貳拾五錢
- 四舊地租 五千七百拾六圓拾四錢五厘
- 新舊地租差引 壹千九拾五圓拾貳錢五厘

增額

二所得稅 明治二十年勅令第五號ヲ以テ所得稅規則ヲ新說シ三十二年法律第十七號ヲ以テ所得稅法ト改メラル本法ニ依リ調査委員ニ當選セシモノ左ノ如シ
 明治二十年十一月第一期當選

- 蒲生村 岡井 庄左 北蒲村 岡上 喜平 土庄村 三枝重太郎
- 同 二十二年六月第二期半數改選
- 同 二十三年十月第三期半數改選
- 土庄村 大森 辨藏 四海村 藤岡 貞治

明治二十六年六月第四期半數改選

安田村 高橋肇四郎

同 二十八年六月第五期半數改選

土庄村 大森 辨藏 四海村 藤岡 貞治

同 三十年六月第六期半數改選

安田村 高橋肇四郎

同 三十二年六月第七期改選

土庄村 大森 辨藏 安田村 高橋肇四郎

西 村 小野 金七 四海村 森 遷

同 三十四年六月第八期半數改選

大鐸村 太田 耕治 池田村 岡井熊次郎 四海村 森 遷

同 三十六年六月第九期半數改選

土庄町 大森 辨藏 西 村 水野 金七

同 三十八年六月第十期改選

四海村 森 遷 苗羽村 木下忠次郎任辭 池田村 平坂 柳吉格

土庄町 大森 貞資 土庄町 大森 辨藏 大鐸村 太田 耕次缺補

淵崎村 井上文八郎缺補

同 四十六年六月第十一期半數改選

四海村 森 遷 三都村 柴田 伍一

同 四十二年六月第十二期改選

土庄町 大森 貞資 四海村 森 遷 大鐸村 太田 耕治亡

池田村 藥本 萬吉任辭 安田村 高橋 實造缺補 四海村 藤岡 貞治缺補

同 四十四年六月第十三期半數改選

土庄町 大森 貞資 四海村 森 遷

大正二年六月第十四期改選

四海村 森 遷 土庄町 大森 貞資 安田村 高橋 實造

四海村 藥岡 貞治

三續稅 明治三十八年法律第十號ヲ以テ相續稅法ヲ新設セラレ四十三號法律第

四號大正三年法律第二十號ヲ以テ改正セラル

本法ニ依リ土庄稅務署所轄內相續稅審查委員ヲ命セラレタルモノニシテ初期以來ノ勤績者左ノ如シ

明治三十八年九月初任

四海村 森 遷

同 明治四十二年六月死亡 土庄町 大森 辨藏

同 安田村 高橋 筆四郎

同 西村 小野 邦次郎

四、營業稅 明治二十九年法律第三十三號ヲ以テ營業稅法ヲ新設セララル本法ニ依リ

營業稅調查委員ニ當選セシモノ左ノ如シ

明治四十四年四月第一期當選

淵崎村 盛澄 八郎死 安田村 高橋 實造 土庄町 大森 貞資

苗羽村 鹽田啓次郎 西村 水野邦次郎 池田村 高尾安太郎缺補

大正二年四月第二期改選

土庄町 大森 貞資 安田村 高橋 實造 西村 水野邦次郎

池田村 高尾安太郎 苗羽村 木下忠次郎任辭 苗羽村 鹽田 龜吉缺補

同 四年四月第三期改選

安田村 高橋 實造 苗羽村 鹽田 龜吉 池田村 三木 龜吉

五、國稅事務 郡役所開廳以來國稅事務ヲモ處辨セシニ明治十八年十二月一日ヨリ其ノ事務補助トシテ本縣租稅課員二名ヲ在勤セシムルコト、ナレリ

六租稅出張所 明治二十二年各郡ニ租稅出張所ヲ設置セシヲ以テ其ノ七月小豆郡

租稅出張所ヲ土庄ニ開設ス

七土庄稅務署 同二十九年十一月一日租稅出張所ヲ廢シ土庄稅務署ヲ設置ス以來

署長ノ交代左ノ如シ

任 免 職 名 氏 名

明治二十九年十一月 明治三十四年八月 稅務署長 藤田 晋

同 三十四年八月 同 三十八年一月 同 諏訪新太郎

同 三十八年一月 同 三十八年三月 同 井上 政廣

同 三十八年三月 同 四十二年十一月 同 西尾 虎太

同 四十二年十一月 大正二年六月 同 幸崎 常雄

大正二年六月 同 中内 武次郎

尙ホ大正四年度ニ於ケル郡内ノ國稅徵收額左ノ如

地租 三〇、八〇一 所得稅 一一、二四二

營業稅 一一、〇三四 鑛業稅 二二八

賣藥營業稅 四六 酒造稅 一九、七七三

醬油稅	一六七、四〇六	砂糖消費稅	一〇五九
自家用醬油稅	二四二	織物消費稅	一六
通行稅	八〇八	和績稅	一五五九
計	貳拾四萬六千貳百拾六圓		

第六章 縣稅

項ヲ別テ其ノ沿革ヲ述フレハ左ノ如シ

一、雜稅 明治六年一月布告ヲ以テ地方ノ費用ハ雜稅トシテ賦課徵收スルノ法ヲ發セラレ其ノ後種々ノ變更ヲナセリ

二、地方稅 同十一年布告第十九號ヲ以テ地方稅規則ヲ定メ十三年之ヲ改定シ更ニ營業稅雜稅規則ヲ設ク

三、縣稅 同三十二年縣令第七十二號ヲ以テ地方稅ノ名稱ヲ縣稅ト改ム其ノ後課目ニ於テ多少ノ變更アリシモ現行ノ科目左ノ如シ

地租割 營業稅 雜種稅 戶數割 營業稅附加稅 所得稅附加稅

賣藥營業稅附加稅

尙ホ大正四年度ニ於ケル郡内ノ縣稅徵收額左ノ如シ

地租割	一二、〇一九	營業稅	五、五六九
雜種稅	一〇、八三一	戶數割	一二、七五一
營業稅附加稅	一、五四四	所得稅附加稅	四六三
賣藥營業稅附加稅	五		
計	四萬三千百八拾四圓		

第七章 町村稅

幕府時代ニ在テハ民費ハ「ハリ」稱ヘ秋期ニ於テ村役人(庄屋又年寄)之ヲ徵收スルヲ例トセシカ明治五年區畫ノ定マリシ以來區費ト名ケ區役所ニ於テ徵收シ十一年郡區町村編制實施後ハ町村役場ニ於テ之ヲ徵收スルコトス而シテ郡費ニ至テハ町村費ト共ニ町村役場ニ於テ徵收セシガ町村制實施以後町村費ニ合シ國縣稅ノ附加稅トシテ徵收スルコト、ナレリ

町村稅目ハ當初役場費學校費勸業費等ノ名ヲ以テシ町村制實施以後町村稅トシテ地價割國稅營業割賣藥稅業割縣稅營業割戶數割ニ改メシガ大正元年內務省令第十

八號ヲ以テ左ノ如ク改定セララル

- 一 地租附加税
- 一 所得稅附加税
- 一 國稅營業稅附加税
- 一 賣藥營業稅附加税
- 一 縣稅雜種稅附加税
- 一 縣稅營業稅附加税
- 一 戶數割稅附加税

尙ホ大正四年度ニ於ケル郡内ノ町村稅徵收額左ノ如シ

地租附加税	五六一・二	國稅營業稅附加税	一七九六
所得稅附加税	一、一三〇	賣藥營業稅附加税	二
戶數割附加税	九一、四七六	縣稅營業稅附加税	二、六三三
縣稅雜種稅附加税	四、九六六		

計 拾萬七千六百貳拾壹圓

第廿三編 警察

幕府時代ニ在テハ武門政治ノ習ヒトテ官尊ク民鄙ク人民保護ノ如キ僅カニ凶年飢歲ニ當リ餓民ヲ賑恤スルニ過キス維

新以後明治七年三月行政警察規則ヲ布カレテヨリ以降安寧風俗交通及ヒ營業等凡ソ人民保護ノ施設ニシテ至ラサルナシ今警察屯所設置以來ノ沿革ヲ記述ス

第一章 土庄警察署

左ニ其ノ沿革ヲ掲ク

- 一、淵崎屯所 明治八年淵崎村ニ屯所ヲ置キ舊牢屋ヲ以テ其所トス九年五月高松警察所ニ屬シ小豆島一圓ヲ管轄ス
 - 二、淵崎分署 明治九年十月高松警察所ヲ警察署ト改稱ス依テ淵崎屯所ヲ淵崎分署ト改ム十年三月土庄村ニ移轉シ十二年四月再ヒ淵崎村ニ復歸ス
 - 三、土庄警察分署 明治十九年六月更ニ土庄村ニ移轉シ土庄警察分署ト改稱ス
 - 四、土庄警察署 明治二十年高松警察署ノ所屬ヲ離レ土庄警察署トシテ獨立ス
- 尙ホ明治三十年一月香川縣警察部ヨリ日本形船舶端ヨリ艦端マデ四間半ノモノ一艘ヲ新調シテ水上警察船トシテ交附セラレ使用中破損セシヲ以テ更ニ三十八年七

月同形ノモノヲ再調交付セラレタリ目下巡査ノ定員ハ部長以下十八名ナリ因ニ署長ノ任免ヲ掲クレハ左ノ如シ

任	免	職名	氏名
不詳	明治三十年八月	警部	西 大次郎
明治三十年八月	同 三十二年四月	同	小林 順雄
同 三十二年四月	同 三十二年九月	同	長野 鮮三
同 三十二年九月	同 四十四年三月	同	眞鍋 貞俊
同 三十四年三月	同 三十五年四月	同	西山 巖
同 三十五年四月	同 三十五年十二月	同	松本 淳
同 三十五年十二月	同 三十七年七月	同	村瀬茂登喜
同 三十七年七月	同 三十八年八月	同	眞殿 彬當
同 三十八年八月	同 四十年十二月	同	鳥取宇平太
同 四十年十二月	同 四十一年十月	同	久保 兼治
同 四十一年十月	同 四十三年四月	同	鍋島茂久次
同 四十三年四月	同 四十四年四月	同	村島 歷雄

同 四十四年四月	同 四十四年十二月	同	北屋根英一
同 四十四年十二月	大正三年五月	同	吉井久次郎
大正三年五月		同	細井 丑太

第二章 草壁分署

左ニ其ノ沿革ヲ掲ク

一、巡査部長派出所 明治三十四年九月草壁村大字下村ニ巡査部長派出所ヲ置キ土庄警察署ニ屬セシム

二、草壁分署 明治三十五年四月巡査部長派出所ヲ廢シ草壁分署ヲ設置シ西村草壁安田苗羽坂手福田ノ六ヶ村ヲ管轄シ土庄警察署ニ屬セシム

尙ホ明治三十五年香川縣警察部ヨリ日本形船舳端ヨリ舳端マテ四間半ノモノ一艘ヲ新調シテ水上警察船トシテ交附セラレタリ目下巡査ノ定員ハ部長以下十一名ナリ因ニ署長ノ任免ヲ掲クレハ左ノ如シ

任	免	職名	氏名
明治三十五年四月	明治三十七年七月	警部	岡崎 宗壽

明治三十七年七月	明治三十八年十月	警部	楠瀬正利
同 三十八年十月	同 四十年四月	同	小田平三郎
同 四十年四月	同 四十年十二月	同	鳥取宇平太
同 四十年十二月	同 四十一年十一月	同	久保兼治
同 四十一年十一月	同 四十二年四月	同	細井丑太
同 四十二年四月	同 四十三年四月	同	鍋島茂久治
同 四十三年四月	大正元年十一月	警部補	北村喜太郎
大正元年十一月	同 二年八月	同	岡坂治
同 二年八月	同 三年四月	同	佐々木友作
同 三年四月	同 四年十月	警部	半田清三郎
同 四年十月		同	宮本美根樹

第三章 巡査駐在所

巡査ハ當初選卒ト稱へ更ニ巡邏ト改メ後巡査ト改稱セラレ駐在所ハ當初交番所ト稱へ更ニ派出所ト改メ明治十六年以後駐在所ト改稱セラル今郡内各駐在所ト沿革

ヲ述レバ左ノ如シ

- 一、豊島巡査駐在所 明治八年家浦ニ巡査交番所ヲ設立シ豊島全部ヲ受持區トナス當初四ツ堂ヲ以テ之ニ充テシガ十一年十一月村費ヲ以テ改築ヲナセリ
- 二、四海巡査駐在所 明治十年四海村大字伊喜末ニ巡査交番所ヲ設立シ伊喜末小江長濱ヲ受持區トナセシガ二十三年町村制實施後四海村一圓ヲ受持區トス當初ハ民屋ヲ以テ之ニ充テシガ後轉々シテ三十三年現今ノ家屋ニ移ル
- 三、池田巡査駐在所 明治十一年十一月池田村濱條ニ巡査交番所ヲ設立シ池田蒲生中山ノ三ヶ村ヲ受持區域トセシガ十八年中山村ガ肥土山戸長役場ニ屬セシヨリ同村ハ肥土山巡査駐在所ノ受持ニ轉ズ二十三年町村制實施ニ際シ池田村全部ヲ受持トセシガ四十三年池田村平木ニ駐在所増設ニ付受持ニ異動ヲ生ゼリ當初ハ民屋後チ明九小學校ノ一部ヲ以テ之ニ充テシモ三十三年村ニテ民家ヲ買入レテ之ニ充ツ
- 四、淵崎巡査駐在所 明治十三年淵崎村赤穂屋ニ巡査交番所ヲ置キ淵崎村一圓ヲ受持區域トナセシガ二十一年同村甲千二百十八番地ニ轉ジ更ニ東條三百二十三番現今ノ家屋ニ移ル

五、大鐔巡查駐在所 明治十六年肥土山村ニ巡查交番所ヲ置キ元庄屋持犯人留置場ヲ假用ス十八年池田村大字中山ガ肥土山村戸長役場ニ屬セシヲ以テ同部落ヲ受持區トナセシモ二十三年町村制實施後大鐔村一圓ヲ受持區トス大正四年現在ノ地ニ新築セリ

六、北浦巡查駐在所 明治十六年馬越村字岡ニ巡查駐在所ヲ設立シ小海見目屋形崎馬越笠ヶ瀧瀧宮ヲ受持區トナセシガ二十三年町村制實施後ハ北浦村一圓ヲ受持トナシ同時ニ大字見目ニ移シ北浦駐在所ト改ム始メ民屋ヲ以テ之ニ充テシガ見目ニ轉ゼシ以來元見目ノ部落持ナリシ村有ノ家屋ニ移ル

七、三都巡查駐在所 明治十六年五月吉野村ニ巡查交番所ヲ置キ吉野浦野神浦二面室生ノ各村ヲ受持トナセシガ大正二年二生村ニ駐在所ヲ新設セシヲ以テ三都村ノミノ受持トナル當初ハ民家ヲ以テ之ニ充テシガ駐在所ト改稱後正法寺ニ移リ明治四十五年現在ノ地ニ新築ス

八、大部巡查駐在所 明治十九年十月大部村ニ巡查駐在所ヲ設ケ大部村一圓ヲ受持區トス始メ民家ヲ以テ之ニ充テシモ二十四年向町ノ濱ニ新築ス
九、福田巡查駐在所 明治二十二年四月福田ニ巡查駐在所ヲ設ケ福田村一圓ヲ受持

區トナス始メ民家ヲ以テ之ニ充テシガ大正三年二月現在ノ地ニ新築ス

一〇、安田巡查駐在所 明治二十二年安田村ニ巡查駐在所ヲ置キ安田村一圓ヲ受持區トナス始メ民屋ヲ以テ之ニ充テシガ明治二十六年現在ノ地ニ新築ス

一一、坂手巡查駐在所 明治二十三年坂手村ニ巡查駐在所ヲ設ケ坂手苗羽兩村ヲ受持區トナセシガ四十一年苗羽村ニハ別ニ新設セラル現ニ民家ヲ以テ之ニ充テタリ

一二、小瀬巡查駐在所 明治三十一年土庄町字小瀬ニ巡查駐在所ヲ設ケ同町字土庄町ヲ除クノ外各字ヲ受持區トナス當初ハ民家ヲ以テ之ニ充テシガ明治三十四年現在ノ地ニ新築ス

一三、苗羽巡查駐在所 明治四十一年苗羽村大字苗羽ニ巡查駐在所ヲ新設シ苗羽村一圓ヲ受持區トナス始メ民屋ヲ以テ之ニ充テシガ四十三年現在ノ地ニ新築ス

一四、池田巡查駐在所 明治四十三年一月池田村字平木ニ巡查駐在所ヲ増設シ池田村濱條平木及大字蒲生ヲ受持區トス民家ヲ以テ之ニ充ツ

一五、二生巡查駐在所 大正二年五月二生村大字室生ニ巡查駐在所ヲ新設シ二生村全部ヲ受持區トナス始メ民家ヲ以テ之ニ充テシガ大正四年四月現在ノ民屋ニ移

第四章

警察事故

種目	明治三十三年	明治四十三年	大正四年
安寧警察	三、七三五	一、六四三	五、九二
風俗警察	五、一一五	三、五一五	三、四九
交通警察	一、五〇七	二、〇二五	三、一六
衛生警察	二、六二七	一、五五六	三、六八
合計	一二、九八四	五、〇八九	一八、七二
		二〇、二七九	六、六七五

第五章

警察ニ關スル營業

種目	明治三十三年	明治四十三年	大正四年
質屋營業	二二	一九	二五
古物商營業	一五八	一二九	一八
宿屋營業	一一五	一〇三	八〇
		三三	二六

大正四年上同

料理屋營業	四九	二四	三三
飲食店營業	三五七	一九三	七五
浴場營業	二四	一五六	一一
代書人營業	〇	一七九	一一
汽船荷客取扱營業	九	九九	〇一
渡船營業	一二四	六八	五
理髮營業	六九	四八	四八
牛乳營業	一	九五	五九
獸肉販賣營業	四四	〇一	七二
鍼術灸術營業	四四	〇四	八八
毒物劇物營業	一四	〇八	六一
清涼飲料水製造	五三七	四七	〇〇
並販賣營業	〇	〇	〇七
雇人口入營業	〇	六七	〇〇
人力車營業	五三	二五	三三
印版營業	〇	二二	〇四

屠屋營業	六九	二四一	二五五
按摩術營業	〇	二九	三五
屠畜營業	一	〇六	四〇〇
度量衡器販賣營業	一	〇一	一〇〇
氷雪營業	三	〇三〇	〇二二
遊技場營業	〇	〇	〇
藝妓酌婦	三五	四二四	三五四
乘合馬車營業	〇	〇	一〇
合計	一、六八七	一、八三九	一、九〇三

七一〇

第廿四編 衛生

幕府時代ニ在テハ病患者ハ唯醫師ニ一任スルニ過キスシテ官ニ於テ豫防消毒等ニ就キ干涉セシユトナシ蓋シ流行病ノ傳染性タルヲ知ラサリシカ爲ナルヘシ傳染病ニ關シテ傳フ

ル所ニ依レハ享保十八九年安政二年ノ腸窒扶斯及安政五年ノ虎列拉病等ハ最モ猖獗ヲ極メタルモノ、如シ今ヤ醫術進歩シ衛生事務發達シ豫防消毒ノ設備亦整ヘルコト誠ニ昭代ノ餘澤ト云フヘシ今醫務防疫ニ就キテ記述スベシ

第一章 醫師開業試驗

本郡ニ於テ古來醫術ヲ施セル者ノ多クハ世襲ニシテ子孫之ヲ繼承スルヲ常トスルモ間々他國ヨリ移住シテ開業ヲナセシモノナキニアラス明治九年内務省ニ於テ醫術開業試驗法ヲ定メラレ在來ノ醫師ニハ履歷ニ依リ試驗ヲ行ハスシテ免狀ヲ交付シ他ハ合格者ニ全科又ハ專科ノ免狀ヲ下附スルコト、ス爾來醫師ニ關スル法規屢改廢セラレシモ總テ内務省ノ免許ヲ要スルコト、ナリシハ公知ノ事實ナリ

第一章 醫務取締郡醫及衛生委員

明治十二年十一月各郡ニ醫務取締ヲ置キ本郡ニ於テハ三水方齊之ニ任ス次テ十六年七月郡醫五名ヲ置キ笠井晴軒三水方齊中桐絢海頓宮貞齋平井純三之ニ當ル十八

年四月ニ至リ各村ニ衛生委員ヲ置キ同年衛生會ヲ開キ衛生會規則其ノ他議決ス第一衛生會錄事參看第二次ハ十九年ニ第三次ハ二十年ニ開カル

第三章 衛生組合

明治二十四年五月八日香川縣訓令ニ依リ衛生組合設置概則ヲ發布セラレ四十二年三月十三日縣令ヲ以テ衛生組合設置規程ト改メ各大字ヲ一組合トナシ又凡ソ十戸ヲ一組トナシ各組合ニ組合長各組ニ組長一人ヅ、ヲ置キ都テ衛生上防疫上ノ取締ヲナサシム

第四章 醫師會

明治二十五年五月郡内ノ醫務ヲ統一センカ爲メ各醫ノ協議ニ因リ小豆郡醫會ヲ組織シ中桐絢海會長ニ三水方齊副會長ニ就任シ專ラ醫務ノ改善醫術ノ發展ヲ圖リシガ三十九年内務省ニ於テ醫師會規則發布セラレシヲ以テ各郡ニ醫師會ヲ設クルコト、ナリ本郡ニ在テハ四十年六月十二日之ニ基キテ醫師會ヲ設立セリ當時郡内ノ開業醫二十二名ニシテ爾後ニ於ケル會長副會長ノ任免左ノ如シ

小豆郡醫師會 明治四十年六月十二日創立

明治四十年六月十二日就任

會長 藤井勝太

同

大正二年七月廿四日退任

副會長 佐伯泰順

大正二年七月二十四日就任

同 高橋謙吉

尙ホ現在ノ醫師ハ左ノ如シ

資格	町村名	氏名	資格	町村名	氏名
國定試驗合格	土庄町	河野貫平	國定試驗合格	土庄町	笠井百太郎
醫學專門學校卒業	土庄町	木下總長	歷	淵崎村	三水方齋
同	淵崎村	三水方直	卒醫學專門學校	同	井口和十郎
同	同	井口靜	同	同	今田立彦
國定科試驗	同	藤原逸郎	卒醫學專門學校	同	大鐸村 高橋謙吾
履	大鐸村	懸川勝馬	卒醫學專門學校	池田村	濱本房吉
醫學士	同	高橋毅	卒醫學專門學校	草壁村	矢形百一
國定試驗	池田村	柴田覺治	卒醫學專門學校	苗羽村	藤井勝太
同	安田村	難波秀二	歷	福田村	三水虎太郎

醫學部學校	坂手村	山村恒太	醫學部學校	大部村	遠藤三千二
國定試驗	大部村	頓宮正平	國定試驗	四海村	岡哲道
歷	四海村	高橋玄節	醫學專門學校	豐島村	中山敏夫
國定試驗	同	高橋學而			

第五章 衛生諸業

現在ノ從業者左ノ如シ

產婆	十三人	灸治	六人
鍼治	七人	按摩	百十四人
賣藥營業人	七人	賣藥請賣人	百八十八人
賣藥行商人	二十人		

第六章 衛生儲蓄金

明治十三年四月頻年惡疫流行ノ趣 叙開ニ達シ各府縣衛生費トシテ内帑金壹千圓宛ヲ下賜セララル因テ本縣ニ於テハ同年乙第六十五號ヲ以テ此ノ恩賜金ヲ基本トシ

外ニ相當ノ豫防費ヲ募集シテ病源ヲ未萌ニ防禦スヘキ旨ヲ達シ本郡ニ對シテハ金貳拾八圓二拾八錢四厘ヲ配付セリ是ニ於テ郡ハ十四年四月各村連合會ヲ開キ衛生費金儲蓄法施行規則ヲ決議シテ各戸ヨリ安麥一升宛ヲ十四十五ノ兩年之ヲ徵收シ總額金七百貳拾八圓六拾錢ヲ得内六分ノ一ヲ以テ豫防藥ヲ購ヒ現品ヲ郡役所ニ備ヘ他ハ儲金トナスコト、シタリ次テ二十七年土木衛生組合會ヲ組織シ主トシテ此ノ儲蓄法ニ就テ協議スル所アリ爾後種々ノ改廢ヲ經テ三十九年ニ至リ之ヲ特別會計トシテ專ラ増殖ヲ圖ルト共ニ衛生上必要ナル場合ニ支出スルコト、シ毎歲内三百圓ヲ以テ豫防藥購入資金ニ宛テ便宜藥品ヲ購入シ置キ豫防藥ハ町村役場ヘ血精藥ハ開業醫ニ原價ニテ交付スルコト、シ以テ應急ノ豫防ニ容易ナラシメ尙ホ町村ニ於テ傳染病隔離病舎建築スル場合ニハ三ヶ年以内ノ期限ヲ以テ該金ヲ貸附スルコト、セシ等銳意豫防方法ニ努メ效果頗ル舉レリ

第七章 隔離病舎

傳染病者ヲ隔離セシムル場所ハ傳染病避病院等ノ名ヲ以テ設置セシメ明治三十一年以來ハ其ノ建築費ノ半額ヲ縣庫ノ補助トナスコト、シタリ三十五年四月縣令ヲ

以テ避病院ヲ隔離病舎ト改稱ス今本郡ニ於テ新築セラレシモノ左ノ如シ

七一六

建設年月日	患者收容坪數	總坪數	經費總額	町村名
大正四年十二月	三〇	一〇二	三〇三〇	土庄町
明治二十九年六月	一二	三五五	三一九	淵崎村
同 四十一年九月	二五	四八七	八八一	大鐔村
同 二十九年六月	一六	四六〇	一〇四八	池田村
同 四十五年二月	一八	五三五	一七二〇	二生村
同 三十五年十月	一〇	一〇五	六九	三都村
同 三十七年三月	一八	八三三	一七九五	西村
大正二年七月	四二	一二二八	四二四六	草壁村
明治三十一年十月	一三六	四八三	一七四七	安田村
大正二年七月	一八	七九六	二六八一	苗羽村
明治三十三年一月	九八	三二五	一一八三	坂手村
大正二年八月	一八	五三〇	一五五八	福田村
明治三十五年十月	一一三	一六八	五〇七	大部村

第八章 種痘

同 四十年八月	一一	二六五	六〇	北浦村
同 四十五年三月	一六	五〇二	一五〇〇	四海村
同 四十四年二月	一六	四三五	一五〇八	豊島村

嘉永二年草壁村中桐文炳ハ牛痘接種ノ防疫上有益ナルヲ耳ニシ決然長崎ニ下リテ種痘ノ術ヲ研究シ痘苗ヲ携ヘ歸リテ先ヅ村内ニ之ヲ施シ其ノ效果ヲ試ミシニ成績頗ル佳良ナリ仍テ之ヲ公ニス蓋シ讃岐種痘ノ創始ナリ(玉藻略史及第十篇故人參看)明治十八年ニ至リ内務省令第十六號ヲ以テ天然痘豫防規則制定セラレ十八年十一月布告ヲ以テ種痘規則定メラル爾來春秋兩度接種ヲ施シ且ツ天然痘流行ノ兆アル時ハ更ニ臨時種痘ヲ行フヲ例トセリ

第九章 トラホーム検査

明治三十三年小學校生徒ニ對シ三十七年壯丁ニ對シトラホーム検査規定ヲ設ケ毎年壯丁ハ二回生徒ハ一回検査スルコト、ナレリ

第十章 公衆衛生

一般公衆ノ衛生思想ヲ涵養セシメガ爲メ明治四十四年以來衛生展覽會ヲ大正四年七月通俗衛生演劇ヲ各村ニ開催セシメ何レモ良好ノ成績ヲ見タリ尙ホ毎歲豫防消毒ノ爲メ冬期並ニ夏期ニ於テ大清潔法ヲ行フヲ例トセリ

第十一章 各傳染病

明治維新後虎列拉病ニ在テハ十二年十五年及十九年赤痢病ニ在テハ十八年十九年二十年二十六年二十七年二十九年及四十一年ニ於ケル流行最モ猖獗ヲ極メタリ今郡役所設置以來ノ流行年別ヲ左ニ掲グ

年次	虎列拉病	赤痢病	腸窒扶斯	痘瘡	實布の里亞	計
明治十二年	一五五	〇	〇	〇	〇	一五五
同三十年	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同十四年	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同十五年	〇	〇	〇	〇	〇	〇

同十六年	一	八五	七	〇	二	九五
同十七年	二	二〇	一五	〇	一	三八
同十八年	一三	一六二	一二	〇	〇	一八七
同十九年	一六五	二四四	九一	六一	〇	五六一
同二十年	〇	三一二	四七	五	〇	三六四
同二十一年	〇	七	三四	〇	〇	四一
同二十二年	〇	九	三一	〇	〇	四〇
同二十三年	四八	九	七	〇	〇	六四
同二十四年	八	九	二五	〇	〇	四一
同二十五年	〇	一二	一二	〇	〇	二四
同二十六年	四	四二七	八	三八	〇	四七七
同二十七年	〇	五〇一	九	〇	〇	五一〇
同二十八年	六九	五六	一三六	〇	〇	二六一
同二十九年	二	四一四	四七	六	一	四七〇
同三十年	一	四一	六	四三	八	九九

明治三十一年	一	二四	一三	〇	二三	六一
同 三十二年	四	一一	一七	〇	二〇	五二
同 三十三年	〇	六	一一	一	一九	三七
同 三十四年	〇	二	一六	〇	七	二五
同 三十五年	一〇八	五九	二	〇	六	一七五
同 三十六年	〇	三四	七	〇	一〇	五一
同 三十七年	〇	八	五	〇	八	二一
同 三十八年	〇	〇	六	〇	三	九
同 三十九年	〇	〇	七	〇	三	一〇
同 四十年	三	八〇	四	〇	五	九二
同 四十一年	〇	四四九	二	二	一五	四八六
同 四十二年	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同 四十三年	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同 四十四年	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正元年	一	一四九	一〇	〇	九	一六九

七二〇

同 二年	一	二七	四	〇	三	三五
同 三年	〇	一一二	四	〇	二	一一八
同 四年	一	六六	五	〇	六	七八
合計	五八七	三三四〇	一〇〇	一七四	一五一	四三五二

第廿五編 土木

幕府時代ニ在テハ道路及河川ハ石高ニ應シテ農民ヨリ米穀ヲ徵收シ以テ之カ修理ノ用ニ充ツ寛文四年大阪町奉行支配ノ節彦坂壹岐守出張シテ大檢地ヲ行フニ當リ農民池溝ヲ設ケテ水利ヲ得シガ其ノ後元祿及ビ天保年間ニ於テ各農家ヨリ普請扶持米ヲ徵收シテ池川道路橋梁等ノ修理費ニ充テタルカ如シ

維新後ニ在テハ土地總代ヲ置キ土木ニ關スル工事ノ監督ヲナサシメタルコトアリシモ明治五年ニ至リ從來ノ土工法ヲ

改メ一切村方ノ自普請トセリ是ヲ以テ官納米ヲ廢シ普請入費米ト稱シテ之ヲ徵收シテ戸長ニ於テ自普請取計方規則ヲ定メタリシカ同年十一月自普請ノ方法ヲ國役ト區役トニ分チ國役ハ大川堤防往還橋梁修繕區役ハ溜池及ヒ臨時ノ修繕トシ國役ノ費ハ米ニテ官納セシメ區役ハ水掛ニ割賦セシム次テ七年之ヲ改正シテ凡ソ大川海岸ノ堤防往還道路及溜池臨時ノ修繕ハ每村ニ於テ之ヲ調査シ大區長ニ申請セシメ大區長ハ土工取締役ヲ巡回セシメ人歩ヲ見積リ之ヲ大區會ニ附シ人夫賃錢ノ總高ヲ大區割トシテ納付セシムルコト、セリ十二年地租ノ改正アリ田地用水ニ係ル溜池臨時ノ修繕ハ毎水掛ノ組合普請トシ大川海岸ノ堤防縣道橋梁ノ修繕ハ縣費普請トス

文化年間百姓代年寄庄屋ノ連名ヲ以テ倉敷代官所へ小豆島

村々官費自費御普請舊來明細寫壹冊ヲ提出ス右ハ明治五年壬申年戸長ノ與書ヲ附セルモノニシテ本郡ノ土木工事ハ此ノ明細書ニ依リテ官民費ノ別ヲナセシト云フ(但シ本書ハ郡役所ニ藏セリ)

明治二十三年以來郡費ヲ以テ起工セシ里道改正ハ實ニ本郡ノ一大事業ニシテ今後數年ヲ經レハ腕車ヲ以テ郡ヲ一周シ得ヘシ

左ニ溜池垣牆縣道里道橋梁隧道及ヒ御寄泊記念園等郡ノ經營ニ係ル土木ノ工事ニ關シテ記述スベシ

第一章 溜池

本郡ハ河流少ナキヲ以テ溜池多シ今其ノ大ナルモノ二三ヲ掲ク

一、蛙子池 所 在大鐔村大字肥土山字蛙子山

周 圍 三千七百八拾六尺

深 四十八尺
灌溉田面 八拾五町步
竣工 貞享三年

蛙子池記

池名爲蛙子。在吾小豆島大鐸村肥土山里山中潤凡拾町壹段餘步深四拾八尺。田園仰灌溉者八拾五町餘步。其域跨肥土山黑岩上庄潤崎諸里。而貯水之量足以七周云。天和中。舊肥土山村庄屋伊左衛門翁太田典德。主議創斯池爲自畫計。諸里吏民僉贊其方案。四年甲子三月。選得官許費工者七千六百七十二人。閱三歲而成。所費課諸資水之田園。但造開之費官永給之。嗚呼翁一小里胥也。而能與斯工。蓋出于其才行乎。人可以想也。當既爲翁立祠二宮社。地今復謀建碑以傳跡不朽並里民之志也。運適爲本郡々長因見囑記。運治職之間親于翁而常私有忸怩。則何敢自當其囑。然令翁之事功有得明。則後之吏于吾島者。亦或有以足警其平生者。是運之志也。乃敢作之記。

明治二十六年七月二十九日

小豆郡長從七位森運振並書

二、猪谷池 所在 草壁村大字上村字猪谷

周 園 千貳百七拾尺
深 四十八尺

灌溉田面 三拾五町五段步
竣工 享保三年

本池ハ享保年間久保三左衛門主トシテ築造セリト云フ

三、大 池 所在 池田村大字池田

周 園 貳千百壹尺
深 十三尺七寸

灌溉田園 貳拾町

竣工 不詳

本池ノ築造年代及ヒ築造代表者不明

第一章 猪鹿垣牆

郡内ハ由來山岳重疊セルヲ以テ猪鹿多ク栖息シ農作物ヲ害スルコト少ナシトセス草壁村上村ノ里正村上彦三郎大ニ之ヲ憂ヒ山林ト田園トノ境界ヲ區劃シ垣牆ヲ設ケ以テ其ノ害ヲ防禦センコトヲ案シ之ヲ各村ニ謀リ其ノ贊成ヲ得タルヲ以テ或ハ石ヲ積ミテ垣トナシ或ハ土塚ヲ造リテ牆トナシ遂ニ全島ヲ一周セシム而シテ其ノ

通路ニ跨ル所ニハ關門ヲ附シ夜ハ之ヲ閉ツルヲ例トシ農民交代其ノ任ニ當ル工成
リテ後猪鹿ノ被害ヲ免ル、コトヲ得タリ土人ハ此ノ垣牆ヲ猪垣ト稱ヘ關門ヲ猪門
又ハ雅良々々木戸ト云フ抑コノ擧タルヤ本郡未曾有ノ大工事ニシテ垣牆ノ延長三
十里ノ長キニ亘リ且ツ四十ノ村落ニ跨レルニモ拘ハラス着手後期年ナラスシテ克
ク竣工ス是レ寛政二年ニシテ亦以テ當時ノ小豆島ガ一致團結力ノ強大ナリシヲ追
想スヘシ越エテ文政六年彦三郎死後三十三年ニ當リ島民ハ碑ヲ立テ、其ノ德ヲ表
ス因ニ明治八年ニ至リテ獸疫流行シ猪鹿殆ント斃歿シタルカ故ニ垣牆自ラ無用ニ
歸シ不用ノ垣牆ヲ他ニ利用スルニ至レリ(第十篇故人及小豆島名所圖會參看)

第三章 港灣

本郡ニ於テハ港灣渺ナカス今由緒ノ著シキモノ及ヒ郡庫以上ノ補助アルモノヲ記
載スルコト、ス

- 一、琴塚港突堤 琴塚港ハ大部村ニ屬シ海面西ニ向ルヲ以テ西北ノ暴風アルトキ
ハ難ヲ此港ニ避クルモノ多シ明治十五年堅牢ナル波堤ヲ築ク當時ノ記ハ同地
住吉神社ノ社殿ニ掲ケアリ即チ左ノ如シ(第十三篇兵事參看)

琴塚港ノ由來

昔年豐太閣朝鮮御征伐の時此浦に藤原喜左衛門といへる大工の棟梁のありけるに御
船を造らせらるゝ其功によりて此港を築かせ給はりしと云ふ其永く連りたるを知る
べし後天保年間大破に及びしが備中倉敷御支配たりし時に諸所へ訴へ許可を得て
是れが修繕を加へし以來船舶の往復風波の爲めに災害を免るゝこと數ふるに違あ
らず特に近時開明に際し船舶の數日に月に増加するが故に其害を免る者亦少からず
其港は小なりと雖も其效は最大なりといふべし依て此度有志輩出し合せ官許を得て
舊在來の波戸より横座八間上留二間長さ底十三高さ二丈五尺滿潮一丈七尺最淺一丈
三尺副波戸を新築し一層船舶の便利に供せんとするに當り近隣其有效なるを知りて
左にかゝくる通り各厚志を副へられ金員若干を寄贈せらる本日竣工に至つては獨り
我琴塚の幸福にあらずして遠近船舶の幸福といふべし依て聊か鄙意を表して以て江
湖に告ぐるゝこと然り

明治十五年五月

世話人一同再拜

二、下村港突堤 所在 草壁村大字下村

工事期間 明治三十五年一月著手三十六年一月竣工
港内面積 一萬一千坪

工 費 壹萬九千四百四圓拾七錢五厘

內

縣費補助 七千七百七拾七圓六拾七錢

郡費補助 九百七拾貳圓貳拾錢九厘

村 債 六千六百九拾四圓貳拾九錢六厘

村 寄附 四千圓

三、土庄港浚渫 在 所 土庄淵崎間海峽

工事期間 明治三十五年二月着手三十六年三月竣成

港內面積 三萬九千坪

浚渫面積 壹萬四千四百七坪七合五勺

浚渫ノ深サ 干潮面ト同一

工 費 壹萬壹千八百八拾參圓五拾六錢七厘

內

縣費補助 四千七百五拾參圓四十貳錢七厘

郡費補助 九百五拾圓六拾八錢五厘

四、土庄港築堤

所 在 土庄町字吉ヶ浦 (第九篇交通參看)

工事期間 明治四十三年一月十一日着手四十四年十二月十八日

竣工

築堤延長 長百三間 幅六間

機橋各種 長百七十一尺 幅十五尺

工 費 貳萬三千百四拾貳圓八拾三錢

內

縣費補助 五千參百圓

郡費補助 壹千貳百圓

寄附金 貳百圓

町 稅 壹萬六千四百四拾貳圓八拾參錢

第四章 縣道

明治六年國縣道ノ制ヲ布カレシモ當時本郡ニハ之ニ該當スルモノナカリシカ二十年十月十四日ニ至リ土庄線ヲ三十一年八月五日ニ至リ坂手線豫テ改修セシ里道ヲ縣道ニ編入セラル即チ左ノ如シ

線路名	起點	終點	主ナル經過地	延長	面積	積
土庄線	小豆郡役所	吉浦港	土庄村	九町四十間四分	千六百六十五坪五分	
坂手線	縣道土庄線	坂手港	淵崎池田 草壁 苗羽	四里廿九町卅四間五分	一萬六千二百三坪	

縣道改修工事調査

施行年度	同區域	延長	面積	積	工事費
明治四十年	池田村大字池田	九七、九二	二四四、八〇	五七〇、	
同	苗羽村大字苗羽	五一四、七八	一二八六、九五	五〇〇、八	
同	坂手村	五二、五〇	一〇五、〇〇	一五三、	
同	西村	三一六、一四	七九〇、三五	三三二、二	
同	苗羽村大字苗羽				

第五章 里道

同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十四年度	四十三年度	四十二年度	四十三年度	四十一年度	四十年度	三十九年度	三十八年度	三十七年度
土庄町	池田村大字池田	池田村大字室生	二生村大字室生	西村	池田村大字蒲生	池田村大字蒲生	池田村大字蒲生	池田村大字蒲生
一七、〇〇	九五一、九四	四七五、八〇	四八九、九〇	一三六、四〇	三〇五、二三八	七、一一一、一五	二、三、五、五、一、	九〇〇、
一〇二、〇〇	二、三七九、八五	九五、一六〇	九七七、八〇	二七二、八〇	七、一一一、一五	二、三、五、五、一、	二、三、五、五、一、	五、五、八、四、
	五、一、六、三、	一、五、二、五、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	五、一、六、三、
	五、一、六、三、	一、五、二、五、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	一、三、二、三、	五、一、六、三、

從來本郡ニ於ケル道路ハ幅員狹隘ニシテ屈曲多ク高低甚タシ從テ一モ車道トスヘベキモノナカリシカ故ニ明治十九年ニ於テ各村連合會ハ本郡里道ノ改修ヲ決議シタリ其ノ要項左ノ如シ

- 一、土庄ヲ起點トシ淵崎蒲生池田西村下村片城安田苗羽ヲ經テ坂手ニ達スルモノ
- 二、土庄ヲ起點トシ淵崎上庄黒岩肥土山馬越屋形崎見目小海ヲ經テ大部ニ達スルモノ
- 三、土庄ヲ起點トシ淵崎伊喜末ヲ經テ小江ニ達スルモノ

右三線ハ各線中往來最モ頻繁ナルヲ以テ郡費ヲ以テ車道ニ改修シ他ノ村ヨリ村ニ通スルモノハ一里ニ付三十五圓ヲ郡ヨリ各村ニ補助シ各村適宜ニ改修セシムルコト、ス而シテ先ツ三線路ノ測量ヲナスコト、セリ

明治二十三年九月縣ハ訓令ヲ以テ里道改修補助規程ヲ設ケ郡市町村費ヲ以テ里道ノ改修ヲナスモノニ對シ縣費ヲ以テ平地部ハ總工費ノ三分ノ一山間部ハ二分ノ一ヲ補助スルコト、セリ

郡内ニ於ケル改修ハ明治二十三年十一月ニ於テ工事ニ着手シ翌二十四年七月第三綿路中四海村小江成工シ二十六年一月第一線路中西村竣成シ二十七年第一線路中淵崎村大高下竣工シ爾來各線トモ年ヲ逐ウテ工ヲ起シ月ヲ逐ウテ工ノ成ルアリ二十七年各村聯合會ヲ解キ各村土木衛生組合會ヲ設ケ里道改修ノ件ヲ附議スルコトトス

次デ三十四年一月ニ至リ郡令ヲ以テ里道改修規則ヲ定メ郡費ヲ以テ改修スル里道ノ豫定線路ヲ設ケ其ノ線路ノ内縣費ノ補助アル道路ニ限リテ起工シ改修工事ノ竣工ニ至ルマデ繼續事業トシ該費金ハ郡費及ビ關係町村又ハ大字若クハ有志ノ寄附並ニ縣費補助金ヲ以テ之ニ充ツルコト、ス而シテ郡費負擔金額ハ毎年度千五百圓

以上二千圓以内ト制限シ寄附金ハ改修費總額ニ對シ百分ノ十トス又町村ニ於テ工事ノ急施ヲ要スル場合ハ百分ノ二十ヲ出ストキハ特ニ起工スルコト、セリ前者ヲ甲種道路ト云ヒ後者ヲ乙種道路ト云フ乙種道路ニ對シテハ郡費ノ負擔額ハ毎年度金五百圓以上千圓以内トシ主トシテ其ノ地元ノ寄附金ヲ以テ起工セシムル方針ヲ採レリ是レ本郡ノ地勢上完全ナル一線路ヲ改修スルヨリモ寧ロ多少不備ナルモ數條ノ線路ヲ速修セシムルコト必要ナルト且ツ改修工事經濟上ノ利便ヲ考慮シタルトヲ以テナリ

尙ホ里道改修規則ニ定メタル豫定線路左ノ如シ

線路名	起	終	主ナル經過地
四海線	淵崎村ニテ縣道分岐	四海村大字長濱	伊喜末 小江
佛崎線	土庄町郡役所前	土庄町佛崎	土庄東濱
豐島線	土庄町ニテ縣道分岐	豐島村大字家浦	土庄小瀬 豐島唐櫃
北浦線	淵崎村大字上庄	福田村大字福田	大鐔北浦 大部
長濱線	淵崎村大字淵崎	北浦村大字屋形崎	長濱瀧宮馬越
淵崎線	淵崎村大字淵崎	淵崎村大字赤穂屋	縣道接續

大鐸線	淵崎村大字淵崎	大鐸村大字肥土山	池田二生蒲野
神浦線	大鐸村大字肥土山	三都村大字神浦	
濱條線	池田村字平木縣道	池田村字濱條	縣道接續
室生線	二生村大字室生	二生村字室生時縣道接續	縣道接續
蒲野線	三都村大字蒲野	西村	縣道接續
寒霞溪線	草壁村大字上村	草壁村大字上村	寒霞溪線接續
片域線	草壁村片城	草壁村大字上村	福田線接續
植松線	安田村大字安田植松	安田村大字安田	苗羽村馬木
安田線	安田村大字安田	苗羽村字横田縣道	古江堀越
田浦線	苗羽村大字苗羽縣道	苗羽村大字田浦	安田當濱
福田線	草壁村大字片城	福田村大字福田	

明治三十六年四月縣ハ土木費補助規則ヲ發布シ嚮ノ補助方法ヲ改メ工事費中潰地買取費地上物件移轉料ヲ除キタルモノニ對シ平地部ハ百分ノ五十五山間部ハ百分ノ六十ヲ補助スルコト、ナリシガ更ニ四十二年二月ニ至リ郡令ヲ以テ里道改修規則中豫定線路ヲ左ノ如ク改正追加シタリ

里道改修規則中豫定線路改正

線路名	起	點	終	點	主ナル經過地
豐島線	土庄町縣道分岐		豐島村大字唐櫃		小瀬唐櫃家浦甲生
四海線	淵崎村縣道分岐		四海村大字伊喜末		伊喜末小江長濱
大鐸線	同		大鐸村大字笠ヶ瀧		肥土山小馬越
三都線	大鐸村大字肥土山		三都村大字吉野		池田二生蒲野神浦
神懸線	草壁村大字下村縣道分岐		大部村大字大部		上村神懸山
鹿島線	土庄町大木戸		土庄町字小瀬		鹿島柳千軒
内海線	池田村大字中山		草壁村大字上村		神懸山西石門
岡條線	池田村大字池田縣道分岐		池田村大字池田藤前寺		岡條
清水線	西村字清水縣道分岐		西村字日形縣道		御寄泊記念碑前
倉掛線	北浦村大字見同		大鐵村大字肥土山		
瀧宮線	四海村太字長濱妹尾峠		北浦村大字馬越		瀧宮
二面線	二生村大字二面		二生村大字二面化池		

明治四十四年一月里道改修規則中郡費ノ負擔金額ヲ毎年度二千圓以上三千圓以內

トシ甲種乙種ノ區別ヲ廢シ寄附金ハ何レモ改修費總額ノ百分ノ二十トセリ是レ里道改修ニ當リ最モ急ヲ要セシモノハ略竣工セシト郡費ヲ要スル事業頻繁ニシテ獨リ道路ニノミ多分ノ金額ヲ支出シ難キトニ因ル

從來里道改修ニ對スル縣費ノ補助ハ其ノ線路ニ就テ概算ヲ以テ之ヲ決シ其ノ線路ノ工費ニ割當ツルモノナレバ或時ハ其ノ歩合ニ不足ヲ生ジ一時工事ヲ中絶スルモノアリ從テ該線路ガ一部分未改修ノ爲メ全線ノ利用出來難クシテ多大ノ工費ヲ投シ乍ラ空シク次年度ノ縣費補助ヲ減ツノ場合ヲ生シ不利不便尠カラズ是ニ於テ大正元年十二月郡會ニ於テ里道改修規則ニ改定ヲ加ヘ里道改修規則ニ編入セラレタル線路ニシテ其ノ改修工費少額ノモノ及ヒ速成ヲ要スル工事ニシテ縣費補助ニ相當スル金額並ニ其ノ町村ノ負擔スヘキ規定ノ寄附ヲナスヘキ條件ヲ附シテ起工ノ申請ヲナシタルトキハ之レヲ起工スルコトアルベシト變更セリ

小豆郡里道改修規程

第一條 郡ニ於テ改修スル里道ハ左記各豫定線路ニ限ル

一佛崎線 土庄町字東内濱字東元濱ヲ經テ字南郷海岸ニ達ス

一豐島線

土庄町字吉ヶ浦ニテ縣道土庄線ヲ分岐シ同町字小瀬及豐島村大字唐櫃家浦甲生ヲ經テ大字唐櫃ニ廻週シ同所字此ニテ豐島線ニ

一鹿島線

土庄町字大木戸ニテ豐島線ヲ分岐シ字鹿島柳千軒ヲ經テ字小瀬ニテ豐島線ニ接續ス

一土庄綿

土庄町字東内濱ニテ縣道土庄線ヲ分岐シ字半ノ池上ヲ經テ字鹿島線ニ接續ス

一四海線

淵崎村大字淵崎ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ四海村大字伊喜末小江長濱ヲ經テ大字伊喜末ニ廻週シ四海線ニ接續ス

一長濱線

淵崎村大字淵崎ニテ四海線ヲ分岐シ四海村大字長濱瀧ノ宮及北浦村大字馬越ヲ經テ屋形崎ニテ北浦線ニ接續ス

一淵崎線

淵崎村大字淵崎ニテ四海線ヲ分岐シ字赤穂屋ニテ縣道坂手線ニ接續ス

一大鐔線

淵崎村大字淵崎字赤穂屋ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ大鐔村大字肥土山小馬越笠ヶ瀧ヲ經テ淵崎村大字上庄ニ廻週シ大鐔線ニ接續

ス

一北浦線

淵崎村大字上庄ニテ大鐸線ヲ分岐シ大鐸村北浦村大部村ヲ經テ
福田村大字福田ニテ福田線ニ接続ス

一神浦線

大鐸村大字肥土山ニテ大鐸線ヲ分岐シ池田村二生村三都村大字
蒲野神浦ヲ經テ吉野ニ廻週シ神浦線ニ接続ス

一内海線

池田村大字中山ニテ神浦線ヲ分岐シ草壁村大字上村ニテ神懸線
ニ接続ス

一岡條線

池田村大字池田字河原ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ字岡條ヲ經テ字
東畑ニテ神浦線ニ接続ス

一上地線

池田村大字池田字上地ニテ神浦線ヲ分岐シ明王寺前ニテ縣道坂
手線ヲ經テ字迎地ニテ神浦線ニ接続ス

一濱條線

池田村大字池田字平木ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ字濱條ニテ神浦
線ニ接続ス

一室生線

二生村大字室生ニテ神浦線ヲ分岐シ同大字ニテ縣道坂手線ニ接
續ス

ス

一二面線

二生村大字二面ニテ神浦線ヲ分岐シ字化池ニテ蒲野線ニ接続ス

二蒲野線

三都村大字蒲野ニテ神浦線ヲ分岐シ西村ニテ縣道坂手線ニ接続
ス

一清水線

西村字清水ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ御寄泊記念園前ヲ經テ字日
形ニテ縣道坂手線ニ接続ス

一神懸線

草壁村大字下村ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ神懸山ヲ經テ大部村大
字大部ニテ北浦線ニ接続ス

一東神懸線

草壁村大字上村字柴中ニテ神懸線ヲ分岐シ字猪ノ谷高瀬ヲ經テ
字嶮岨山ニテ神懸線ニ接続ス

一片城線

草壁村大字片城ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ上村ニテ神懸線ニ接続
ス

一福田線

草壁村大字片城ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ安田村ヲ經テ福田村大
字福田ニテ北浦線ニ接続ス

一植松線

安田村大字安田ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ同大字ニテ福田線ニ接
續ス

一 安田線 安田村大字安田ニテ福田線ヲ分岐シ苗羽村大字苗羽字馬木ヲ經

テ字横田ニテ縣道坂手線ニ接続ス

一 田浦線 苗羽村大字古江ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ堀越ヲ經テ田浦ニ達ス

一 東浦線 坂手村ニテ縣道坂手線ヲ分岐シ字徳本ヲ經テ安田村大字橋ニ至

リ福田線ニ接続ス

一 倉掛線 北浦村大字見目ニテ北浦線ヲ分岐シ大鐸村大字肥土山ニテ大鐸

線ニ接続ス

一 瀧宮線 四海村大字長濱妹尾峠ニテ長濱線ヲ分岐シ大字瀧宮ヲ經テ北浦

村大字馬越ニテ北浦線ニ接続ス

第二條 前條各線路ノ改修ニ要スル費用ハ左ノ區別ニ據ル

一 甲種 郡 費

縣費補助金

總工費土工費ニ對スル各百分ノ二十ノ寄附金

二 乙種 郡 費

縣費補助規程ニ定ムル最高歩合ニ相當スル寄附金

總工費及土工費ニ對スル各百分ノ二十ノ寄附金

三 丙種 第三條ニ該當スルモノ

第三條 事業費ニ對シ特別ニ寄附アルタメ郡費ノ負擔ヲ要セザルトキハ特ニ工
事ヲ執行スルコトアルベシ

第四條 改修費ニ充ツベキ郡費負擔金額ハ毎年度金四千圓以內トス

第一號ノ改修ニ當リ縣費補助ナキトキハ其ノ幾分ヲ特ニ寄附セシメ之
ニ代フルコトアルベシ

第五條 改修起工ニ就テハ關係町村ノ意見ヲ徵スルコトアル可シ
附 則

第六條 本規程ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

尙ホ明治二十三年度以來ノ里道改修工事ノ成績左ノ如シ但シ起工ノ順序ニヨリテ
掲グ

四海線 (元三線路ト稱ヘシモノ) (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
明治二十四年度	四海村大字伊喜末	八七 ^四 、三	一、三〇五 ^四 、〇〇	三四 ^四 、	一一 ^三 、

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
明治二十四年度	四海村大字小江	110,0	310,00	57	175
同	四海村大字伊喜未	186,5	279,75	33	18
同	淵崎村大字淵崎	260,7	391,00	74	24
同	同	240,0	476,00	269	89
同	四海村大字伊喜未	81,0	89,10	48	16
同	同	245,8	477,86	145	59
同	同	38,6	388,32	96	47
大正二年度	四海村大字長濱	47,2	72,00	192	88
同	四海村大字伊喜未	130,9	228,26	299	129
同	四海村大字小江	174,7	355,72	106	1
合計		2,956,7	4,803,21	894	3,394

坂手線 (元第一線ト稱ヘシモノ) (完成)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
明治二十四年度	淵崎村大字淵崎	294,0	441,00	254	85
同	池田村大字蒲生	145,0	235,00	89	29
同	池田村大字池田	598,5	897,75	562	187
同	二生村大字室生	644,5	933,00	446	148
同	西村	446,5	644,75	371	131
同	草壁村大字下村	220,0	355,00	334	108
同	淵崎村大字淵崎	266,4	399,60	244	81
同	池田村大字蒲生	333,5	498,75	82	27
同	同	131,0	196,50	82	37
同	池田村大字池田	62,0	93,00	13	4
同	同	320,5	465,75	71	24
同	二生村大字室生	333,0	495,50	35	11
同	同	31,5	47,25	13	4
同	二十五年度 土庄町	136,0	285,50	129	43
同	池田村大字蒲生	793,0	1,189,50	96	33
同	池田村大字池田	987,5	1,481,25	309	103
同	二生村大字室生	183,0	274,50	31	10

明治二十五年	西村	八六、五	二九、七五	四一六	一三八
自同二十六年	草壁村大字下村片城	六七、〇	一〇〇、八〇	一〇六	三五
同	安田村大字安田	三三、五	四八三、七五	三〇	一〇
同	苗羽村大字苗羽	九〇、〇	一、〇八一、一〇	一三三	四一
同	坂手村	三〇六、一	五三、三六	二、一〇七	九六一
合計		七、八四三	一〇、七六、五五	五、九四四	二、二五七

大鐸線 (元第二線路ト稱ヘシモノ、内) (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事事	縣費補助金
明治二十四年度	淵崎村大字淵崎	一、二四五、二	一、八六七、八〇	一九五	六五
同	大鐸村大字黒岩	四一、〇	五四九、四〇	五〇	一六
同	大鐸村大字肥土山	四八、五	三四七、一〇	一四四	四八
同	淵崎村大字上庄	五、〇	一一七、〇〇	三六	二二
自同四十一年	大鐸村大字肥土山	二〇五、二	四〇六、四〇	一、〇六一	三七〇
自同四十二年	同	九、一	一八、二〇	一、二〇九	六〇九
自同四十三年	大鐸村大字黒岩	三三三、〇	六六六、〇〇	一、二四二	五八九

自同四十四年	大鐸村大字黒岩	二四四、八	四八九、六〇	一、四二五	六九六
合計		三、〇三〇、八	四、四六一、五〇	五、二六五	二、四〇九

神懸線 (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事事	縣費補助金
自同三十一年	草壁村大字上村	九二、七	一、八九九、四〇	四、八五二	二、四二六
自同三十二年	草壁村大字上村	三九七、〇	五九五、五〇	一、二四五	六〇〇
自同三十三年	同	六二〇、四	九三〇、六〇	二、〇五六	一、一四八
自同三十四年	同	六二、二	七九五、八六	六八一	三九五
同	草壁村大字上村	四八〇、四	六〇〇、五〇	五七二	—
同	大部村大字大部	一五九、一	二六五、一六	九八八	—
同	草壁村大字上村	五七、九	八六、八五	六九	—
合計		三、二五六、七	五、一三三、八七	一〇、四六五	四、九〇八

北浦線 (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事事	縣費補助金
自同三十三年	大鐸村大字小馬土山	一、三九三、五	二、七六七、〇〇	三、一〇〇	一、五二一

明治三十三年度	北浦村大字 <small>馬形崎</small>	六五九、五	一、三九、〇〇	二、〇一五	九九二
自同	北浦村大字屋形崎	八六四、九	一、七九、八〇	二、一六七	一、六二八
同	北浦村大字見目	七六、二	一五二、四〇	二七〇	一〇三
自同	同 村大字小海	一五、〇	三〇〇、〇〇	八四六	三二五
同	同	四二、一	八四二、二〇	五三八	二六四
自同	同	一、〇七三、九	二、一四七、八〇	五、七四一	二、七四六
自同	北浦村大字 <small>見目小海</small>	三四五、〇	六九〇、〇〇	一、三四六	六七三
自同	同	三八三、四	七六六、八〇	一、九〇五	八四四
同	同	四九七、一	九九四、二〇	二、〇六七	一、一五八
自同	同	三九六、〇	七九二、二〇	二、五五九	一、〇五四
同	同	三七、五	七五、〇〇	一、〇一八	六二〇
自同	同	三七二、六	七四五、二〇	二、八四五	一、一八〇
自同	同	七九、九	一五九、八〇	五九一	二九一
同	同 村大字 <small>小部</small>	四六七、四	七九四、五八	三、〇六九	一、五〇四
自同	同	四一、四	七〇、三八	七〇八	三〇八

同	同	大部村大字小部	三六九、五	六八、一五	二、二五三	九二〇
同	同	福田村大字福田	一三八、〇	二三四、六〇	九二〇	三七五
自同	同	同	一五八、〇	二六八、六〇	一、〇二六	三七一
自同	同	同	七、七九九	一五、二七、七一	三四、九一	一六、八九
合 計						

長濱線 (完成)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
自同 三十二年 至同 三十三年 度	四海村大字長濱	一、〇五一、〇	一、五七六、五〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇
明治三十三年 度	同	一七〇、五	二五五、七五	一、〇〇九	三三八
同	大淵村大字大淵	五八、六	八七、九〇	二二九	一四四
同	四海村大字長濱	六三、七	九五、五五	二六二	一七六
同	同	一、〇一三、四	一、五五、一〇	二、九四六	一、八六六
自同 三十四年 至同 三十五年 度	同	二二、六	三二、四〇	四四八	二三四
同	同	三五、二	五二、八〇	一、七七九	九〇八
同	同	三五、二	二九七、八八	八六四	四三二
同	同	三五、二	五二、八〇	九一	四五

明治四十年度	北浦村大字屋形崎	六四三、三	一、〇九一、九一	二、〇一五	九五〇
自同 至同 四十一年度	同 村大字馬越	四九四、六	八四〇、八一	二、六二七	一、〇五六
同 四十一年度	同	二八五、一	四八四、六七	一、三八二	五三三
同 四十三年度	北浦村大字馬越	三三九、〇	三八九、三〇	一、四一五	七一九
同 四十三年度	四海村大字瀧宮	一三八、九	二二六、一三	七九二	四〇〇
自同 至同 三十二年 三年度	四海村大字瀧宮	九七〇、〇	一、六二六、六六	三、六六四	一、五〇〇
合計		五、二九一	八、六四六、一七	二二、五二〇	一一、二七八

福田線 (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
明治三十五年	草壁村大字安田	三八一、一	六五二、九七	一、二九九	四三三
同 三十六年	安田村大字安田	三七一、九	六三二、二三	一、九九三	六六四
同 三十七年	同	五四五、七	九二七、六九	一、九五六	九二六
自同 至同 四十一年 四十二年度	同	五〇〇、八	八五一、三六	二、一三八	一、一七一
同	同	一九四、七	三三〇、九九	一、〇八四	四九七
同 四十二年	安田村大字橘	二九八、五	五〇七、四五	一、八六六	一、〇〇一

自同 至同 四十四年 四十五年度	同	一、三九、七	二、一〇七、四九	七、五二八	三、六九八
自同 至同 四十五年 四十六年度	安田村大字橘ヶ谷	六六、七	一、〇六五、三九	二、四九四	一、三六四
自同 至同 四十六年 四十七年度	安田村大字岩ヶ谷	一九一、二	三三八、六六	一、七二〇	九〇三
同 四十八年	同	六三三、四	一、〇三七、三三	四、四二二	二、〇八三
同 四十九年	同	四五〇、四	七五〇、六六	一、五二一	六九九
同 五十年	安田村大字當濱	六八六、七	一、一四四、五〇	一、八五八	七九四
合計		六、二二、八	一〇、三三六、七一	二九、八二四	一四、二九三

神浦線 (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
明治三十五年	大鐸村大字肥土山	八九、二	一四一、六四	四四八	一五四
同	同	一六三、六	二七六、四二	一、二二一	五六〇
自同 至同 三十六年 三十七年度	大鐸村大字肥土山	四九一、二	八三五、〇四	二、〇三三	一、〇一一
同 三十八年	池田村大字中山	七、五	二二、五五	四四八	二二二
同 三十九年	池田村大字池田	六八、九	一一七、一三	九八七	四九三
同 四十年	池田村大字中山	四八、八	八二、六六	二九九	九九
合計		七四九			

明治三十七年度	池田村大字池田	四二、三	七〇〇、九一	三、六二〇	一、二八〇
自同 三十六年度	同	二八二、二	四七九、七四	一、七四四	八六四
同 三十七年度	同	五、〇	七、五〇	一、二〇八	七二五
自同 三十七年度	池田村大字室生	一九、九	三三、八三	二、二六〇	一、三五六
自同 三十八年度	池田村大字室生	一九、九	三三、八三	二、二六〇	一、三五六
同 四十年度	二生村大字室生	六四、〇	一、〇四三、八〇	二、九八五	一、四二四
自同 四十一年度	同	四六、七、四	七九四、五八	五、一七〇	二、九二〇
同 四十一年度	池田村大字池田	三八、二	七六二、四〇	二、九〇六	九三一
自同 四十一年度	池田村大字吉野	八三、三	一、三三三、〇一	四、九六七	二、六六九
自同 四十二年	池田村大字池田	七三、一	一、二二〇、五七	三、一七六	一、一九七
自同 四十二年	池田村大字吉野	一三九、一	二二六、四七	九〇四	三九九
同 四十二年	二生村大字二面	四九〇、一	八三三、一七	二、九六二	一、三三三
自同 四十二年	池田村大字吉野	五二、九	八七〇、三三	二、二二一	一、二〇九
自同 四十四年度	池田村大字池田	二四九、五	四四、一五	一、〇九〇	六五四
同 四十四年度	三都村大字吉野	三〇八、九	四六三、三五	九八二	四九九
同 四十四年度	三都村大字吉野	二〇三、八	三〇五、七〇	八三三	三〇〇
大正元年度	三都村大字吉野	三〇八、九	四六三、三五	九八二	四九九
同 二年度	同	二〇三、八	三〇五、七〇	八三三	三〇〇

七五〇

自明治四十五年度	三都村大字吉野	三三、四	三三三、六〇	一、八三三	一、〇四一
自大正二年度	池田村大字池田	三〇、七	五七、八三	三、七七	一、四〇一
自同 三年度	池田村大字池田	三三、九	五四、八三	五、五五五	二、六〇〇
自同 四年度	同	二〇〇、一	三三三、五〇	七九三	一四二
同 四年度	三都村大字吉野	七、三〇九、〇	一一、三六三、九一	五八、二六〇	二五、七二五
合 計					

濱條線 (完成)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
明治三十五年度	池田村大字池田	一四七、九	二五、四三	四八八	一六五
自同 三十六年度	同	一五、〇	三〇、〇〇	一、二二四	四〇一
同 三十六年度	同	二二九、七	四七九、四〇	二、一三〇	七〇九
合 計		四〇一、六	七〇、八三	三、八三三	一、二七七

片城線 (完成)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
自明治三十五年度	草壁村大字上城村	四〇九、六	六九六、三一	三、一五二	一、〇六一
自同 三十六年度	同	四〇九、六	六九六、三一	三、一五二	一、〇六一

豐島線 (未完)

七五一

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
自明治四十一年度	豐島村大字唐櫃	三七、六	五五、九〇	二、二七四	一、一〇一
至同	豐島村大字唐櫃	四〇、八	六四、二〇	一、八六六	八五二
自同	土庄町	八〇、〇	二〇〇、〇〇	一、七五四	九四六
至同	豐島村大字唐櫃	一五、九	二四、八五	五〇〇	二二九
同	土庄町	二七、九	四九、八二	一、七六六	九四六
自同	豐島村大字家浦	六四、六	一〇九、八二	二、二〇八	八四一
至同	同	二五、七	四三、七一	七八二	三七三
自同	同	二、九一、五	三、六三、三〇	一一、一五三	五、E〇〇
至大正元年度	同	二、九一、五	三、六三、三〇	一一、一五三	五、E〇〇
合計					
施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
明治四十一年度	安田村大字安田	二九、六	八四、八〇	一、五七六	三六六
佛崎線 (完成)	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
自明治四十一年度	土庄町	三五、五	六五、〇〇	一、〇四七	三七六
至同					

田浦線 (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
自明治四十一年度	苗羽村大字堀越	三四、四	五四六、三六	一、三六六	六一〇
至同	同	三〇、五	五二、〇五	九二五	四三三
自同	同	二四、八	四二、九六	一、六五七	七四八
至同	同	二八、六	三八八、六三	一、九八七	一、〇一〇
合計		一、二五、三	一、八七九、〇一	五、九三六	二、七六二

鹿島線 (未完)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
自大正三年度	土庄町	二九、一	三八、六五	八八三	—
至同	同	五五、三	七、七、五	一、四九八	四九二
合計		七四、四	一、一六、六〇	二、三八一	四九二

岡條線 (完成)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
大正三年度	池田村大字池田	二五、〇	四二、六六	九五六	—

大正四年度	池田村大字池田	一四、九	二〇八、二六	二五四	—
合計		三七、九	六九、八二	一、三三	—

安田線 (完成)

施行年度	改修區域	改修延長	面積	工事費	縣費補助金
大正三年度	安田村大字安田 苗羽村大字苗羽	一三、五	二四、三五	八四	—
總計		四九、五〇、九	八二、一五、五	二〇八、三〇八	九、八三九

(附記) 里道改修工事擔任者ハ當初郡書記笠松信治郎ナリシカ明治廿八年郡吏員岡島太郎之ニ代ル

第六章 橋梁

橋梁ヲ記載スルニ當リ里道改修ノ前後ニ區別スルコト、セリ而シテ改修以前ニ屬スルモノハ概ネ其ノ工費ヲ記載スルコトヲ得ス但以下記載ノ永代、八幡、楊柳ハ本郡ノ三大名橋ト稱ス

- (里道改修以前ノ分)
- 一、永代橋 土庄淵崎間ノ海峽ニ架設セシモノニシテ天保九年ノ調ヘニヨレハ橋

長六間半幅七尺欄干高二尺左右柱二十八本橋下滿潮時百石以下ノ船通ズトアリ弘化二年巳六月掛替六月二十四日盛ナル橋供養ヲナセリト云フ

狂歌

作者不詳

有がたや村繁昌の永代橋通り初とはわれも満足
祖父祖母の心の内の歌びは名を永代に残すうれしき(以上小豆島三才園會參看)

明治二十二年六月三日換架式ヲ行フ是レ車道ノ便ヲ主トセシヲ以テ大船ノ橋下ニ通スルヲ得サルニ至ル

二、八幡橋 傳法川流赤穂屋ニ架設セシモノニシテ元阿彌陀橋ト稱ス

河上ハ蛙子池流ト中山殿川流トノ二線肥土山石原ニ合シテ傳法川トナリ淵崎村ヲ通リテ海ニ入ル橋柱及板石共小江千振島ニテ切出同村濱本屋平九郎ヘ代銀壹貫八百目ニテ渡シ石柱五組水底履石ニ指込石板五枚五次並橋ノ長十五間半幅一間欄干高二尺五寸左右欄干柱四十柱貫一通也一切諸入用辻四貫五百目也

天保九年閏四月八日橋供養

塔婆墳之誌之文

幸再興供養石橋爲一天四海靜謐風雨順時五穀豐熟萬民快樂矣

歌 淵崎定兵衛事肥土山金五郎盼 八代田惟和

石橋の掛る御代こそ目出たけれ壽祈る産神の道

弘化四未ノ七月十四日暴雨大水ニテ流失シ翌嘉永元申ノ春修繕架設セシ
モ同年八月八日ノ猛雨洪水ニテ又々落下セリ以來架橋ヲナサ、リシ(以上
小豆島三才圖會參看)

明治十五年森口小八郎三木方齋井上文平等發起シ長九十二尺幅十尺ノ石
橋(現在)ヲ架設シ同年六月三十日開通式ヲ舉行セリ而シテ其ノ費額金壹千
圓ニシテ全然有志ノ義捐ニ依ルト云フ

三、楊柳橋 別當川流下村ニ架設スルモノ
河上ハ神懸山ヨリ出デ下村ニテ海ニ入ル

下村柳橋長サ五間幅七尺欄干高二尺二寸弘化二年己秋九月柳橋掛替至
後年爲覺知書記者也(小豆島三才圖會參看)

(里道改修以後ノ分)

縣道架設

橋名	河川名	所在地	線路名	橋質	長	幅	架設年度	工費
楊柳橋	別當川	草壁村	坂手線	石	六、五	二尺	明治四十年	三九
永代橋	土淵海峽	土庄町	同	木	六、〇	三	同四十四年	八元
合計					三、五			一、〇四九

里道架設

橋名	河川名	所在地	線路名	橋質	長	幅	架設年度	工費
高橋川橋	高橋川	四海村	長濱線	石	一、二	九尺	明治三十三年	三
目プロ橋	目プロ川	北浦村	北浦線	同	三、〇	三	同三十四年	一八七
前川橋	前川	同	同	同	三、〇	三	同	一九九
橋川橋	橋川	同	同	同	八、〇	三	同	四九五
別當川橋	別當川	草壁町	片城線	同	七、五	二〇	同三十六年	五八三
片城川橋	片城川	同	同	同	五、〇	二〇	同	二五二
大川橋	大川	池田村	濱條線	同	一五、〇	三	同	九五四
下條橋	大川	安田村	福田線	同	五、〇	二〇	同	二七二
殿川橋	川	池田村	神浦線	同	六、〇	二〇	同三十七年	七六

寶永川橋	寶永川	二生村	神浦線	石	四、五	〇	同	四十年	三、八
桂川橋	桂川	大部村	北浦線	同	七、五	三	同	四十年	七、四
大谷川橋	大谷川	四浦村	四海線	同	二、四	〇	同	四十一年	一、四三
港川橋	港川	北浦村	北浦線	同	二、三	〇	同	年	三、六
常盤橋	殿川	大鐸村	大鐸線	同	一〇、六	三	同	年	一、一〇九
千軒橋	大川	池田村	神浦線	同	五、〇	〇	明治四十二年	五、七	
鏡川橋	鏡川	二生村	同	同	四、〇	〇	同	年	三、六二
森庄川橋	森庄川	福田村	北浦線	同	六、四	〇	同	年	五、三
伊豆川橋	伊豆川	同	同	同	四、八	〇	同	年	三、五
東橋	橋本川	大部村	同	同	三、八	〇	同	年	四、六
頓宮川橋	頓宮川	同	同	同	二、二	〇	同	年	一、四〇
中川橋	中川	同	同	同	十尺	〇	同	年	九、五
皇踏橋	大谷川	淵崎村	長濱線	同	二、五	九	同	四十四年	一〇、九
遊仙橋	別當川	草壁村	神懸線	同	六、〇	三	同	年	三、七
絢海橋	同	同	同	同	二、〇	九	同	年	六、〇

七五八

橋川橋	橋川	安田村	福田線	同	四、八	〇	同	年	二、九四
目島橋	藥香川	四海村	長濱線	同	二、五	〇	同	年	一、五
神懸橋	別當川	草壁町	神懸線	同	六、〇	三	同	四十五年	四、〇〇
城石橋	岩谷川	安田村	福田線	同	三、〇	〇	大正二年	三、九	
馬木橋	大川	苗羽村	安田線	同	五、〇	九	同	三年	四、三
合計					一四、七				二、四四

第七章 隧道

本郡里道線路中隧道二個所アリ即チ左ノ如シ

隧道名	所在地	線路名	隧質	長	幅	開隧年度	工費
城山隧道	池田村境	神浦線	石	一四九尺	一〇尺	明治三十八年	三、〇五九
高坂隧道	池田村	同	同	一九七	一〇	大正四年	五、三八五
合計							八、四四四

第八章 御寄泊記念園

明治二十三年四月十八日 明治天皇吳佐世保兩軍港へ行幸ノ途次本郡内海灣ニ御寄泊シ給フ實ニ千歳ノ一遇ナリ爾來郡民ハ斯ノ洪恩ヲ永久ニ傳ヘンガ爲メ園ヲ設ケテ御製ヲ彫ミタル一大記念碑ヲ建設シ毎年四月十八日ヲトシ園内ニテ嚴肅ナル記念式ヲ舉行ス依テ之ヲ御寄泊記念園ト稱ス

園ハ西村字清水海岸ニ在リテ敷地六百餘坪中央ニ聳ヘタル碑石ノ高サ十三尺台石十尺總高二十三尺ニシテ石材ハ同地山林ヨリ採掘シタル花崗石ニテ成リ石工ハ池田村明田作五郎ナリ明治三十八年十一月十二日盛大ナル建碑式ヲ舉行シタリ(第二編皇室ノ恩榮第八編名所舊蹟參看)

第廿六編 交通

本郡ハ四邊海ヲ環ラスヲ以テ舟楫ノ便極メテ宜シキモノアリ然レトモ和船構造ノ不備ナル(一本帆柱)時代即チ明治七八年頃マテハ播磨灘ヲ航スルモノ冬季ハ必ス備前牛窓ニ渡リ順風又ハ順潮ヲ待ツテ出帆スルヲ例トセシガ故ニ大阪ニ航

行スルニ十數日ヲ費スコトアリシト云フ陸上ニ在テハ從來乘輿又ハ馬背アリシト雖モユハ醫師又ハ病者ニアラサレハ使用セス交通最モ不便ナリキ今ヤ海ニ汽船アリ陸ニ人車自轉車アリ且ツ通信上ニハ電信電話アリテ往日ノ不便ハ夢物語トナル誠ニ昭代ノ賜ナリ今海陸交通ノ狀況ヲ掲ク

第一章 郵便電信

我邦郵便事務ハ明治五年ノ創始ニ係リ當時驛遞局ノ所管ナリシガ其ノ取扱ハ地方廳ニ於テ之ヲ管理シタリ十六年ニ至リ農商務省ノ所管ニ歸シ地方ノ管理ヲ離レ後十八年遞信省ヲ置カレ郵便電信及管船ノ事務悉ク同省ノ管理ニ歸スルコト、ナレリ本郡ニ始メテ郵便取扱所ヲ置カレシハ明治七年ニシテ十三年郵便局ト改稱シ爾來數ヶ所ニ設置セラル、ニ至レリ左ニ各局ノ位置及事務開始ノ年月ヲ示サン尙ホ海底電線(庵治觀音崎土庄木香間)ノ架設ハ二十九年十二月七日ニシテ電信開始ハ三十年十月ナリ

局名	郵便開始年月	電信開始年月	電話開始年月	切手賣 捌所數	局長氏名
土庄	明治七年三月一日	明治三十年十月十一日	明治四十二年十一月十六日	一五	大森 初三
池田	同 年十二月十六日	同 四十年三月十一日	同 四十四年八月廿一日	一五	柴田庄太郎
草壁	同 卅四年三月二十日	同 四十二年三月六日		〇	八木 庫太
安田	同 七年二月十七日	同 三十四年三月一日	同 四十二年十一月十六日	一八	高橋和三郎
坂手	同 十六年十二月十日	同 四十三年十二月十日	同 四十四年八月廿一日	一	武井平太郎
福田	同 七年一月二日	同 四十三年十二月十日	同 四十四年八月廿一日	六	高橋淺次郎
大部	同 十五年十一月十六日			〇	三 佐藤 松吉
四海	同 七年十二月十六日			〇	一一 九富林 三
家浦	同 九年六月一日			〇	四 片山勝三郎

大正四年末郵便貯金口數及金高左ノ如シ

局名	郵便貯金口數	同上金高
土庄	三、五五五	三〇、八八、四四元
池田	三〇、九四六、九七二	三、七四四
安田	八、〇三〇、〇〇〇	一、八四三
坂手	〇	一、八九五
福田	〇	八、一八、五九六

局名	郵便貯金口數	同上金高
土庄	〇〇	八七、四四三
池田	八、二一四	一四、二八〇
草壁	〇〇	四二、四六一
安田	〇〇	二六、七三六
坂手	〇〇	六八、七〇九
福田	〇〇	九二、七二七
四海	〇〇	一三、七八一
家浦	〇〇	二四、六二二
大部	〇〇	三三、七〇一
合計	一〇、五二九	二六二、八八九

明治十年以後ノ郵便電信小包郵便發着數ヲ局別ニ示セバ左ノ如シ(右引受數)

局名	明治十年	同二十年	同三十年	同四十年	大正四年	同年小包	電報
土庄	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
池田	六、〇四二	九、四三二	四二、四六一	一、二五、八三九	二、五〇、四七二	一、七五、四	一、二、二四
草壁	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
安田	〇〇	〇〇	六八、七〇九	一、六七、七六五	三、二一、九五四	四、一四、七八	四、八、九四
坂手	〇〇	〇〇	九二、七二七	二、三三、〇〇二	三、二一、九五四	四、一四、七八	四、八、九四
福田	〇〇	〇〇	一三、七八一	三、九二、二七七	一、〇三、九一二	九、一〇、八	三、四、八
四海	〇〇	〇〇	二四、六二二	五、八、三一七	一、〇七、〇九八	一、五二、九	一、二、二九
家浦	〇〇	〇〇	三三、七〇一	七、八、八五二	一、〇七、〇九八	一、五二、九	一、二、二九
大部	〇〇	〇〇	二二、五四六	四、四、一三三	六、二、二〇八	六、六、一	〇〇
合計	七、四七〇	一六、七八二	二六八、五〇二	六、三六、八八八	一、八三、〇〇〇	一、二、九一五	一、七、九八六

本郡ニ汽船ノ寄港セザリシ際ニ在テハ郵便物ハ總テ土庄及小江ヲ經テ高松及牛窓

ニ向ケ押切船ニテ發送シ復路亦郵便物ヲ積ミ歸リ兩局ヨリ各村へ配達ス其ノ方法ハ例ヘバ安田局ニテハ一ヶ月九回(二、五、八日)取扱ヒ土庄局及ビ福田局ヨリ差立テタル脚夫ト安田局ヨリ差立テタル脚夫ト途中郵便物ヲ交換シテ歸局ストイフガ如キ状態ナリキ三十五年七月高松土庄三幡間ヲ往復スル汽船ノ寄港スルニ及ンデ高松及岡山方面ノ郵便物ハ之ニ托送スルニ至リシモ其ノ發着不定期ナルニ依リ三十六年七月ヨリ再ビ和船便ニ變更セシガ同年九月山陽鐵道連絡船確實ニ寄港スルコト、ナリシカバ之ニ托シ爾來暫ク繼續セシモ四十四年十月該船航路宇野高松間直通トナリ復タ本郡ニ寄港セザルコト、ナリシニ依リ其ノ後ハ岡山土庄高松間ヲ航行スル尼ケ崎汽船ニ托送スルコト、ナリ以テ今日ニ及ベリ

尙ホ安田局ニ在テハ四十二年十二月以來坂手ニ寄港スル大阪商船會社中國航路船ニ郵便物ヲ搭載スルコト、ナリシガ故ニ土庄局へ發送スル外更ニ汽船ニ依リテ郵便物ヲ受渡シ以テ其ノ發着ヲ速カナラシムルニ至レリ

明治七年郵便局設置當時ニ在テハ未ダ爲替法實施セザリシヲ以テ通貨ノ配達ヲ爲セシモ十三年十月土庄局先ツ爲替事務ヲ開始シ次テ二十四年二十五日ニ至リ他ノ各局共爲替ヲ開始シ一般ノ大ニ便利ヲ感スルニ至レリ

第一章

押切船

從來土庄高松池田下村及ヒ苗羽ト高松トノ間ニハ渡海船ト稱シ二十石積内外ノ小廻船アリテ不定期ニ航海シ一航海ニ四五日ヲ費シタリ明治七年郵便開カレ土庄高松間又小江牛窓間ハ郵便物ヲ遞送スルコト、ナリシヲ以テ土庄高松間ハ數艘ノ渡海船ニテ交代往復シ小江牛窓間ハ一艘ニテ當日往復スルヲ例トセシカ當時小江鈴木仲太郎ハ土庄高松ヲ往復スルノ便ヲ案ジ一艘ニ換五挺ヲ建テ水夫五人ニテ定期ニ往復スルノ航海ヲ開始シ一般旅客ノ便ヲ圖レリ世人之ヲ押切船又ハ五挺建トモ云フ

次テ土庄ノ渡海業者亦之ニ準ヒ定期ノ航海ニ改メタリ爾後汽船ノ便起リ土庄高松間ノ郵便ハ該船ニ搭載スルコト、ナリシヨリ押切船ハ著シク其ノ數ヲ減シ單ニ貨物ノ運送ヲナスニ止マリ僅ガニ其ノ事業ヲ繼續セリ尙ホ四十一年小江牛窓間ノ郵便物ハ之ヲ土庄ニ移セシヨリ此間ノ押切船モ遂ニ廢止サレタリ

第三章

汽船

左ニ寄港地別ニ依リテ記述スルコト、ス

一、土庄港 本郡ニ於ケル汽船業ノ濫陽ハ土庄町大森角平ニ始マル(角平畫像贊參照) 明治十五年大阪櫻井屋所有ノ汽船貴保丸盛行丸廣陵丸及ヒ岡山偕行社所持ノ明 陵丸等豊島村王子ヶ濱ニ寄港シ大阪神戸高松多度津納尾道間ヲ航行シ從テ乗客 ハ土庄ヨリ豊島ニ渡リテ乗船シタリシガ十六年五月ニ至リ大阪商船會社設立ニ 際シ此等ノ諸船ハ總テ商船會社ニ屬シ依然豊島ニ寄港シタリキ十七年一月十五 日ニ至リ土庄町小瀬ヘ寄港スルコト、ナリ併セテ大阪多度津間ヲ通航スルコト 、ナリシカ十九年商船會社第五兵庫丸來リ多度津土庄岡山間ヲ航行シ岡山ニテ 乗換ヘ阪神地方ヘ往復スルヲ得ルニ至レリ次テ二十二年土庄町ニ小豆島紡績會 社創立セラレシト同時ニ多度津土庄大阪間ヲ航行スルコト、ナリ三十年ニ至ル マテ繼續シタリキ三十年四月ニ至リテハ大阪尼崎伊三郎ノ所有船長保丸第一運 輸丸幸運丸第三電信丸ノ四艘土庄ニ寄港シ大阪福山間ヲ運行スルコト、ナル 當時ノ回漕店ハ土庄ニ高見屋アリ淵崎村ニ同支店アリテ取扱ヒヲナセシカ當時 商船會社モ亦四艘ヲ寄港セシムルコト、ナリ土庄港ニテハ大森角平之ヲ取扱ヒ 一時兩船競争ヲナスニ至レリ三十一年高見屋廢業シテ鹽本組之ニ代ル三十三年

四月讚岐汽船株式會社ハ資本金三萬圓ヲ以テ開業シ苗羽村ヲ起點トシ下村池田 土庄豊島高松犬島九幡三幡ヲ經テ京橋ニ航行シ船玉丸トシ稱スル登簿噸數僅カ ニ七十二噸四八ノ小汽船ヲ以テ之ニ充テタリシモ速力ノ快速ナルト株主ヲ郡内 ニ有セシトニ依リ其ノ成績好況ナリシカ不幸ニシテ火災ニ罹リ一大損失ヲ來シ 爾來修繕ヲ加ヘテ再ヒ航路ニ就キシモ商船會社ノ豊川丸ト競争ヲ試ミテ利アラ ス加之三十六年八月ニ至リ山陽鐵道會社ノ計畫セル岡山高知間連絡船ノ土庄ニ 寄港スルアリ旅客ハ該船ニ吸收セラレ船玉丸ハ遂ニ廢航スルニ至リシモ一般乘 客ハ之ヨリ著シク増加セリ連絡船ハ土庄ニテハ大森八藏(角平ノ弟)之カ取扱店タ リ三十九年十二月山陽鐵道國有トナリ連絡船モ亦國有ニ歸セシモ尙繼續寄港セ シカ四十三年六月兒島宇野港成リ之ニ連絡スルニ至リ岡山土庄間ノ直接連絡絶 へ本郡ノ爲メニハ不便著シクナレリ後淡路ノ汽船綠丸來リテ其ノ航路ヲ運轉セ シモ收支償ハス同年十二月廢航シ航船復タ絶ヘントセシニ尼崎汽船第一運輸丸 代リテ岡山土庄高松間ヲ運航スルニ至リシモ鐵道連絡船ニ比シ船體大ニ劣リ乘 客モ亦尠カリシカバ同汽船部ニ於テハ更ニ新造船正宗丸ヲ回航セシメタリ次テ 四十四年六月備前八濱藤原長次郎ノ所有船岡山丸來リテ同航路ヲ通航セリ同年

十月三十日ヨリ鐵道連絡船ハ遂ニ土庄寄港ヲ廢シ宇野高松間ヲ直行セシカハ郡民ノ不便益甚シクナレリ四十五年ニ至リ尼崎汽船部ハ更ニ新造船人丸ヲ加ヘ正宗丸岡山丸ト共ニ三艘ヲ航行セシムルコト、ナリ幾分其ノ不便ヲ補フニ至ル其ノ後幾多ノ變遷アリシモ目下本港ニ寄港スルモノハ左ノ如クニシテ旅客ノ昇降貨物ノ運搬頗ル便ナリ

尼崎汽船部 人丸 高松岡山間一日二回宛航海 毎回寄港

奧藤汽船部 岡山丸 同

尼崎汽船部 第三電信丸 新運輸丸 幸運輪丸 大阪多度津間毎日交互往返 每往復寄港

奧藤汽船部 都丸 飾磨高松間每日一回往返 每往復寄港

尙ホ本港ハ明治四十四年築港ヲ竣成シ次テ棧橋ヲ架設セシヲ以テ貨客トモ其ノ便益ヲ受クルコト頗ル多キニ至レリ今汽船寄港ノ創業者タル大森角平畫像ノ贊辭ト土庄築港ノ碑文ヲ掲ク

大森角平肖像贊

小豆島定期汽船創於大森角平。角平本姓篠崎氏。阿波川島人。來小豆島冒大森氏。業販布帛。

常病本島段人戶富物產而和船往復輒阻風濤。將開定期汽船。就兵庫大阪本社百方區處。而本社不許乃設行店於小豆島。備舟待汽船通過而搭載而小豐島僻地乘者不便。於是請商社列會員結期約明治十八年本社始許繫纜於土庄。乃修埠口營店舍。本島始與高松多度津接岡山航路。繫纜一日兩次。島人大便之。角平開汽船行店爲十五年前之事。經營屢左撤致失敗。而毅然不撓期以大成。遂能致今日之盛。語曰有志者事竟成。角平其人也。角平用意商事。嘗游朝鮮。歷觀釜山仁川元山諸港。將有爲。頃者命畫工寫肖像。囑余紀是事於像上。因書。

明治二十六年癸巳冬十月吉

鹿門道人 岡 千 仞

土庄築港之碑

小豆郡ハ瀨戸内海ノ一島ニシテ古來山水雙美ヲ以テ四方ニ鳴ル戸數一萬人口五萬アリ諸種ノ産業世運ニ從フテ進ミ八十八所ノ佛刹ハ所謂島四國ノ靈場ナリ人文日月ニ就將シテ陸海ノ交通至便ナレハ此地ニ來住スル者歲月ト共ニ増加シ其止マル所ヲ知ラス一郡ノ中心地タル土庄町長大森貞資氏大ニ見ル所アリ町民ニ詢リ新ニ築港ヲ規畫シ明治四十三年工ヲ起シ四十四年十二月成テ皆ケ又棧橋ノ架設ヲ經畫シテ四十五年七月着手シ大正元年十一月竣工突堤道路長六百十八尺幅三十六尺棧橋固定橋長七十二尺幅十二尺繫連橋長二十四尺幅九尺脚船長七十五尺幅二十四尺ニシテ埋立地千六百三十坪ハ附帶ノ土工トス凡テ費額二萬三千四百四十圓餘ニシテ縣費補助金五千

三百四郡費補助金一千二百圓有志寄附金二百圓其一萬六千四百四十四餘ハ土庄町之ヲ負擔セリ盛日ニハ船舶都テ數町外ノ海中ニ碇泊セシヲ以テ貨客ハ悉ク解船ニ依ラサルヲ得サリシカ今ヤ大小ノ船舶皆棧橋ニ繫留シテ出入昇降ノ便利ヲ極ム汽笛喇叭トシテ遠ク響キ黒烟蒸騰シテ高ク漲リ晝トナク夜トナク幾多ノ旅客ヲ迎送スルハ豈徒一町一郡ノ福利ト云ハシヤ茲ニ碑ヲ樹テ此舉ヲ不朽ニ傳ントシテ文ヲ余ニ囑ス余不文ヲ顧ミス其願末ヲ記シテ永ク土庄町ノ高義ヲ表ス

大正四年大嘗祭日

香川縣小豆郡會議長正六位勳六等森澤操並書

二、下村港 明治二十年頃當港ヨリ阪神へ航行スル樞原丸寄航セシモ間モナク沈没シ其ノ後三十四年船玉丸航海シ稍順況ニ向ヒシモ遂ニ廢航トナリ爾來暫ク汽船ノ便ナカリシガ四十二年七月阪豫汽船會社船寄港セシモ暫時ニシテ休止シ四十四年九月岡山丸寄港シ下村高松土庄岡山間ヲ航海セシモ四十五年一月ニ至リ是亦休航ナシ其後小汽船ニテ下村高松間ノ航海ヲナスモノ再三起リシモ航路ノ短距離ナルト貨客ノ尠キトニ依リ何レモ繼續スルニ至ラスシテ休航セリ尤每年秋季神懸山探勝遊覽船臨時入港スルアリ且大正元年十月十一月ノ兩月鐵道院連絡船第六東豫丸ノ宇野内海間ヲ航行シ一般乗客ノ便乘ヲ許セシヲ始メ其ノ他毎年大阪神戸及ヒ中國四國ヨリ秋季遊覽船數十艘寄港ス

然リト雖モ皆短期間ニシテ普通ノ乗客ニ便ナラズ從フテ貨客ノ大部分ハ阪手港ニ吸收セラル、ニ至レリ下村港ノ扱店ハ坂本定五郎三好平三郎松山實太郎等之ニ當リ現今三好平三郎ノ扱ヒニテ下村高松岡山間ヲ航海スル岡山丸ヲ運航シツ、アリ下村ノ外西村字竹生沖ニ大阪通ヒノ汽船一時寄港セシコトアリシモ暫時ニシテ休航セリ

三、池田港 池田港へ内海ヨリ高松ニ航行スル汽船ノ寄港セシコト屢々ニシテ常ニ下村港ト其ノ輿廢ヲ共ニセルノ狀況ニアリ近時下村高松岡山通ヒノ岡山丸ノ寄港スル外更ニ木田郡庵治巡航船ノ高松庵治池田間ヲ航海スルモノアリ池田港ノ扱店ハ八木辨造大石仁吉村上音松等ナリ

四、坂手港 明治二十三年秋坂手村久留島弘毅等上阪奔走シテ汽船ノ阪手港ニ寄港セシコトヲ交渉セシモ當時ニ在テハ本郡ノ狀況ヲ熟知セルモノ尠ナク容易ニ之ニ應スル模様ナカリシカ再三運動ノ結果翌二十四年春始メテ大阪ヨリ多度津港止メノ汽船新和歌浦丸ヲ寄港セシムルニ至レリ久留島弘毅外數名之カ扱店タリ然ルニ同年秋本船ヲ長崎へ賣拂ヒ一時休航トナリ翌二十五年春ニ及ンテ東讃通ヒ津田止メノ大阪丸ヲ寄港セシムルコト、ナセシモ收支償ハス數月ニシテ復タ

止ミタリ爾來各方面ニ向ツテ寄港ヲ交渉セシト雖モ當時中國線ニ一大競争アリ
 テ新タニ航路ヲ開始スルヲ許サス斯クテ二十七八年ハ日清戦争ノ爲メニ船舶ノ
 不足ヲ告グ三十一年一月ニ至リ漸ク大阪富島山本組元扱店ト約ヲ結ヒ中國線ノ
 相生丸理雲丸ヲ寄港セシムルコト、ナリ之ヲ關西汽船同盟本部ニ屈出テタルニ
 小豆島ハ岡山航路(阪神岡山土庄高松)ニ屬スルヲ以テ坂手寄港ヲ許サズトノコト
 ナリシカバ更ニ上阪シ土庄ト坂手トノ位置及ビ其ノ便否等ヲ示シ漸ク同年二月
 ニ至リ同盟船ノ寄港ヲ見ルニ至リ同三月山本組扱瀨田川丸旭運輸合資會社扱明
 光丸玉ノ浦丸ノ三艘寄港スルニ至レリ同時ニ本郡内海方面ニテ株主ヲ募リ阪榮
 組ヲ組織シテ汽船ノ取扱ヒヲ爲シ久留島弘毅之カ組長タリ當時坂手ハ高松港ノ
 附屬港トシテ寄港セシニ依リ扱店ノ收支償フ能ハス同年五月終ニ解約スルノ已
 ムナキニ至リ同年六月上阪更ニ大阪共同組尼崎汽船ノ寄港ヲ交渉セシモ容易ニ
 決セス滯在スルコト數十日ニシテ漸ク九月新崇敬丸第三幸運輪丸第一幸運輪丸
 新雷信丸旭川丸新運輸丸ノ寄港ヲ見ルニ至リ其ノ成績稍良好ナリシカハ阪手港
 ヲ中國航路ノ獨立港トシ三十二年新ニ長崎航路大川航路鹿兒島航路宇和島航路
 細島航路ニ編入スルニ至レリ三十九年大阪松下汽船第三宇和島丸第四宇和島丸

外三四隻亦競ウテ寄港セシコトアリシモ十ヶ月餘ニシテ止ミタリ

四十二年七月阪榮組ハ尼崎汽船トノ契約ヲ解キ爾來阪手共同組ニテ扱フコト、
 ナリ外崎正晴之レカ扱店タリ

四十二年六月大阪商船會社亦定期寄港ヲ開始シ姫川丸天龍川丸ヲ寄港セシム而
 シテ大阪出帆ノ際翌日ノ大阪新聞紙ヲ積入レ即夜阪手ヘ荷揚セシカハ郡民大ニ
 利便ヲ感シタリ同年十二月十一日ヨリ又郵便物ノ便載ヲ開始シ阪手船舶郵便受
 渡所ヲ設ケ安田郵便局ノ管理トセシニ依リ從來土庄局ノミヨリ發着セシ郵便物
 ハ大ニ其ノ時間ヲ早メ一般公衆ノ便益トナリタリ尙ホ同月ヨリ大阪醬油問屋ト
 運賃ノ協定ヲナシ斯業ノ便利ヲ謀リシカハ尼崎汽船モ亦同様割引運賃ニテ積載
 スルニ至リ積出シ荷出シ俄カニ増進シ相互ノ利益ヲ得ルニ至レリ大正二年十月
 會社ハ西讚伊豫沿岸線ヲモ寄港セシムルニ至ル商船會社阪手扱店ハ川野助太郎
 之レニ當ル

(附記) 商船及尼崎兩汽船共上下本港ハ寄港スルハ毎夜同時ナリシテ兩者協定ノ際ハ
 之ヲ甲便乙便ノ二便ニ分チ着港セシコトアリシモ程ナク協定ヲ解除シ今ヲ舊ノ如
 ク其寄港ハ上下共夜間トナリヌ

阪手寄港汽船名及登簿噸數

尼崎汽船部 (毎日中國線)

神惠丸 日海丸 船運丸 電信丸 新電信丸 菊水丸 三運輸丸

商船會社汽船 (毎日中國線隔日四國門司線)

天龍川丸 大井川丸 利根川丸 龍田川丸 高阪丸 高神丸 姫川丸

高知丸

右ノ外明治四十一年ヨリ福田大部北浦土庄間ヲ往復スル石油發動機巡航船アリ又大正二年豊島土庄間ニモ同型巡航船ノ航行開始セラレ一般海上交通ノ便ヲ謀リシカ兩航路トモ乗客渺ナク收支償ヒ難キモノアルヲ以テ特ニ大正二年度ヨリ郡費ノ補助ヲ受ケ繼續運航行シツ、アリ他尙ホ外ニ淵崎池田及ヒ四海ニ各一艘宛ノ巡航船アリ

第四章 海底電線

電信電話兩線ニ別チテ記述スレハ左ノ如シ

一、電信線

沈設區間 自木田郡庵治村大字武居至小豆郡土庄町大字水香

沈布年月 明治二十九年十二月七日

湮數 六湮

渾數 四千五百七十湮

心線數 一本

二、電話線

沈設區間 自木田郡庵治村大字武居至小豆郡土庄町大字水香

沈布年月 明治四十二年十二月

湮數 五湮

心線數 二本

第五章 人力車

里道ノ改修愈進ムニ從ヒ人力車ヲ以テ從來ノ便ニ供スルモノアルニ至レリ明治二十四年淵崎村字上庄村谷乙藏ノ營業ヲ始メトシ爾來漸次増加シ大正四年末ノ車數ハ七十一輛ヲ數フニ至ル

第六章 自轉車

道路ノ改修ニ伴ヒ自轉車モ亦流行スルニ至レリ明治三十四年土庄町大森初三下村
星野芳太郎ノ自用ヲ始メトシ漸次増加シ大正四年末ノ車數ハ四百八十五輛ノ多キ
ニ達ス

第七章 特設電話

本郡内ニ於ケル電話ハ明治三十七年七月郡役所ト警察署及ヒ各分署トノ間ニ架設
セラレタルヲ始メトス然レトモ該電話ハ警察署内ノ獨占ニシテ一般公衆ノ使用ヲ
許サ、リシカハ明治四十二年電話期成同盟會ヲ組織シ郡内有志者ノ團體寄附及縣
郡ノ補助ヲ得テ海底電話線ノ沈布ヲ出願セシニ同年七月之レカ沈布ヲ見タルヲ以
テ同年十月土庄局ニ十一月安田局ニ電話事務ヲ開始シタリ當時ノ補助線及寄附額
左ノ如シ

縣費補助金一千圓 郡費補助金二千九十八圓 郡内寄附金三千百二十二圓
右ノ如ク土庄安田兩局ニ於テ電話開始セラレシト雖モ通話セントスルニ當リテハ

自ラ其ノ局ニ至ラザルヘカラス茲ニ於テ屋内引込線ノ必要ヲ感シ四十三年加入者
ヲ募リ其ノ筋ノ認可ヲ得テ特設電話ヲ架設シ四十四年一月ヨリ土庄安田兩局ニ於
テ電話交換事務ヲ取扱ヒ以テ高松岡山ハ勿論遠ク大阪神戸ト通話シ得ルニ至レリ
大正四年現在加入者數土庄局十名安田局三十三名ナリ

(附記) 明治四十年草壁村下村長町嶺下村ト安田村福田村トノ間ニ私設電話ヲ架設
セシコトアリシモ其ノ後撤去ヲ命セラレタリ同四十二年西村清水齋油株式會社ト
社長水野邦次郎居宅ノ間十八町餘ニ其ノ筋ノ認可ヲ得テ私設電話ヲ架設セリ

第八章 乗合馬車

明治四十四年西村谷口彌一郎乗合馬車ヲ開業シ下村阪手間ヲ營業セシモ距離短ク
シテ乗客ナク僅カニ秋期神懸山遊覽ノ期節ニ於テ多少ノ乗客ヲ増ス有様ニテ收支
償ハス縣道ニ依リ土庄阪手間ヲ經營セントセシセ當時室生峠ノ改修容易ナラザル
モノアリシカバ止ムナク一時休業スルニ至レリ其ノ後阪手港ニ於テ汽船ニテ昇降
スル旅客ノ爲メ夜間數回馬車ノ通行ヲ見ルノミ

第九章 燈臺

大正二年遞信省ハ一般航海者ノ爲メ阪手村ノ東南大角岬ニ燈臺ヲ建設シ同年四月十五日ヨリ點火セリ其ノ構造等左ノ如シ

位置 北緯三十四度二十五分五十七秒

東經百三十四度十九分五十四秒

構造 鐵造六角形 白色

自基燈火高 二丈三尺

自水面高 十九丈五尺

等級及燈質 第四等アセチリン瓦斯明暗白色燈火發射ノ時間二秒遮暗ノ時間二秒

明孤 南三十四度西ヨリ西北東ヲ經テ南五十九度東マテ二百六十七度間

但右明孤ノ内西南西ノ方位ニ於テ風ノ子島ニ遮ラル、部分ハ燈

火ヲ望見スルヲ得ズ

右方位ハ海上ヨリ燈臺ニ向テ測定ス

燈火數 二千

光達距離 晴天ノ夜二十哩半

第廿七編 議員

明治七年名東縣會九年大區會十年愛媛縣會十四年各村連合會二十二年府縣制ニ依ル縣會二十三年國會三十二年郡制ニ依ル郡會ヲ各開設セリ今衆議院議員以下ノ更迭ヲ記ス

第一章 衆議院議員

第一回 明治二十三年七月一日第一區(小豆郡香川郡高松市)當選

高松市 五番町 中野 武營

第二回 明治二十五年二月二十五日第一解散後當選

高松市 五番町 中野 武營

第三回 明治二十七年三月一日第二解散後當選

第四回 明治二十七年九月一日第三解散後當選 高松市 五番町 中野武營

第五回 明治三十一年三月十五日當選 高松市 五番町 中野武營

第六回 明治三十一年八月十日第四解散後當選 高松市 五番町 中野武營

第七回 明治三十五年八月十日日本回ヨリ選舉區變更市獨立郡部各郡一區トナル 高松市 五番町 中野武營

綾歌郡 坂出町 宮井茂九郎 木田郡 林 村 大場長平
高松市 外磨屋町 井上甚太郎 三豐郡 柞田村 高橋松齋
大川郡 富田村 松家 德二

第八回 明治三十六年三月一日第五解散後當選

仲多度郡 多度津町 景山甚右衛門 綾歌郡 坂出町 宮井茂九郎
仲多度郡 榎井村 堀家 虎造 高松市 外磨屋町 井上甚太郎
大川郡 富田村 松家 德二

第九回 明治三十七年三月一日第六解散後當選

大川郡 富田村 松家 德二 高松市 外磨屋町 井上甚太郎
仲多度郡 多度津町 景山甚右衛門 綾歌郡 坂出町 宮井茂九郎
三豐郡 觀音寺町 西山 彰

第十回 明治四十一年五月十五日當選

綾歌郡 西庄村 三土 忠造 綾歌郡 富熊村 原岡 永江
大川郡 富田村 松家 德二 三豐郡 觀音寺町 西山 彰
仲多度郡 多度津町 景山甚右衛門

第十一回 明治四十五年五月十五日當選

高松市 宮脇町 林 毅 陸 綾歌郡 西庄村 三土 忠造
仲多度郡 七箇村 増田 穂三 大川郡 長尾村 小西 和
大川郡 富田村 松家 德二

第十二回 大正四年三月二十五日當選

三豐郡 桑山村 田淵貞四郎 高松市 宮脇村 林 毅 陸
大川郡 長尾村 小西 和 綾歌郡 西庄村 三土 忠造

仲多度郡 七箇村 増田 榎三

第二章 名東縣會議員

明治七年二月十五日第一期當選

上村 中桐 儉吉

上庄村 紀 雄次郎

明治八年五月五日第二期當選

小江村 森 遷

上庄村 紀 雄次郎

第三章 愛媛縣會議員

明治十年六月十日第一期當選

小江村 森 遷

池田村 柴田 久祐

明治十一年三月三日森遷辭任ニ付補缺當選

長濱村 高橋 伊門

明治十二年四月十九日第二期當選

土庄村 三枝重太郎

小江村 九富久一郎

明治十三年三月五日九富久一郎辭任ニ付補缺當選

淵崎村 森口小八郎

明治十三年十月十三日第三期當選

淵崎村 八代田定治郎

蒲生村 岡井庄左

明治十五年十二月廿三日岡井庄左辭任補缺當選

池田村 岡田 林左

明治十七年六月七日第四期當選

肥土山村 太田 耕治

土庄村 三枝重太郎

明治二十一年三月十二日第五期當選

下村 菅原 道

土庄村 三枝重太郎

第四章 香川縣會議員

明治二十二年一月二十八日第一期當選

下村 菅原 道

土庄村 三枝重太郎

明治二十三年三月七日三枝重太郎辭任補缺當選

土庄村 大森 辨藏

明治二十五年三月十五日半數改選當選

草壁村 菅原 道

明治二十七年三月十五日半數改選當選

土庄村 大森 辨藏

明治三十年三月十五日半數改選當選

草壁村 菅原 道

明治三十年三月十五日増員當選

四海村 藤岡貞治

明治三十二年三月九日半數改選當選

土庄町 大森貞資

明治三十二年三月十四日海村 藤岡貞治

淵崎村 盛澄八郎

明治三十二年九月廿五日府縣制實施第一期當選

安田村 高橋筆四郎

四海村 高橋舜太郎

安田村 高橋筆四郎

明治三十六年九月廿五日第二期當選

四海村 高橋舜太郎 苗羽村 藤井勝太

明治三十九年九月廿五日高橋舜太郎辭任補缺當選

土庄町 大森貞資

明治四十年九月廿五日第三期當選

土庄町 大森貞資 草壁村 坂本定五郎

明治四十四年九月廿五日第四期當選

土庄町 大森貞資 草壁村 坂本定五郎

大正四年九月廿五日第五期當選

池田村 中塚彖之助 草壁村 坂本定五郎

第五章 大區會議員

明治九年三月一日當選

第一小區

西村 水野金七

福田村 三宅保太郎

橋村 廣瀬作十郎

苗羽村 木下定治郎

安田村 高橋彌三治

第二小區

池田村 明田善四郎

蒲生村 岡井庄左

二回村 三水儀造

池田村 藤本定次郎

池田村 柴田久祐

第三小區

長濱村 高橋伊門

土庄村 三枝兵藏

家浦村 清水彦一郎

小江村 森龜齡治

小江村 九富久一郎

馬越村 岡上銀衛

馬越村 岡上喜平

淵崎村

森口小八郎

第六章

各村連合會議員

明治十四年四月二十四日第一回當選

土庄村	笠井多平	土庄村	笠井重藏
淵崎村	井上繁太郎	淵崎村	八代田勝治郎
土庄村	井口源藏	黒岩村	西中宇三八
笠ヶ瀧村	三木徳次	小馬越村	岡田仙次郎
肥土山村	太田耕治	中山村	伊谷清藏
蒲生村	藤本傳吉	池田村	藤茂七
池田村	岡本紋藏	室生村	八木定吉
二面村	三木儀造	吉野村	森口清八
神浦村	大奥又四郎	蒲野村	須佐美忠造
西村	水野金七	下村	八木谷藏
上村	大川互	片城村	山本藤五郎

明治十七年四月十七日第二期當選

水庄村	澁谷繁太郎	安田村	炭山忠吉
苗羽村	岡田源十郎	古江村	岡田鶴松
堀越村	正月彦次郎	田浦村	里島政四郎
坂手村	武井文太郎	橋村	八木藤四郎
岩ヶ谷村	長町清一郎	當濟村	川井元五郎
福田村	加藤政次郎	吉田村	木村庄次郎
小部村	山本兵三郎	大部村	佐伯榮太郎
小海村	三宅惣平	見目村	三宅嘉十郎
屋形崎村	坂本作助	馬越村	岡上喜平
瀧宮村	森文四郎	長濱村	後藤茂次郎
小江村	九富久一郎	伊喜末村	岡源五郎
唐櫃村	笠井善次郎	家浦村	丸山善太郎
甲生村	片山宇平次		
土庄村	三枝重太郎	土庄村	三枝定藏

淵崎村	井上文八郎	淵崎村	三木方齋
上庄村	岡田新平	黑岩村	西中字之八
笠ヶ瀧村	三木菊次郎	小馬越村	岡田仙次郎
肥土山村	佐伯久治	中山村	早川佐平
滯生村	平間勝五郎	池田村	柴田新太郎
池田村	岡本紋藏	室生村	八木定吉
二面村	武部久藏	吉野村	高橋作二
神浦村	大奥善九郎	滯野村	高橋政七
西村	水野金七	下村	中田太吉
上村	森瀧三郎	片城村	山本藤五郎
水庄村	澁谷繁太郎	安田村	笠井與作
苗羽村	中野半藏	古江村	岡田鶴松
堀越村	正月彦次郎	田浦村	黒島政四郎
坂手村	久留島又一郎	橘村	橋本四郎平
岩ヶ谷村	岡本孫四郎	當濱村	川井元五郎

第七章 學校組合會議員

明治二十六年三月二十三日高等小學校其他ノ教育ノ爲メ本組合ヲ設立ス其ノ議員
左ノ如シ

福田村	大本筆次	吉田村	水村庄次郎
小部村	山本兵三郎	大部村	宮西文五郎
小海村	橋本安五郎	見目村	藤本善平
屋形崎村	坂本作助	馬越村	岡本松太郎
瀧宮村	石井與平次	長濱村	藤岡貞治
小江村	須藤彌平	伊喜末村	岡源五郎
唐櫃村	岡田角平	家浦村	片山庄吉
甲生村	片山宇平治		
土庄村	大森辨藏	淵崎村	盛澄八郎
大鐔村	太田耕治	池田村	蘆茂七
二生村	岡淺五郎	三都村	柴田伍一

西 村 水野金七 草壁村 中田中
 安田村 太田龜藏 苗羽村 黒島作次郎
 坂手村 久留島治作 福田村 三木但一郎
 大部村 鹽井彌太郎 北浦村 岡上喜平
 四海村 高橋喜太郎 豐島村 野村形之助

明治二十八年半數改選ノ結果ハ二生村武部伊之吉安田村高橋武吉當選ノ外異動ナシ

第八章 土木衛生組合會議員

明治二十七年六月二十九日里道改修衛生儲蓄法ノ爲メ本組合會ヲ設立ス其ノ議員左ノ如シ

土庄村	大森辨藏	淵崎村	盛澄八郎
大鐔村	太田耕治	池田村	藤茂七
二生村	武部伊之吉	三都村	柴田伍一
西村	水野金七	草壁村	中田中

安田村 太田龜藏 苗羽村 藤井勝太
 坂手村 廣瀬茂千賀 福田村 吉村榮吉
 大部村 鹽井彌太郎 北浦村 三宅一雄
 四海村 高橋喜太郎 豐島村 野村形之助

明治三十年半數改選ノ結果ハ土庄村大森貞資池田村柴田新太郎二生村宮本吉藏安田村高橋武吉坂手村板倉仁三郎ノ當選ノ外異動ナシ

第九章 郡會議會

明治三十二年郡制實施ノ初期ハ選舉區數十三ニシテ第一區土庄第二區淵崎第三區大鐔第四區池田第五區二生第六區三都第七區草壁村第八區安田第九區坂手第十區田部第十一區北浦第十二區四海第十三區豐島ニシテ議員ハ第一區第四區ハ二名ナルヲ以テ合計十五名ナリシガ三十六年第二期ノ改選ニ至リテ選舉區數ヲ十六(每町村ヲ一區トス)ニ増加シテ議員十八名トナレリ每期ノ議員左ノ如シ

第一期 明治三十二年九月三十日當選

土庄町	大森辨藏	土庄町	大森貞資
-----	------	-----	------

淵崎村	盛澄 八郎	大鐸村	太田 耕治
池田村	柴田新太郎	池田村	中塚吉朝
二生村	八木治良吉	三都村	柴田 伍一
草壁村	秋田 爲雄	安田村	高橋肇四郎
西壁村	小汐彌太郎	福部村	砂子與三郎
北浦村	岡上 喜平	四海村	森 遷
豐島村	前田壽太郎		

明治三十四年前田壽太郎辭任補缺野村形之助 三十五年岡上喜平辭任補缺中村吉次郎

議長 大森辨藏 副議長 太田 耕治

參事會員 森 遷 大森 貞資 高橋肇四郎 柴田新太郎

柴田 伍一

明治三十五年柴田新太郎辭任補缺中塚吉朝

第二期 明治三十六年九月三十日當選

土庄町 大森 辨藏 土庄町 柴田 伍一

淵崎村	井上文八郎	大鐸村	太田 耕治
池田村	柴田新太郎	池田村	中塚吉朝
二生村	水野 金七	三都村	大森 貞資
西 村	八木治良吉	草壁村	坂本定五郎
安田村	高橋 荒吉	苗羽村	小西幸太郎
坂手村	竹内 定吉	福田村	吉村 榮吉
大部村	砂子與三郎	北浦村	中村吉次郎
四海村	森 遷	豐島村	中村千代松

明治三十八年井上文八郎辭任補缺森口坤太郎 三十九年水野金七死亡補缺水野邦次郎 同年中村千代松辭任補缺廣田庄吉 四十一年小西幸太郎辭任補缺鹽田龜吉

議長 大森 辨藏 副議長 水野 金七

明治三十八年水野副議長辭任補缺柴田新太郎

參事會員 森 遷 柴田新太郎 大森 貞資 坂本定五郎

高橋 荒吉

明治三十八年柴田新太郎以下四名辭任補缺井上文八郎柴田
伍一太田耕治中塚吉朝 同年井上文八郎辭任補缺小西幸太
郎 同年小西幸太郎辭任補缺大森貞資

第三期 明治四十年九月三十日當選

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 土庄町 | 大森 辨藏 | 土庄町 | 大森 貞資 |
| 淵崎町 | 森口坤太郎 | 大鐸村 | 柴田 伍一 |
| 池田村 | 藤本 萬吉 | 池田村 | 中塚吉朝 |
| 二生村 | 八木治良吉 | 三都村 | 太田 耕治 |
| 西 村 | 水野邦次郎 | 草壁村 | 森 瀧三郎 |
| 安田村 | 高橋 荒吉 | 苗羽村 | 鹽田 龜吉 |
| 坂手村 | 竹内 定吉 | 福田村 | 高木 又郎 |
| 大部村 | 三浦多藏 | 北浦村 | 岡上 寬一 |
| 四海村 | 森 遷 | 豐島村 | 與村 佐吉 |

明治四十一年岡上寬一辭任補缺中村吉次郎 四十二年大森
辨藏死亡補缺三枝定藏 同年太田耕治死亡補缺高橋謙吾

議 長 大森 辨藏 副議長 森口坤太郎

明治四十二年大森議長死亡補缺森遷 四十三年森口副議長辭
任補缺水野邦次郎

參事會員 森 遷 柴田 伍一 中塚 吉朝 高橋 荒吉

水野邦次郎

明治四十二年全員辭任補缺大森貞資太田耕治藤本萬吉森瀧三
郎鹽田龜吉 同年太田耕治死亡補缺森口坤太郎 四十三年大
森貞資辭任補缺柴田伍一

第四期 明治四十四年九月三十日當選

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 土庄町 | 大森 貞資 | 土庄町 | 三枝 定藏 |
| 淵崎村 | 森口坤太郎 | 大鐸村 | 高橋 謙吾 |
| 池田村 | 柴田 伍一 | 池田村 | 高尾安太郎 |
| 二生村 | 八木治良吉 | 三都村 | 中塚吉朝 |
| 西 村 | 水野邦次郎 | 草壁村 | 樋出 寬一 |
| 安田村 | 高橋和三郎 | 苗羽村 | 鹽田 龜吉 |

坂手村 竹内定吉 福田村 高木又郎
 大部村 山本新松 北浦村 岡上亮平
 四海村 森 遷 豐島村 奥村佐吉

明治四十四年樋出寛一退職補缺岡實雄

議長

森 遷 副議長 柴田伍一

大正二年柴田副議長辭任補缺高橋謙吾

參事會員

大森貞資 森口坤太郎 中塚吉朗 鹽田龜吉

高木又郎

大正元年高木又郎辭任補缺竹内定吉 二年全員辭任補缺八木
 治良吉水野邦次郎高尾安太郎高橋和三郎三枝定藏 三年八木
 治良吉水野邦次郎三枝定藏辭任補缺奥村佐吉岡上亮平山本新
 松 同年岡上亮平辭任岡實雄

第五期 大正四年九月三十日當選

土庄町 大森貞資 土庄村 笠井明治
 淵崎村 森口坤太郎 大鐸村 太田喜十郎

池田村 濱本房吉 池田村 八木啓次
 二生村 八木治良吉 三都村 中塚吉朗
 西村 水野邦次郎 草壁村 庫本實
 安田村 高橋和三郎 苗羽村 小汐龜太郎
 坂手村 久留島治作 福田村 高木又郎
 大部村 鹽井彌太郎 北浦村 岡上公平
 四海村 森 遷 豐島村 奥村佐吉

大正四年森口坤太郎辭任補缺盛澄八郎

議長

森 遷 副議長 森口坤太郎

大正四年森口副議長醫任補缺濱本房吉

參事會員

大森貞資 中塚吉朗 水野邦次郎 高橋和三郎

奥村佐吉

第廿八編 町村

本郡郷村ノ名稱ハ古來屢變更シタリ今町村ノ概況ヲ叙スル

ニ當リ明治十一年十二月愛媛縣ニ於テ實行シタル郡町村編
 制以前ハ各郷村ヲ通シテ記述スルコト、シ(明治維新後大小
 區ノ設置アリシモコハ第四編統治ニ記ス)其ノ以後ハ各町村
 ニ分記スルコト、セリ然ルニ各町村トモ山野廣クシテ田園
 狹ク平地少ナクシテ傾斜多ク且ツ一村或ハ一大字間山嶽又
 ハ丘岡ヲ以テ隔テラレアルハ各町村トモ殆ント同一ノ形勢
 ナルヲ以テ毎町村之ヲ叙スルハ恐クハ煩ニ失スルノ嫌アリ
 依テ之ヲ省略スルコト、シタリ尙ホ數字ヲ以テ其ノ狀況ヲ
 比較シ得ラル、モノハ表ヲ以テ之ヲ示ス

第一章 郷村名稱ノ變遷

本郡ハ仁和三年ニ肥土庄ヲ設置セラレシ以來備前國ニ屬シ年代不詳備前八郡ノ内
 ニ列セラレ小豆郡トシテ尾海、池田、肥土、草壁ノ四庄アリ次デ小豆島郡トナリ飛戸、池

田、草津、西浦、長浦ノ五郷アリ後慶長年間ニハ土庄、池田、草加部、北浦ノ四組トナリ慶安
 年間ニ至リテハ草加部、福田、大部、小海、肥土山、上庄、淵崎、土庄、池田ノ九郷ニ別タル其ノ
 支村ハ或ハ五十一ヶ村トアリ或ハ五十八ヶ村トアリ尙ホ其ノ文字ニモ異同アリシ
 モ天保九年幕府ト津山藩トノ分領ノ際ニ於ケル郷村名ハ左ノ如クニシテ以テ明治
 維新ニ至ル

草加部郷(十四ヶ村)	西	村	上	村	下	村	片	庄	村	水	庄	村
	安	田	村	古	江	村	堀	越	村	田	浦	村
	岩	谷	村	當	濱	村	苗	羽	村	坂	手	村
池田郷(十一ヶ村)	濱	村	北	地	村	迎	地	村	上	地	村	室
	二	面	村	神	之	浦	村	蒲	生	村	中	山
	浦	野	村	神	之	浦	村	蒲	生	村	中	山
土庄郷(六ヶ村)	土	庄	村	鹿	島	村	大	木	戸	村	唐	櫃
	甲	村	鹿	島	村	大	木	戸	村	唐	櫃	村
淵崎郷(五ヶ村)	淵	崎	村	赤	穂	屋	村	伊	喜	末	村	黒
	淵	崎	村	赤	穂	屋	村	伊	喜	末	村	黒
上庄郷(二ヶ村)	上	庄	村	北	山	村						
	上	庄	村	北	山	村						
												小
												馬
												越
												村

小海郷(七ヶ村)

小海村 見目村 屋形崎村 馬越村 瀧宮村

肥土山郷(二ヶ村)

肥土山村 笠ヶ瀧村

大部郷(三ヶ村)

大部村 田井村 小部村

福田郷(一ヶ村)

福田村 吉田村

(和名抄諸國郡郷考十)略○上備前國八郡二島四十九郷保庄圖等記に小豆郡とありて庄の名四ッあり尾美池田肥土草壁なり今も皆存す

(慶長十年小豆島檢地圖)着色(巻首參看)

土庄組 赤色示 土庄 伊喜末 里肥土 笠瀧 家浦 唐櫃 甲浦 山尻土 上庄

池田組 青色示 淵崎 大木戸 加島 ○小馬越黒岩ナシ 池田 中山 蒲生 室生 二面 吉野 蒲野 新部 北地 迎地

草加部組 白色示 上地 ○神浦ナシ 草加部 日方 安田 苗羽 古江 坂手 堀越 たこ 水木 原村

北浦組 黄色示 清水 上村 木庄 馬木 たちばな 岩たみ 當濱 ○田浦ナシ 瀧宮 長廻 北江 福田 大部 小海 吉田 東小部 ことつが 三日 屋形崎 馬越

(慶安元年小豆島檢地圖)着色

福田 福田村 吉田村

大部 大部村 小部村 田井村 琴塚村

小海 小海村 見目村 屋形崎村 馬越村 瀧宮村 長濱村 小江村

肥土山 肥土山村 土井村 笠ヶ瀧村 小馬越村 黒岩村

上庄 上庄村 北山村

淵崎 淵崎村 黒田村 伊喜末村

土庄 土庄村 大木戸村 鹿島村 家浦村 唐櫃村 甲村

池田 池田村 向地村 北地村 上地村 奥山村 中山村 蒲生村 入部村

室生村 二面村 吉野村 蒲野村 神浦村

草加部 高生村 水木村 日形村 清水村 後山村 上村 草加部村 木庄村

安田村 橋村 岩谷村 當濱村 苗羽村 古家村 堀越村 田浦村

坂手村

(文化年間小豆島地圖)着色

草加部村 草加部本村 上村 片城村 竹生村 水木村 原村 日形村 木庄村

安田村 橋村 岩谷村 當濱村 苗羽村 古江村 堀越村 田浦村

坂手村

池田村 池田本村 向地村 北地村 上地村 奥山村 中山村 蒲生村 入部村
 室生村 二面村 吉野村 蒲野村 高浦村
 土庄村 土庄本村 鹿島村 大喜戸村 家浦村 唐櫃村 甲生村
 淵崎村 淵崎本村 伊喜末村 黒岩村 小馬越村
 上庄村 上庄村 北山村
 肥土山村 肥土山本村 土井之内 笠ヶ瀧村
 小海村 小海本村 見目村 屋形崎村 馬越村 瀧宮村 長濱村 小江村
 大部村 大部村 田井村 琴塚村 小部村
 福田村 福田村 吉田村

第一章 本支村分離

明治十三年二月廿四日各村本支ノ村名ヲ分離シ各獨立シタリ由來本郡ハ九ヶノ本村三十四ヶノ支村トアリテ其ノ名稱モ例之池田村ノ内中山村ト稱フルアリ又草加部村ノ如キ支村有テ其ノ本村ノ所在ナク他ノ本支村ト其ノ趣ヲ異ニスルアリ且ツ本支ノ名ハ存スルモ本支各獨立ナルト公文記載上甚ダ繁雜ナルトヲ以テ各村民總代ヨリ縣廳ニ請願シテ各本支村ノ名稱ヲ廢シ各獨立ヲナスコト、セリ而シテ獨立

セシモノ左ノ四十四ヶ村ナリ

土庄村	淵崎村	上庄村	黒岩村	笠ヶ瀧村	小馬越村
肥土山村	中山村	蒲生村	池田村	室生村	二面村
吉野村	神浦村	蒲野村	西村	下村	上村
片城村	木庄村	安田村	苗羽村	古江村	堀越村
田浦村	坂手村	橋村	岩ヶ谷村	當濱村	福田村
吉田村	小部村	大部村	小海村	見目村	屋形崎村
馬越村	瀧宮村	長濱村	小江村	伊喜末村	唐櫃村
家浦村	甲生村				

第三章 戸長役場配置ノ變遷

郡町村編制實施後戸長役場配置ノ變遷左ノ如シ

一、明治十二年一月三十一日戸長役場ヲ各本村ニ新置スルコト、シ左ノ九役場トス
 二、土庄村 淵崎村 上庄村
 肥土山村 池田村 草加部村

福田村

大部村

小海村

二、同年五月七日戸長役場ヲ改置シテ左ノ二十役場トシ其ノ名稱ハ何村外何ヶ村戸長役場トス

土庄村

淵崎村

上庄村

肥土山村外黒岩村笠ヶ淵村小馬越村

蒲生村

池田村外中山村

室生村外二面村

吉野村外神浦村蒲野村

西村

下村外上村片城村

安田村外橋村

苗羽村外古江村

坂手村外堀越村田浦村

岩ヶ谷村外當濱村

福田村外吉田村

大部村外小部村

小海村外見目村屋形崎村

馬越村外瀧宮村

伊喜末村外小江村長濱村

家浦村外甲生村唐櫃村

三、十四年八月一日左ノ戸長役場ヲ増置ス

黒岩村外笠ヶ淵村小馬越村

中山村

神浦村

蒲野村

長濱村

小江村

唐櫃村

甲生村

四、十五年九月二日左ノ戸長役場ヲ増置ス

上村

五、十六年八月二十五日左ノ戸長役場ヲ増置ス

室生村

瀧宮村

六、十八年一月十六日各戸長役場ヲ更ニ左ノ十三役場ニ改ム

土庄村

淵崎村外上庄村

肥土山村外黒岩村笠ヶ淵村小馬越村中山村

池田村外蒲生村

吉野村外室生村二生村神浦村

下村外西村上村片城村

安田村外木庄村橋村岩ヶ谷村當濱村

坂手村外苗羽村古江村堀越村田浦村

福田村外吉田村

大部村外小部村

屋形崎村外小海村見目村馬越村瀧宮村

伊喜末村外小江村長濱村

家浦村外甲生村唐櫃村

第四章 町村制實地

明治二十一年四月十七日法律第一號ヲ以テ町村制ヲ公布セラレ次デ二十三年二月十五日香川縣ニ於テ之ヲ實施ス即チ町村ニ町村會ヲ設ケ町村長助役及ビ收入役其ノ他ノ吏員ヲ置キ其ノ役所ヲ何町村役場ト稱ス本郡ニ在テハ從來ノ四十四ヶ村ヲ併合シテ十六ヶ村トスルコト左ノ如シ但シ元ノ村名ハ大字トシテ之ヲ存ス尙ホ三

十一年二月十一日ニ至リ土庄村ニ町制ヲ實施シタリ

土庄村	獨立	淵崎村	大字	肥土山	黒岩	笠ヶ瀧	小馬越
淵崎村	大字	池田村	同	蒲生	中山		
大鐸村	同	二生村	同	室生	二面		
池田村	同	三都村	同	吉野	蒲野	神浦	
西村	獨立	草壁村	大字				
安田村	同	苗羽村	同	苗羽	古江	堀越	田浦
坂手村	獨立	福田村	大字	福田	吉田		
福田村	大字	大部村	同	大部	小部		
大部村	同	北浦村	同	小海	見目	屋形崎	馬越
北浦村	同						

四海村	同	伊喜末	小江	長濱	瀧宮
豐島村	同	家浦	唐櫃	甲生	

第五章 土庄町

一、位置 土庄町ハ郡ノ西部ニ位シ東西一里六町南北三十一町面積〇、五六二方里ニシテ東ハ海峽ヲ以テ淵崎村ニ隣リ西ハ小豊島ヲ挾ンテ豊島村ニ向ヒ南方遙カニ八栗屋島ヲ望ミ北ハ淵崎四海兩村ニ對シテ灣ヲナス之ヲ土淵灣ト云フ

二、沿革 明治十二年一月三十一日土庄村役場ヲ置キシガ同年五月七日豊島各村ト分離獨立シ二十三年二月十五日町制實施後三十一年二月十一日ニ至リ町制ヲ施行シ土庄町ト改稱ス

三、産業 農業ヲ主トシ商賣之ニ亞ギ漁業アリ鹽業アリ麥稈具田製造アリ醬油釀造家アリ果樹園藝亦漸ク進ム

四、特徴 土庄本町ト稱スル地ハ戸數七百アリテ一小市街ヲナス郡役所警察署稅務署登記所鹽專賣出張所郵便局銀行等アリ大阪神戸岡山高松間ヲ往復スル汽船日々數艘寄港シ本郡ニ出入スル内外ノ旅客ハ殆ンド此地ニ集散スルノ状態ニアリ

且ツ福田村豊島村ヨリ日々巡航船往復ス尙ホ大正元年新ニ築港ノ工ヲ修メ棧橋ノ設ケヲナシ益々旅客ノ利便ヲ圖レリ附島余島ニハ海水浴場ノ設備ヲ有ス郡内第一ノ殷賑地ナリ

五、町村制實地以來ノ町村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月十日	明治二十五年七月卅一日	土庄村長	笠井常五郎	
同 二十五年十月十日	同 二十六年五月廿六日	同	弘利一	
同 二十六年七月廿四日	同 二十八年七月三十日	同	三枝重太郎	
同 二十八年七月廿六日	同 三十三年三月廿八日	同	西尾侑太郎	
同 三十三年四月四日	大正四年二月十一日	土庄町長	大森貞資	
大正四年二月十二日		同	笠井昌平	

第六章 淵崎村

一、位置 淵崎村ハ郡ノ西部ニ位シ東西一里六町南北十五町面積〇三四九方里ニシテ東北ハ大鐸村ニ接シ西ハ土庄町ニ對シ又海ニ面シ四海村ニ境シ南ハ池田村ニ

隣ル

二、沿革 明治十二年一月三十一日淵崎上庄兩村ニ各戸長役場ヲ置キシガ十八年一月十六日ニ至リ淵崎村外一ヶ村(上庄)戸長役場ヲ淵崎ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ淵崎上庄ノ兩村ヲ合併シテ淵崎村トシ村役場ヲ大字淵崎ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシ商業之ニ亞ギ鹽業アリ製麵業アリ漁業アリ養雞家アリ麥稈真田製造業アリ近來果樹園藝大ニ進ム

四、特徴 大字淵崎及ビ赤穂屋ハ人家稠密商店軒ヲ比ス且ツ土庄港へ出入スル汽船及ビ巡航船ハ本港へモ上下スルノ便アリ又民家ハ多ク平坦部ニ散在スルヲ以テ村治上最モ便利ナリ其ノ他實生院ノ老柏ハ頗ル人目ヲ驚カシ富丘ノ風勝ハ山水双絶タリ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月一日	明治二十七年四月三日	淵崎村長	盛澄	八郎
同 二十七年九月十八日	同 三十年三月十三日	同	井口	謙造

明治三十一年一月十八日 同 三十九年四月十九日 淵崎村長 八代田繁治
同 三十九年四月廿五日 同 八代田勝治郎

第七章 大鐸村

一、位置 大鐸村ハ郡ノ西部ニ位シ東西一里二十一町南北十三町面積〇、五三二方里
ニシテ東ハ草壁大部兩村ニ接シ西ハ淵崎四海二村ニ境シ南ハ池田村ニ對シ北ハ
北浦村ニ隣ル

二、沿革 明治十二年一月三十一日肥土山村戸長役場ヲ置キシガ同年五月七日肥土
山村外三ヶ村(黒岩笠ヶ瀧小馬越)戸長役場ヲ置キ十四年八月一日黒岩村外二ヶ村
(笠ヶ瀧小馬越)戸長役場ヲ分離シ十八年一月十六日肥土山村外四ヶ村(黒岩笠ヶ瀧
小馬越中山)戸長役場ヲ肥土山ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ肥土
山黒岩笠ヶ瀧小馬越ノ四ヶ村ヲ合併シテ新ニ大鐸村トシ村役場ヲ大字肥土山ニ
置ク

三、産業 農業ヲ主トシ林業之ニ次ギ製粉業アリ製麵業アリ酒造業アリ炭坑業アリ
近來果樹園藝漸ク進ム

四、特徴 郡内第一ノ大池タル蛙子ヨリ流ル、傳法川ト中山ヨリ出ヅル殿川トハ何
レモ流水豊富ナルヲ以テ此ノ水力ヲ利用シテ製粉水車ノ業ヲ營ム者多シ又銚子
瀑布ノ壯觀アリ郡内中海ニ瀕セザルモノハ獨リ本村アルノミ

五、町村制實施以來ノ村長

認	滿期	又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年四月廿五日	明治三十一年四月八日	大鐸村長	三木	寛
同 三十一年四月九日	同 三十八年二月廿八日	同	佐々木	開太郎
同 三十八年三月廿九日	同 四十一年三月十五日	同	太田	耕治
同 四十二年六月廿三日	大正二年八月廿二日	同	三木	寛
大正二年九月十九日	同	同	懸川	勝馬

第八章 池田村

一、位置 池田村ハ郡ノ中央ニ位シ東西一里十七町南北一里十町面積一方里二四八
ニシテ東ハ草壁村及ヒ西村ニ接シ南ハ二生村ニ隣リ北ハ淵崎大鐸兩村ニ境シ西
ハ遠ク八栗屋島ニ對ス

二、沿革 明治十二年一月三十一日池田村戸長役場ヲ置キシガ同年五月七日池田村外一ヶ村(中山)及ヒ蒲生村ニ戸長役場ヲ置キ十四年八月一日中山村分離ス十八年一月十六日池田村外一ヶ村(蒲生)戸長役場ヲ池田村ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ池田蒲生中山ノ三ヶ村ヲ合併シ池田村ト稱シ村役場ヲ大字池田ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシテ製麵業之ニ次ギ林業アリ商業アリ漁業アリ且ツ果樹大ニ開發セリ

四、特徴 其ノ面積ニ於テ其ノ畑地ニ於テ其ノ戸口ニ於テ各町村ノ首位ヲ占ム素麵ノ生産額及ヒ車輛ノ數ニ於テ亦然リ村内ニ特別保護建造物ノ會座堂アリ城山高坂ニハ何レモ隧道ヲ穿テリ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月一日	明治二十七年九月廿一日	池田長村	柴田新太郎	
同 二十八年一月十五日	同 二十八年八月三日	同	八木虎次郎	
同 二十八年七月七日	同 四十三年三月廿四日	同	黒田本造	

同 四十四年二月一日

同 中塚吉朗

第九章 二生村

一、位置 二生村ハ郡ノ南部ニ位シ東西三十町南北二十町面積〇、四四七方里ニシテ東ハ内海灣ニ臨ミ西村ニ境シ南ハ三都村ニ隣リ北ハ池田村ニ接シ西ハ遙ニ男木島ニ向フ

二、沿革 明治十二年五月七日室生村外一ヶ村(二面)戸長役場ヲ置キ十六年八月二十五日兩村分離シ十八年一月十六日吉野村外四ヶ村(室生二面神浦蒲野)戸長役場ヲ吉野ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ室生二面ノ兩村ヲ合併シテ新ニ二生村トシ村役場ヲ大字室生ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシ漁業アリ製麵業アリ麥稈真田製造業アリ近來果樹園藝除蟲菊栽培大ニ進ム

四、特徴 村民自治ノ良風ニ富ミ一致團結ノ力強ク果物除蟲菊等ハ都テ共同販賣ヲ實行セリ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月一日	同	明治二十六年五月七日	二生村長	岡 淺五郎
同 二十六年六月十六日	同	同 二十八年九月十三日	同	武部伊之吉
同 二十九年二月十五日	同	同 三十四年六月十二日	同	濱 元豐
同 三十四年八月十二日	同	同 三十五年三月二十日	同	鷹尾新太郎
同 三十五年三月廿一日	同	同 三十七年九月九日	同	岡 勝治
同 三十八年四月十四日	同	同 四十年三月十六日	同	八木治良吉
同 四十年四月四日	同	大正四年十二月十九日	同	八木 實造

第十章 三都村

一、位置 三都村ハ郡ノ南端ニ位シ東西三十一町南北一里五町面積〇、四〇九方里ニシテ東ハ海ヲ隔テ、坂手苗羽兩村ニ面シ西南ハ遠ク大川水田香川ノ三郡ニ向ヒ北ハ二生村ニ接ス

二、沿革 明治十二年五月七日吉野村外二ヶ村(神浦蒲野)戸長役場ヲ置キシガ十四年八月一日三ヶ村各分離シ十八年一月十六日吉野村外四ヶ村(室生二面神浦蒲野)戸

長役場ヲ吉野ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ吉野神浦蒲野ノ三ヶ村ヲ合併シ新ニ三都村ト稱シ村役場ヲ大字吉野ニ置ク

- 三、産業 農業ヲ主トシ漁業之ニ亞ギ石材アリ林業アリ近來製瓦ノ業大ニ進ム
- 四、特徴 水路上有名ナル地藏崎(白濱)又ハ釋迦鼻ハ南ニ突出シテ半島ヲナス譽の松ハ其ノ色益盛ンナリ
- 五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月一日	同	大正四年四月五日	三都村長	柴田 伍一
大正四年四月廿一日	同			八木 啓次

第十一章 西村

一、位置 西村ハ郡ノ東部ニ位シ東西三十二町南北二十四町面積〇、二九一方里ニシテ東ハ草壁村ニ接シ西ハ二生村ニ續キ北ハ池田村ニ境シ南ハ内海灣ヲ隔テ、苗羽村田浦半島ニ對ス

二、沿革 明治十二年五月七日西村役場ヲ置キシガ十八年一月十六日下村外三ヶ村

(西村上村片城)戸長役場ヲ下村ニ置カレ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ編立ス

三、産業 農業ヲ主トシ漁業アリ林業アリ醬油業アリ近來果樹園藝頗ル進ム

四、特徴 明治天皇御寄泊記念碑ハ清水ニアリ東宮駐驛之碑ハ阿彌陀寺ニアリテ共ニ無上ノ光輝ヲ放ツ且ツ香川縣農事試驗場ノ試作ニ係ルオリーブ園ハ水木ニアリテ其ノ成績頗ル良好ナリ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月十日	明治二十六年八月廿二日	西村長	森口總三郎	
同 二十六年十月十九日	同 三十八年四月十八日	同	水野金七	
同 三十八年五月十三日	同 四十三年一月十六日	同	山口市松	
同 四十三年二月十日		同	三木信十郎	

第十一章 草壁村

一、位置 草壁村ハ郡ノ東部ニ位シ東西一里四町南北一里七町面積〇、八二九方里ニシテ東ハ安田村ニ接シ西ハ西村池田兩村ニ界シ北ハ大部村ニ續キ南ハ内海灣ヲ隔テ、苗羽村ニ對ス

二、沿革 明治十二年一月三十一日草加部村戸長役場ヲ下村ニ置キシガ同年五月七日下村外二ヶ村(上村片城)戸長役場ヲ置キ十五年九月二日上村分離シ十八年一月十六日下村外三ヶ村(西村上村片城)戸長役場ヲ下村ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ上村下村片城ノ三ヶ村ヲ合併シテ新ニ草壁村ト稱シ村役場ヲ大字下村ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシ商賈之ニ亞ギ醬油業アリ鹽業アリ林業アリ近來果樹園藝頗ル進ム

四、特徴 下村ニハ明治三十五年築港ノ工ヲ修メ汽船帆船ノ出入頻繁ニシテ旅客貨物ノ上下多ク且ツ一小市街ヲ爲シ警察分署郵便局銀行等アリテ郡内第二ノ般賑地タリ尙ホ民家多ク平坦部ニ散在スルヲ以テ村制ノ自治極メテ容易ナリ且ツ天下ニ有名ナル神懸山ノ奇勝背景ニ存スルノ以テ四時遊客ノ跡ヲ絶タズ

五、町村制實施以來ノ村長

八二八
 滿期又ハ退職 職名 氏名

明治二十三年六月一日 草壁村長 坂本定五郎
 同 三十五年六月廿一日 秋田 爲雄

第十三章 安田村

一、位置 安田村ハ郡ノ東端ニ位シ東西二十五町南北一里十五町面積一方里〇一六
 ニシテ東ハ遠ク淡路島ニ對シ西ハ草壁村ニ隣リ南ハ苗羽坂手兩村ニ接シ其ノ一
 部ハ内海灣ニ臨ミ北ハ福田村ニ續ク且ツ橋岩ケ谷當濱ノ三大字ハ東海岸ニ面ス
 ルヲ以テ里人之ヲ東浦ト呼ブ
 二、沿革 明治十二年五月七日安田村外一ヶ村(木庄)又岩谷村外二ヶ村(橋當濱)戸長役
 場ヲ置キシガ十八年一月十六日一戸長役場トシ其ノ役場ヲ安田ニ置キ二十三年
 二月十五日町村制實施ニ際シ安田木庄橋岩谷當濱ノ五ヶ村ヲ合併シテ安田村ト
 稱シ村役場ヲ大字安田ニ置ク
 三、産業 農業ヲ主トシ醬油業之ニ亞ギ漁業アリ石材業アリ近來果樹園藝大ニ進ム
 四、特徴 本部第一ノ高山タル星ヶ城アリ又醬油販賣業ノ元祖タル高橋氏出ヅ然レ

ドモ各大字ノ點在スルヲ以テ村治上頗ル不便ナリ
 五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期	又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年四月廿六日	明治三十三年三月卅一日	安田村長	永車 菊藏		
同 三十三年四月七日	同 三十九年二月十五日	同	西尾 侑太郎		
同 三十九年四月四日	同 三十九年六月十五日	同	高橋 武吉		
同 三十九年六月廿六日	同 四十三年六月廿五日	同	笠井 常五郎		
同 四十四年四月十八日	同	同	永車 萬藏		

第十四章 苗羽村

一、位置 苗羽村ハ郡ノ東部ニ位シ東西一里二十一町南北二十三町面積〇四五六方
 里ニシテ古江堀越田浦ノ三大字西ニ向ヒ突出シテ半島ヲナス東北ハ安田村ニ接
 シ南ハ坂手村ニ隣リ半島ノ西ハ三都村蒲野ニ對シ南ハ遙ニ大川郡ニ向ヒ西北ハ
 二、沿革 明治十二年五月七日苗羽村外一ヶ村(古江)戸長役場ヲ置キシガ十八年一月

十六日坂手村外四ヶ村(苗羽古江堀越田浦)戸長役場ヲ坂手村ニ置キ二十三年二月
十五町村制實施ニ際シ苗羽古江堀越田浦ノ四ヶ村ヲ合併シテ苗羽村ト稱シ其ノ
役場ヲ大字苗羽ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシ漁業之ニ亞ギ醬油業最モ旺盛ナリ近來果樹園藝大ニ進ム

四、特徴 醬油釀造盛況ヲ極メ其ノ産額全郡ノ三分ノ一以上ニ達ス是ヲ以テ縣立工
業(醬油)試験場ノ設置アリ丸金醬油會社ハ高等醬油ヲ釀出シテ大ニ歡迎セラル然
レトモ各大字ノ點在スルヲ以テ村治上ノ不便尠カラズ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月一日	明治三十五年四月十二日	苗羽村長	里島作次郎	
同 三十六年四月廿四日	同 四十四年三月廿一日	同	岩部 龜士	
大正 二年四月二日		同	黒島 剛	

第十五章 坂手村

一、位置 坂手村ハ郡ノ東南端ニ位シ東西一里十三町南北三十町面積〇三三八七方里

ニシテ東南ハ遠ク淡山讃岳ヲ望ミ西ハ三都村ニ對シ北ハ苗羽安田兩村ニ接ス

二、沿革 明治十二年五月七日坂手村外二ヶ村(堀越)浦田戸長役場ヲ置キシガ十八年
一月十六日坂手村外四ヶ村(苗羽古江堀越田浦)戸長役場ヲ坂手ニ置キ二十三年二
月十五日町村制實施ニ際シ獨立ス

三、産業 農業ヲ主トシ漁業之ニ亞ギ醬油業アリ林業アリ且ツ近來果樹園藝漸ク進
ム

四、特徴 水路上有名ナル大角ノ燈臺ハ大正二年ノ建設ニシテ東北ハ播淡洋西南ハ
東讃ノ海上ヲ照シテ皎々タリ中國航路ノ汽船日々數回ノ寄港スルアリテ旅客ノ
來往貨物ノ集散頻繁ニシテ頗ル盛況ヲ極ム且ツ從來高等海員ノ出身尠カラズ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月十一日	明治二十七年四月三日	坂手村長	久留島昌平	
同 二十七年六月十四日	同 二十九年九月三十日	同	武井 弘毅	
同 二十九年十月九日	同 三十三年十月八日	同	片山木之松	
同 三十三年十月九日	同 三十七年十月八日	同	武井 仲吉	

明治三十八年一月十六日 明治四十三年三月廿五日 坂手村長 片山水之松
 同 四十三年五月十四日 同 四十四年二月廿一日 同 板倉仁三郎
 同 四十四年五月廿六日 大正二年四月廿八日 同 久留島治作
 大正三年 同 川野助太郎

第十六章 福田村

- 一、位置 福田村ハ郡ノ東北端ニ位シ東西二十五町南北一里十一町面積〇、九一五方里ニシテ東北ハ遠ク播淡ノ山ヲ望ミ北西ハ大部村ニ接シ南西ハ安田村ニ續ク
- 二、沿革 明治十二年一月三十一日福田村ニ戸長役場ヲ置キシガ同年五月七日福田村外一ヶ村(吉田)戸長役場ヲ置キ二十三年二月十五町村制實施ニ際シ福田吉田ノ兩村ヲ合併シテ福田村ト稱シ村役場ヲ大字福田ニ置ク
- 三、産業 農業ヲ主トシ漁業之ニ亞ギ石材業亦盛ンナリ
- 四、特徴 石材ハ最モ豊富ニシテ舊ニ宮城御造營ノ御用ヲ蒙リ近ク明治天皇御陵及ヒ昭憲皇太后御陵ノ御用ヲ命セラル
- 五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月九日	明治三十九年四月三日	福田村長	三木但一郎	
同 三十九年四月四日	同 四十三年四月三日	同	三木虎太郎	
同 四十三年五月十四日	同	同	笠井玄治郎	

第十七章 大部村

- 一、位置 大部村ハ郡ノ北部ニ位シ東西一里二十六町南北一里二町面積一方里一、九四ニシテ東ハ福田村ニ界シ西ハ北浦大鐸兩村ニ接シ南ハ草壁村ニ續キ北ハ遙ニ備前ノ諸山ニ向フ
- 二、沿革 明治十二年一月三十一日大部村戸長役場ヲ置キシカ同年五月七日大部村外一ヶ村(小部)戸長役場ヲ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ大部小部兩村ヲ合併シテ大部村ト稱シ村役場ヲ大字大部ニ置ク
- 三、産業 農業ヲ主トシ林業之ニ亞ギ石材業アリ醬油業アリ漁業アリ且ツ從來果樹園藝盛ンナリ
- 四、特徴 由來林業ニ富ムノ地ニシテ先年嶮岨山分割後之ヲ買取シテ村有トナシ更

ニ學校有トナシテ之ヲ整理シ今日爵蒼タル公有林トナレリ是レ他町村ニ其ノ比ヲ見ザル所ナリ

五、町村制實施以例ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年四月廿四日	明治四十三年四月三日	大部村長	頓宮	正平
同 四十三年四月四日	同 四十四年七月七日	同	佐伯榮太郎	
同 四十四年八月十八日		同	遠藤三千二	

第十八章 北浦村

一、位置 北浦村ハ郡ノ北部ニ位シ東西三十四町南北十四町面積〇、五五〇方里ニシテ東ハ大部村ニ境シ西ハ四海村ニ接シ南ハ大鐸村ニ隣リ北ハ遙ニ備前國ニ向フ

二、沿革 明治十二年一月三十一日小海村戸長役場ヲ置キ同年五月七日小海村外二ヶ村(見目屋形崎)又馬越村外一ヶ村(瀧宮)戸長役場ヲ置キシカ十六年八月廿五日瀧宮村分離シ十八年一月十六日屋形崎村外四ヶ村(小海見目馬越瀧宮)戸長役場ヲ屋形崎ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ小海見目屋形崎馬越ノ四ヶ村

ヲ合併シ新ニ北浦村ト稱シ村役場ヲ大字見目ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシ石材業之ニ亞ギ醬油業アリ麥稈眞田製造業アリ林業アリ且ツ從來果樹ノ栽培ニ努ム

四、特徴 大正四年御大禮紀念事業トシテ御即位大典記念會ヲ創立シ土地ヲ埋立テ記念碑ヲ建設シ金庫及ヒ事務所ヲ建築シテ百年ノ長計ヲ樹立シ萬代不易ノ基礎ヲ立ツ實ニ全國中稀ニ見ル所ノモノナリト云フ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期又ハ退職	職名	氏名
明治二十三年五月廿五日	明治四十三年四月十五日	北浦村長	三宅	一雄
同 四十三年六月二十日		同	三宅	繁

第十九章 四海村

一、位置 四海村ハ郡ノ西北部ニ位シ東西一里九町南北三十一町面積〇、五八三方里ニシテ東ハ大鐸北浦兩村ニ接シ南ハ淵崎及土淵灣ヲ隔テ、土庄町ニ對シ西北ハ豊島村又ハ備前國ニ向フ

二、沿革 明治十二年五月七日伊喜末村外二ヶ村(小江長濱)戸長役場ヲ置キシガ十四年八月一日各村分離シ十八年一月十六日更ニ伊喜末村外二ヶ村(小江長濱)戸長役場ヲ伊喜末ニ置キ二十三年二月十五日町村制實施ニ際シ伊喜末小江長濱瀧宮ノ四ヶ村ヲ合併シ新ニ四海村ト稱シ村役場ヲ大字伊喜末ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシ漁業之ニ亞ギ石材業アリ麥稈眞田製造業アリ近來果樹園藝漸ク進ム

四、特徴 屬島及ビ船舶ノ多キコト各町村ニ冠タリ然ルニ各大字ノ點在セル村治上最モ不便ヲ極ム

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期	又	ハ	退職	職名	氏名
明治二十三年五月一日	明治二十九年三月三日	四海村長	高橋	伊門			
同 二十九年三月十日	同 四十四年六月十四日	同	同	笠松	信治郎		
大正元年九月十九日	同	同	同	増井	治二郎		

第二十章 豊島村

一、位置 豊島村ハ郡ノ西南部ニ位シ東西一里三十二町南北一里十町面積〇、九五二方里ニシテ東ハ土庄四海兩町村ニ向ヒ西ハ直島及ヒ井島ニ對シ南ハ男木島近ク呼ベバ應セントシ北ハ遠ク備前ノ兒島ヲ望ム

二、沿革 明治十二年五月七日家浦村外二ヶ村(唐櫃甲生)戸長役場ヲ置キシガ十四年八月一日各分離シ十八年一月十六日更ニ家浦村外二ヶ村(唐櫃甲生)戸長役場ヲ家浦ニ置キ二十三年二月十五日村町制實施ニ際シ家浦唐櫃甲生ノ三ヶ村ヲ合併シテ新ニ豊島村ト稱シ村役場ヲ大字家浦ニ置ク

三、産業 農業ヲ主トシ石材業之ニ亞ギ漁業アリ近來果樹園藝漸ク進ム

四、特徴 田面及ヒ山林ノ廣キコト各町村ニ冠タリ耕地整理亦各町村ニ卒先シ青年會ハ第一ニ表彰サル、ノ榮ヲ得タリ然レドモ由來本村ハ郡ノ西方四湮ヲ距ル離島タルト各大字ノ點在セルトヲ以テ村治上頗ル不便ナリ

五、町村制實施以來ノ村長

認	可	滿期	又	ハ	退職	職名	氏名
明治二十三年五月三十日	明治二十八年三月十二日	豊島村長	永井	勝太郎			
同 二十八年三月廿四日	同 三十一年四月一日	同	同	三宅	健		

明治三十一年八月卅一日 明治三十四年十月廿四日 豊島村長 淺田 登
 同 三十五年九月二日 同 三十九年九月二日 同 笠井常五郎
 同 三十九年五月七日 同 四十五年四月五日 同 八代田繁治
 大正元年十月九日 同 三宅 連

第廿一章 諸表

町村ノ狀勢ヲ示シシカ爲メ戸口、反別、地價、國稅、縣稅、町村稅、農產、工產、畜產、林產、海產、船車、基本財産、各議員選舉有權者、外國在留人及ヒ諸稅負擔及ヒ諸品生産ノ諸表ヲ以テス蓋シ自治ノ發展事業ノ消長ヲ對比スルノ便ニ供センカ爲メナリ而シテ諸表ハ概シテ大正四年末ノ調ニシテ其ノ會計年度ニ關スルモノ該年度ノ計算ヲ以テス

戸口表	戸數		人口		計
	男	女	男	女	
土庄町	一、〇五三	三、二〇一	三、一七九	六、三八〇	
淵崎村	七二〇	二、〇一五	一、九四三	三、九五八	
大鐸村	三六九	一、〇九八	一、〇〇一	二、〇九九	
池田村	一、〇九九	三、一八四	三、一三四	六、三一八	
二生村	三三一	一、〇二七	九六九	一、八九六	
三都村	三六〇	一、一一二	一、〇二七	二、一三九	
西村	二六〇	六八六	七六八	一、四五四	
草壁村	六六二	一、七〇二	一、一〇一	三、四〇三	
安田村	六二九	一、七七一	六四〇	三、四一一	
苗羽村	四四七	一、六二七	一、五四七	三、一七四	
坂手村	二四一	五九二	六四八	一、二四〇	
福田村	四〇一	一、〇一二	一、〇一八	二、〇三六	
大部村	六二四	一、六四八	一、五九八	三、二四六	
北浦村	四五七	一、二五一	一、三二一	二、五七二	
四海村	七七一	一、九八四	二、〇三〇	四、〇一四	
豊島村	六六六	一、五六四	一、五一四	三、〇七八	
計	九、〇六五	二五、四七四	二五、〇三八	五〇、五一一	八二九

土地反別表

町村	田反別	畑反別	宅地坪數	鹽田反別	山林反別	其他反別	計
土庄町	一五二	二四九	五、三三	一七〇	五〇五九	八〇	八二三
淵崎村	四六六	九一七	五、二九二	一〇〇	三七五	六	四九五
大鐸村	五三二	一四二二	四、五七〇	〇	四九六一	六	六七四九
池田村	六六七	二八四〇	一〇、三四二	〇	一、〇七四九	八	一、四六二四
二生村	二〇二	一一〇八	二九、四四八	〇	四四〇一	七	五八一七
三都村	一四一	二七一	三七、六四五	〇	四一九一	八	五七三五
西壁村	一三五	九七六	三〇、四九〇	〇	二〇四〇	三	三五六
草壁村	六六六	一三〇九	六七、〇四七	〇	七四〇〇	七	九二五二
安田村	五三三	一〇八七	五九、八八一	六四	一、〇〇一	五	一、二八八九
苗羽村	二二八	二七四	六八、七五四	〇	三六六五	二	五三九九
坂手村	九	五〇四	一八、一一一	〇	三三八	一	三八〇二
福田村	二〇九	一九八	二七、六四二	〇	八六九五	一	九一九五
大部村	二二〇	九六	五七、〇八七	〇	一、一〇五	一	一、二四三七
北浦村	三三三	二七	四三、八九六	〇	六三四	〇	一、〇五九四
四海村	四六	二三四	六三、八二〇	〇	三九一	一	六六二八
豐島村	九〇一	一三〇〇	六六、七四三	〇	一、一〇三六	一	一、三四九七
計	五七六	二、〇八四	八六、一〇四	四〇九	一〇、〇八〇	三三六	一三、二九三九

土地々價表

町村	田地價	畑地價	宅地々價	鹽田地價	山林地價	其他地價	計
土庄町	一、八四九	二四、一〇六	二九、〇七六	二、五〇〇	二、七九九	二、二二	六〇、五八
淵崎村	一八、八三三	九、三九四	二五、〇一四	二、二六四	二、一六四	二、三	五七、六九五
大部村	一七、六六七	三三、五五六	三三、二〇三	〇	三、七五一	七	四四、四九四
池田村	二五、〇六五	一〇、八五〇	七、六九八	〇	九、三八九	二	一〇〇、一九四
二生村	七、一四六	一〇、二六七	二七、八八九	〇	二、二八七	六	二九、六五八
三都村	三、七四八	三、〇六六	八、三八一	〇	八、五二四	八	三三、二八七
西壁村	二、二七八	二〇、二六七	九、九八五	〇	二、三六六	二	二四、九三三
草壁村	二〇、〇五三	三、五七	二七、八九	一、一八二	五、二五三	二	六八、五二一
安田村	二〇、〇五三	一〇、五六〇	三三、八〇九	一、四四九	二、三六六	一〇	六七、二四七
苗羽村	八、三五九	三、七七一	二五、六二五	九	八、四〇〇	三〇	五六、一八四
坂手村	一三六	四、一八五	六、一九九	〇	七、七三一	〇	一八、二三一
福田村	五、六八八	一、七八一	七、四四〇	〇	六、七三九	二	二一、六五〇
大部村	五、八〇三	九、八九八	一五、七九八	〇	一三、七九五	四	四〇、三三六
北浦村	四、九五二	一三、三三七	一一、五〇五	〇	八、三三八	四〇	三九、〇七二
四海村	五、八〇八	二六、二四〇	一八、七六五	三九七	五、一九	三	五六、〇八五
豐島村	一七、六九〇	一三、六〇九	一五、〇〇九	〇	一〇、九二三	四	五七、二六六
計	一五、七五四	二、〇五九	二七四、二六四	八、二八	二一〇、六三二	三九六	七九、七八六

直接國稅徵收表

町村	地租	所得稅			營業稅	礦業稅			計
		第一種	第二種	第三種		試堀	採堀	礦產	
土庄町	二,二五三	四八	六七	一,〇九五	一,四四六	〇	〇	〇	四,八〇一
淵崎村	二,一五九	二八	六九	七三	五二七	〇	〇	〇	三,四八八
大鐸村	一,八九九	〇	二四	二四〇	一三六	〇	〇	〇	二,三三九
池田村	三,九四五	〇	四三	四九三	八七	〇	〇	〇	五,二五九
二生村	一,三三三	〇	〇	二〇	二	〇	〇	〇	一,一七八
三都村	一,四四四	〇	〇	八二	一〇	〇	〇	〇	一,五〇七
西壁村	九三四	〇	〇	二八七	五六五	〇	〇	〇	一,七八六
草壁村	二,六二〇	七五	一,二二五	一,八九九	二,四〇五	〇	〇	〇	六,九三二
安田村	二,七一	八七九	一,四三三	二,三二一	一,七四〇	〇	〇	〇	六,八一九
苗羽村	二,一〇四	一,四四四	一,三三一	三,〇五五	三,七六六	〇	〇	〇	八,三六六
坂手村	七四	〇	二八二	二〇七	〇	〇	〇	〇	一,一八四
福田村	八四八	二四	二七	一五二	一八四	〇	〇	〇	一,二六四
大部村	一,八一	二七	二七	二二	二五	〇	〇	〇	一,一八四
北浦村	一,五九九	二六	二九	三四五	二五七	〇	〇	〇	二,二六五
四海村	二,二〇七	〇	三七	三七	二七	〇	〇	〇	二,二六六
豐島村	二,三三五	〇	六七〇	六七〇	六三	〇	〇	〇	三,一〇九
計	三〇,八〇一	一三,七六	八,五〇四	三三,二四一	二二,〇三四	四	一七〇	一四	五五,三五三

間接國稅徵收表

町村	酒稅	醬油稅	自家用醬油稅	消費稅	通行稅	織物稅	相續稅	計
淵崎村	四,八七七	八四九	〇	九	〇	〇	五,八五四	
大鐸村	五,七六七	〇	二八	〇	〇	〇	五,八一五	
池田村	〇	三,一五五	三	三六六	〇	六	三,七〇〇	
二生村	〇	七	三	三二	〇	〇	三三	
三都村	〇	〇	四	〇	〇	〇	元	
西壁村	〇	一六,九三五	三	〇	〇	〇	一六,九六九	
草壁村	九,二二四	三二,五四七	七	〇	〇	〇	四〇,八八四	
安田村	〇	三〇,三九一	二四	四	〇	〇	三〇,四七九	
苗羽村	〇	七〇,一六九	三	一四八	〇	〇	七〇,三六〇	
坂手村	〇	二,六八六	〇	〇	三二	〇	二,九〇八	
福田村	〇	一,一五二	二〇	〇	〇	〇	一,一五四	
大部村	〇	二,八四四	五	一九九	〇	〇	三,〇八七	
北浦村	〇	二,七七八	七	〇	〇	〇	二,七三四	
四海村	〇	二四〇	九	〇	〇	〇	二八二	
豐島村	〇	二〇八	一	〇	〇	〇	二〇九	
計	一九,七三三	一六七,四〇六	二四一	一,〇九五	八〇八	二六	一,五九九	一九〇,八六三

縣稅徵收表

町村	地租割	營業稅	雜種稅	戶數割	附營業稅	附所得稅	實業營業稅附加稅	計
町村	八四	六九二	一、三三二	一、六三五	一八九	四	一	四、七四四
土庄町	八三	四四	一、一八八	一、〇九四	六九	三七	〇	三、六四九
淵崎村	六二	一五	二七六	三五	一七	三	一	一、五七九
大鐸村	一、五九	六九九	九六七	一、二四三	一〇五	三	一	四、五八七
池田村	四九五	一七一	二九一	二七二	二	一	一	一、二三三
二生村	五七九	一五一	三五四	三三九	一	四	〇	一、四〇九
三都村	三五五	一六四	三〇七	三六五	六九	一四	〇	一、二七七
西壁村	九七六	五三三	八八〇	一、三七二	二九八	七四	〇	四、二四四
草壁村	一、〇六四	四三二	九六四	一、二八八	三三六	七	〇	四、〇四九
安田村	七七一	四三	九三三	一、四九三	四二	一〇〇	〇	四、一三四
苗羽村	三〇六	二二二	三九九	三五九	二六	三	〇	一、二二九
坂手村	三三〇	二七四	五八八	五〇六	二二	七	〇	一、七五〇
福田村	七〇四	五四九	七三七	七〇〇	二〇	二	〇	二、七三三
大部村	六二五	二七五	三三五	四八八	一三三	二	〇	一、七五〇
北浦村	八六四	二二八	八五〇	六六一	三〇	一五	〇	二、六四一
四海村	九七五	二六	四〇〇	五八一	八	二四	五	二、二六六
計	一三、〇一九	五、五六九	一〇、八三一	一三、七五一	一、五四四	四六三	五	四三、二一一

町村稅徵收表

町村	地租割	國稅營業稅附加稅	附所得稅	實業營業稅附加稅	附戶數割	縣稅營業稅附加稅	縣稅雜種稅附加稅	計
町村	三七五	一六	二五	〇	九、四四一	三四五	六八二	一一、一八七
土庄町	三九〇	七九	〇	〇	六、六三三	二九	四九二	七、八四四
淵崎村	三五五	一〇	三三	〇	二、六二四	七七	一三八	三、三三〇
大鐸村	七三二	二二	〇	〇	七、六八四	三四七	四七五	九、三六一
池田村	二二二	〇	二	一	三、七五一	八六	一四五	三、七二一
二生村	二六六	〇	〇	〇	三、八五四	七五	一七五	四、三七一
三都村	一六六	五	二八	〇	三、五七四	四〇	七五	三、九四二
西壁村	四九七	三三三	一七五	〇	八、七七三	二六〇	三九六	一〇、四四六
草壁村	四九七	二六八	二〇四	一	六、四三七	二四	四七七	八、一四四
安田村	四九七	二六八	二〇四	一	六、四三七	二四	四七七	八、一四四
苗羽村	三六一	四七五	三八八	〇	八、四二五	二二〇	四八〇	一〇、三三二
坂手村	一三五	三三	四二	〇	二、二七四	一九	五六	二、五五八
福田村	一六二	二七	二〇	〇	五、四八二	二二六	二九三	六、〇七九
大部村	三三八	二八	二六	〇	四、五八二	二二八	二九三	五、四七七
北浦村	二九二	三五	四三	〇	四、七四二	一三〇	一五六	五、三九三
四海村	四〇七	九	四三	〇	六、五七六	一三〇	四三	八、四一八
豐島村	四四九	九	二六	〇	七、二二七	一三三	二〇三	七、九四八
計	五、六二二	一、七六六	一、一三〇	二	九一、四七六	二、六三三	四、九六六	一〇七、六二二

農產表

町村	米		麥		甘藷		果物		其他		計
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	
町村	二八〇	三、八五〇	四、四三三	三、六九七	六〇六、八〇〇	三、四四四	二、五三四	二八、三九八	九、八九八		
土庄町	九三三	二、三三六	二、二〇六	一四、二三〇	二五、三〇〇	九、五九八	三、五三三	一〇、八四七	五〇、四八四		
淵崎村	七九九	一〇、五五六	二、三〇九	一六、五九九	三〇〇、〇〇〇	一一、二〇〇	七二〇	二二、七六〇	五、七四七		
池田村	一、三三八	一六、五〇〇	七、四四八	五、六七四	六六六、〇〇〇	二二、三三六	六、八七七	三三、六二五	二七、〇四二		
大鐸村	二六二	三、五九九	一、八六〇	一四、〇五二	一四、四〇〇	五、三七三	五、三六九	一一、七九二	四〇、一五五		
三都村	二一九	一、六〇七	一、六六八	三、四八二	一五、七七八	五、〇七四	三〇七	六、九〇二	二六、三七二		
西都村	一七三	二、三六三	一、六四二	一三、一六七	一五九、〇〇〇	六、三六〇	二、三三八	九、七八四	三四、〇二二		
草壁村	八六九	二、八七九	二、八二六	三、九九八	一六〇、〇〇〇	六、四〇〇	五、四三八	四、九七四	五、六八九		
安田村	七九三	一〇、八六〇	二、五五六	二、二二六	一五五、〇〇〇	六、二〇〇	三、六八九	一〇、六三三	五三、六八九		
苗羽村	三七七	五、〇八七	二、六四四	二、九八八	六四〇、〇〇〇	一、九二〇	一、六六六	五、八四四	三六、四六五		
坂手村	二二	二、七九	七六〇	四、九四九	六〇、〇〇〇	二、四〇〇	一、三三八	五、三九二	九、六七二		
福田村	一〇七	二、八〇九	五五五	四、〇二〇	三三、三五〇	一、六六七	二、三三二	二、五四三	一一、五四三		
大部村	四六五	六、三三九	一、四〇六	九、五三三	五四〇、〇〇〇	六、九三〇	一、八七四	八、一〇〇	三三、〇七六		
北浦村	五七七	七、〇五三	二、八八五	一九、七八八	二四七、〇〇〇	九、八八〇	一、一五四	一〇、七八四	四八、六四九		
四海村	六三三	八、三四一	五、一九〇	三九、〇二四	六二七、二〇〇	二五、〇八八	二、八〇四	二八、〇二五	一〇三、二七二		
豐島村	一、三三一	一八、二二五	二、〇七五	一四、一二二	一六八、〇〇〇	五、〇四〇	二、八六九	六、六六二	四六、八〇八		
計	八、九八一	二二、五七〇	四二、九九四	三〇、八九三	三、九〇八、〇六八	一四七、〇九〇	四、八八五	一八七、〇五五	八、五、三〇〇		

工產表

町村	酒		醬油		素麵		麥稈與田	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
町村	二四九	九、四四四	二、七五〇	四、八五〇	四、四五二	二、二二〇	二八、四八一	五、七〇二
土庄町	二九六	一〇、三〇二	五二〇	六、八四三	四、四〇〇	一〇、〇〇〇	八、六〇二	三、四八六
淵崎村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
池田村	〇	〇	一、三〇〇	二、二六七	四〇〇、〇一五	二〇〇、〇〇七	五、一五六	九、三
大鐸村	〇	〇	四一	六、七二	二八、五五〇	三、七〇〇	三、一五三	五、四
三都村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
西都村	〇	〇	三、一五〇	一七〇、九五〇	〇	〇	〇	〇
草壁村	四〇〇	一六、〇〇〇	三〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	二〇〇	一三〇	〇	〇
安田村	〇	〇	三三、〇八〇	三二、五八六	二〇、六四九	八、六〇〇	〇	〇
苗羽村	〇	〇	五、七八八	五七、七八〇	〇	〇	〇	〇
坂手村	〇	〇	二、三三六	三三、七三三	〇	〇	〇	〇
福田村	〇	〇	九一五	一一、〇一〇	〇	〇	〇	〇
大部村	〇	〇	二、〇三二	二八、三三八	二九七	一四九	〇	〇
北浦村	〇	〇	二、〇八〇	三二、二〇〇	〇	〇	〇	〇
四海村	〇	〇	三三四	四、七〇〇	七五二	四〇六	九、三三五	一、五二二
豐島村	九四九	三、七四七	一、四〇〇	二、一〇〇	四九七、三九九	二、五四、五九八	六、五、九八	二、二、四〇二
計	九四九	三、七四七	一、三三、三四二	一、六四六、〇九九	四、九七、三九九	二、五四、五九八	六、五、九八	二、二、四〇二

町村	菓子		麥粉		煉瓦		瓦		計
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	
町村	六、五〇〇	五、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	一、四、〇〇〇	一、五〇〇	五、〇五三
土庄町	六、五〇〇	九七五	六、一五〇	四、四三二	一、〇二〇	一、〇二〇	一、五八、〇〇〇	一、四三三	四九、三三三
淵崎村	〇	〇	四、〇〇〇	二八、八〇〇	〇	〇	〇	〇	四九、三二七
大鐸村	五、二〇〇	八六四	一、八七五、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	〇	〇	五〇、〇〇〇	七五〇	三、八、八一〇
池田村	五〇〇	一四〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一四、九二〇
二生村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五七三、二八〇	五、七三二	五、七四七
三都村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一七、三五〇
西村	四、〇〇〇	四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四六、八、六四六
草壁村	五、〇〇〇	一、二五〇	四、四〇〇	三九六	〇	〇	六〇、〇〇〇	九〇〇	三、八、九七〇
安田村	二、〇〇〇	二、二〇〇	七、五、六八四	六、五八四	〇	〇	〇	〇	三、七、七五四
苗羽村	〇	〇	〇	〇	四、〇〇〇	五、四〇〇	五、八五〇	八〇七	一、二、四七八
坂手村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三、二、二〇〇
福田村	〇	〇	八、八三〇	四九	〇	〇	〇	〇	三、二、二〇〇
大部村	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、五三〇	一、一二七	〇	〇	〇	〇	三、二、二〇〇
北浦村	〇	〇	二、〇三三	一、五〇四	〇	〇	〇	〇	六、六九一
四海村	一、四〇〇	二九〇	五七二	五四	〇	〇	〇	〇	二、七六七
豐島村	三、〇〇〇	六〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二、七六七
計	二〇九、一五〇	一四、一九二、四九五、一九一	一四七、〇二一	一四七、〇〇〇	一、五六〇	一、〇三五、一三〇	二、一一一	二、一三三、〇四二	

畜産表

町村	牛		豚		鶏		卵		計
	頭數	價格	頭數	價格	頭數	價格	個數	價格	
町村	二八〇	二〇、二四〇	三、七〇	六、三九五	二、三三三	九、九	二、三、六九〇	二、〇五三	二九、五、六三
土庄町	二、三三	一〇、二六〇	一、二三	一、九四五	二、九六八	一、三五	一、九、一八〇	三、八、四	一七、三、四四
淵崎村	二、五四	一六、二〇四	〇	〇	一、〇九六	四、五八	八、二、三三	一、六、八七	一六、八、二七
大鐸村	四、八〇	四〇、九一〇	一、六二	二、九五五	四、二八四	一、八八〇	一九九、四〇〇	二、九、三三	四八、六、八
池田村	一、三四	一、二三三	一、六二	二、九五五	一、〇一六	四、七四	四、五、六三〇	七、三〇	一五、二、四一
二生村	一、四八	一、二八四	一、七	三、四〇	六、四一	二、七六	三、三、六三三	三、六一	一三、二、六一
三都村	九、五	七、八八五	一、九	三、八〇	三、七〇	二、〇五	三、〇、〇〇〇	五、二〇	八、九、八〇
西村	一、〇八	七、二六六	五、七	一、一四〇	三、一〇〇	九、〇五	一、〇六、〇〇〇	一、六、九六	一〇、九、〇七
草壁村	九、四	七、八〇二	二、八五	四、六、六五	一、七三〇	七、四	八、二、〇〇〇	一、四、七六	一四、六、二七
安田村	七、四	六、一四二	二、六〇	四、一、二五	一、五八八	七、三〇	五、四、九一五	八、二、四	一一、八一
苗羽村	四	三、三四	六	一、一〇〇	七、五〇	三、八〇	三、〇、〇〇〇	五、四〇	二、四、五、四
坂手村	四	二、二八七	〇	〇	四、九七	一、八四	一、九、〇〇〇	三、四九	二、八、二〇
福田村	八、八	五、一、三四	二	四〇	八、〇九	四、一五	三、三、四七〇	六、四九	六、三、三四
大部村	一、七五	一、一、四三五	六	二、〇〇	四、四八	一、七六	三、六、〇二四	六、五一	一一、三、七二
北浦村	三、〇一	二、一、八八三	一、七二	二、九五五	一、一三五	五、八六	七、六、三五	一、二、九七	二、六、七二
四海村	九、六	七、九、六八	二、三	四、四〇	二、一五五	六、三七	五、九、〇〇〇	一、〇、六二	一〇、一、〇六
豐島村	二、四九五	一、八、八一	一、七二〇	二、九、五五	二、四、九七	一〇、三五	一、一、四、九六六	一九、一〇七	二、四、七、七八
計	二、四九五	一、八、八一	一、七二〇	二、九、五五	二、四、九七	一〇、三五	一、一、四、九六六	一九、一〇七	二、四、七、七八

町村	日本形船		西洋形船		小 船	計	人力 馬車	積荷 車馬	自轉 車	計
	未滿 以上	未滿 以上	未滿 以上	未滿 以上						
土庄町	三〇	〇	一〇	〇	三	三三	二	〇	一四	三七
淵崎村	七	〇	〇	〇	〇	七	〇	〇	八	一五
大鐸村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
池田村	三	〇	〇	〇	〇	三	〇	〇	三	六
二生村	二	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	二	四
三都村	三	〇	〇	〇	〇	三	〇	〇	三	六
西壁村	五	〇	〇	〇	〇	五	〇	〇	五	九
草壁村	七	〇	〇	〇	〇	七	〇	〇	七	一三
安田村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
苗羽村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
坂手村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
福田村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大浦村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
北浦村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四浦村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
豐島村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	九〇	〇	八〇	〇	三九	一七一	七〇	四二	四二	二五五

八四一

町村	林產		海產	食鹽	計
	木	石			
土庄町	六九	二〇〇	五三九	三九六	三、三六三
淵崎村	四八	七〇	七一九	二〇	二、七六四
大鐸村	一、六九	五〇	〇	〇	一、七四〇
池田村	一、三三	五〇九	七五七	〇	三、三九七
二生村	五六〇	四九四	〇	〇	一、〇五四
三都村	一、一四五	〇	六三八	〇	一、八三三
西壁村	五〇〇	〇	九八三	〇	一、四八三
草壁村	四、八三六	三、〇〇〇	四八八	〇	八、三二四
安田村	五、九七三	三、〇〇〇	七、九〇〇	〇	一六、八七三
苗羽村	一七五	五四〇	九、九六	〇	一一、二七〇
坂手村	四、二四二	〇	三、八三二	〇	八、〇七四
福田村	八四五	七、七〇〇	三三、〇七四	〇	四一、五二四
大浦村	一三、九一五	二、七〇〇	八、八六九	〇	二五、四八四
北浦村	二、七三二	三九、五四〇	七五	〇	四一、五〇七
四浦村	一、一五四	七、七	二、〇〇〇	〇	三、八六一
豐島村	一、三〇〇	二〇、〇〇〇	九、三六一	〇	二一、六三六
計	四、五五	一、三、七九四	一、五、七四九	六八、九四一	三、三、六八一

八四〇

基本財産表

町村	田反別	畑反別	宅地	山林	其他	建物	公債	現金	計
町村	八、〇一〇	二四三、八〇一	四、五三二	一一、四一〇、五〇〇	七、一〇三	八、五	四、四三〇	五、七、三三〇	一、四、三、七、六
土庄町	六、五	一、九、三、〇七	二、五五四	三、四八、〇〇八	六、四、〇二五	八、五	四、二、五	四、四、七、五	二、九、二、三、六
淵崎村	〇	二、二四	〇	四、八二、二二七	一、二八	〇	〇	一、九、八、三	二、七、八、二
大鐸村	三、六	〇	〇	一、三、八、七、二二	〇	〇	九、五、〇	三、三、六、一	六、五、四、九
池田村	〇	〇	〇	一、二、七、三、四〇八	〇	〇	九、六、五	二、二、六、〇〇	一、六、六、六、七
二生村	一、二、〇、三	〇	〇	六、二、三、三、八	三、八、〇、九	〇	九、五、〇	一、一、九、六、一	一、三、二、三、三
三都村	〇	〇	〇	三、〇、八、二、四	〇	〇	二、〇、八、八	五、〇、八、七	一、六、四、二、一
西壁村	〇	〇	〇	二、〇、九、〇〇	七、七、七	〇	七、九、一	二、八、六、五	四、八、六、九
草壁村	二、八	一、九、六	二、八	一、四、七、七、九	一、〇〇	〇	一、〇、七、三	一、三、四、九	三、九、〇、三
安田村	〇	七、八	三、六〇	二、六、四、八、〇〇	四、〇、八	〇	二、四、三、一	九、三、二	六、五、三、三
苗羽村	五、二、〇〇	一、八、〇、四	二、三	一、三、六、二、九	一、四	〇	一、〇、三、五	七、八、八、〇	九、七、六、五
坂手村	〇	〇	五	一、一、七、八、〇、九	〇	〇	〇	一、一、三、〇	二、〇、三、七、四
福田村	〇	〇	〇	一、四、六、五、〇、一	〇	〇	五、七、五	九、八	一、一、四、六
大部村	〇	二、七	〇	二、三、五、〇、九、〇、二	〇	〇	〇	四、七、六	六、四、九、〇
北浦村	〇	〇	〇	七、五、五、二	〇	〇	〇	一、八、二、七	二、一、六、八
四海村	〇	〇	〇	〇	一、七、一〇	〇	〇	三、〇	一、三、一〇
計	八、〇一〇	二四三、八〇一	四、五三二	一一、四一〇、五〇〇	七、一〇三	八、五	四、四三〇	五、七、三三〇	一、四、三、七、六

各議員選舉有権者表

町村	衆議院議員	縣會議員	郡會議員	町村會議員	土庄ヨリ各村中
町村	四七	一四六	一三五	六五四	七〇
土庄町	三二	一〇六	九五	三一九	〇
淵崎村	二四	一〇七	一〇五	三〇二	一〇五
大鐸村	七八	二六三	二五二	八〇二	一一八
池田村	二〇	九五	九三	二七二	二〇一
二生村	一五	一六	一一三	三一七	三〇〇
三都村	九	九三	九〇	一七一	三〇一
西壁村	五	一六三	一六五	四三八	三二二
草壁村	四	一四六	一四四	三九〇	四二六
安田村	五	一九八	一九三	三七〇	四二一
苗羽村	八	三九	三八	一四九	四二九
坂手村	一	七六	七〇	二四一	五一四
福田村	二	一七三	一六四	五〇三	三二六
大部村	三	九三	九二	三二九	二〇二
北浦村	二	一五三	一五七	四五〇	一一八
四海村	一	一〇九	一〇一	三七四	七、七
計	五〇三	一、〇七四	二、〇〇七	六、〇八一	

外國在留人表

町村	支那		英國		北美合衆國		南米伯國		和蘭		露亞		墨國		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
町村	二	三	〇	〇	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二
土庄町	九	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九
淵崎村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大鐸村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
池田村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二生村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三都村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
西壁村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
草壁村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安田村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
苗羽村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
坂手村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
福田村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大部村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
北浦村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四海村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
豐島村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	二一	二七	六〇	一〇	一〇	一三	九〇	一七	二〇	〇	〇	〇	〇	〇	二九

諸稅負擔及諸品生產表

町村	諸稅負擔額		諸品生產額	
	一戶當	一人當	一戶當	一人當
町村	二六、七三〇	四、一九〇	二〇、五七一	三、〇〇五
土庄町	二〇、七五三	五、二四二	一四、七九三	三、八三五
淵崎村	一三、九六二	三、六七五	一〇、五三〇	三、〇三三
大鐸村	三、九〇八	三、〇六六	五〇七、一〇九	八〇、三六四
池田村	六、五五四	三、四七七	一七九、六八二	三〇、四二二
二生村	七、三六八	三、四四五	六五、五六六	三〇、六五三
三都村	三三、九七四	九、二〇八	二五、三三四	一四八、〇九一
西壁村	六、三三六	一八、三三〇	五四五、一六六	一六〇、二二〇
草壁村	四九、四六一	一四、五〇〇	四三、四四六	二七、〇七三
安田村	九、一七一	二九、三三五	五八、〇二四	一八五、二六〇
苗羽村	七、九五九	六、四四九	八六、九五三	七〇、二三三
坂手村	一〇、一六七	五、〇〇八	一六、一七九	六八、〇六八
福田村	一三、一六七	四、一六六	一〇六、六八八	三三、八九六
大部村	一三、一四二	四、七七一	一三九、六八	五四、二八四
北浦村	一四、一〇七	三、五二四	一五四、〇六三	三六、三八一
四海村	一三、五三三	四、三九六	九〇、三三二	二九、三五二
豐島村	三九、七〇二	七、八六〇	三、六二〇、六六六	七二、六七八
計	二五、三三五	四、一九〇	二〇、五七一	三、〇〇五

第廿九編 民俗

八四六

本郡ノ民俗ハ各村各部トモ多少ノ異同アルモノ、如シ依テ今弘ク各地ニ行ハル、モノヲ採リ年中行事ト風俗習慣トノ二章ニ分チ之ヲ列記スルコト、セリ其ノ月日ハ多ク陰曆ヲ用フ是レ陽曆未タ普及セサルヲ以テナリ
大祭祝日ノ如キ國民一般ノ奉禮スベキモノニ至テハ未タ特ニ習慣ヲ存セス

第一章 年中行事

一、年始 正月元旦ヨリ三日マテヲ年始ト云フ此ノ三日間ハ新年ヲ祝賀セン爲メ衣服ヲ改メ美味ヲ食シ歡樂ヲ盡スヲ例トス
(イ)元日 早起神前ヲ拜シ三寶ヲ出シテ新年ヲ賀シ祝酒ヲ舉ケ祝餅雜煮ヲ食シ氏神ニ參詣シ檀那寺及親類故舊ヲ回禮シ一家團樂舊ヲ送り新ヲ迎ヘタルコトヲ

祝福ス

(ロ) 二日 朝風呂ニ入浴シ農家鍬初船舶ハ乗初職工ハ仕事初學童ハ書初ヲナシ殊ニ商家ハ賣初メトシテ一二三ノ先客ニ景品ヲ附ス依テ購買者曉來店門ニ雜沓ス又寺院ハ檀徒ノ家ニ回禮ス

(ハ) 三日 二日以來家族等ハ廻禮ト來客トニ忙ハシ

新年中ノ娛樂トシテ從來中流以上ハ碁將碁カルタ茶花等ニシテ中流以下ハ金錢ヲ賭シ又ちよんがれ大黒細民ノ謠等ヲ聞キ女兒ハ羽子ヲ弄スルモノアリシカ近來一變シテ或ハ雜誌或ハ小説等ヲ讀ムモノアリ且一村又ハ一部落ノ新年宴會ヲ開キ各自ノ廻禮ヲ略スル向アリ

二、七種 正月七日ニシテ七日トモ云フ又此ノ日芹齋御行繁蓑佛座(甲平子)菘蘿蔔ノ七種ノ菜ヲ羹トシテ食シ萬病ヲ除クト云フ又此ノ日朝寢スレバ病魔ニ侵サルルトテ特ニ早起シテ門戸ヲ解放シ神棚ヨリ供餅ヲ撤シテ業ヲ休ム

三、帳祝 正月十一日新帳簿ヲ調製シテ之ヲ祀ルヲ云フ此ノ日一村又ハ一部落ニテ新年宴會ヲ兼ネ組長等ノ慰勞會ヲ開クモノアリ

四、粥釣 正月十四日夕幼童等群ヲナシ其ノ近隣ヲ徘徊シテ粥釣ニ來ル由ヲ稱ヘ

八四七

ヲ白米ヲ乞ヒ翌十五日ノ初粥ニ小豆粥トナシ萱ノ箸ニテ之ヲ食ス近來此ノ習俗殆ント廢タレタリ

五、日待 同日夕檀那寺ニ參詣シ住職ノ執行スル護摩供ヲ禮拜シ徹夜シテ翌十五日ノ日輪ノ出ツルヲ待チ之ヲ拜シテ家ニ歸ルヲ云フ此ノ通夜ノ間寺主ノ説教及ヒ講話アリ餘興トシテ淨瑠璃又ハ落語等アリ此ノ日待ハ正五九ノ三月執行スルアリ又別ニ二十三日ニ月待ヲ執行スル寺院モアリ

六、爆竹 一月十五日朝注連飾ヲ焚キ其ノ灰ニテ餅ヲ燒キ一家族之ヲ食ス又學童ハ書初ヲ火焰中ニ投シ之ヲ空中ニ飛揚シ高ク揚リタルモノヲ觀テ書道上達ノ兆トナス之ヲトンドト云フ本日ハ上元ナルヲ以テ各自業ヲ廢ス

七、佛の正月 正月十六日靈壇ヲ飾リテ先祖ヲ祭リ慕參ヲナシ親族懇家ノ靈廟ヲ巡拜シ檀那寺ニ參拜ス

八、村祈禱 期日定マラス正月月中ニ之ヲ行フ部落民ハ氏神又ハ寺院ニ詣テ五穀成就部内安全ヲ祈リ神官又ハ寺院ヨリ請受タル祈禱札ヲ村境ニ掲ケ且ツ全部員ノ宴會ヲ開ク近來ハ其ノ宴會ヲ廢スル向多シト云フ

九、家祈禱 寺院ハ其ノ檀徒ノ家祈禱トシテ毎戸ニ讀經ス又寺院ニヨリ正五九月

ノ三回トスルコトアリ正月又ハ十二月ニノミ行フアリ一様ナラス之ヲ御經讀トモ云フ

一〇、小正月 二月朔日ニシテひひでの正月トモ云フ一日ノ業ヲ休ミ隨意娛樂ニ耽ル

一一、涅槃 二月十五日ニシテ釋迦如來入寂ノ日ナリ各結衆ノ僧侶ハ其ノ會座堂ニ會シテ涅槃會ヲ執行シ善男善女無數參集ス俗ニ之ヲ春ノ聽聞ト云フ此日霰餅ト烘豆ヲ佛ニ供フ之ヲ御釋迦様ノ鼻糞ト云フ

一二、彼岸 二月二十日頃團子ヲ供ヘテ佛前ヲ祭リ慕參ヲナシ親族間ノ佛前ヲ巡拜シ老人等ハ寺院又ハ堂庵ニ集合シテ念佛ヲ唱フ秋ノ彼岸亦同シ

一三、社日 彼岸中ニアリ耕地ニ入ルヲ許サス業ヲ休ム秋ノ彼岸亦同シ

一四、上巳 三月三日ニシテ離ノ節句ト云フ離人形ヲ飾リ之ニ桃花柳枝菱餅草餅白酒貝等ヲ供ス女兒生レテ初メテノ節句ニ當ル時ハ祝物ヲ贈答シ且ツ近親故舊ヲ招キテ祝宴ヲ張ル又然ラザルモ離荒シト稱シテ推參客往來ス

一五、星ヶ城祭 三月十六日ニシテ同所ニ鎮座セシ阿豆枳島神社祭神大野手比賣ノ大祭ナリ參拜者頗ル多シ九月十六日亦同シ

一六、正御影供 三月二十一日弘法大師高野山入定ノ日ニシテ各結衆常番ノ寺院ニテ大供養ヲナス善男善女ハ大師參リト稱シテ終日其ノ地方ノ寺院ヲ巡拜ス此ノ日ヲ正御影供ト云フ

一七、灌佛 四月八日釋迦牟尼佛誕生ノ日ナリ各結衆ノ僧侶ハ會座堂ニ會シ佛生會ヲ行フ家々ニハ竿頭ニ時花ヲ挿ミ邸内ニ樹ツ牟尼佛ニ供フルノ意ナルベシ尙ホ佛生會ニ參拜セシモノニハ灌佛セシ香水ノ代用品タル甘茶ヲ惠與ス

一八、端午 五月五日ニシテ菖蒲ノ節句トモ云フ家々ニハ武者人形菖蒲刀等ヲ飾リ外ニハ轆鯉吹貫等ヲ揚ケ菖蒲ヲ軒頭ニ挿ミ活潑武勇ヲ表シ且ツ粽及ヒ柏餅ヲ贈答ス尙ホ男兒初節句ニ當ル家ニハ祝物ヲ贈答シ祝宴ヲ張リ幼童ハ尿ヲ揚ケテ樂ム

一九、庭揚 さのぼり足洗半夏生麥秋ノ終了ヲ庭揚ト云フ甘藷植付挿秧決了ヲさのぼりと云フ或ハ餛飩或ハ壽司或ハ雜飯等ヲ製シ近親近隣ニ配贈シ且ツ小宴ヲ開クコトアリ又半夏生或ハ其ノ後ニ於テ一度ニナスモノモアリ是レ農事ノ一段落ヲ祝スルトノ意ナルベシ

二〇、齒固 六月初日ニシテ舊年未ニ製シタル乾饅カキモチト干柿ヲ食シテ齒ヲ堅メ其ノ

健康ヲ祝シ一日ノ業ヲ休ム

二一、組廻 六月七日一部落總出ニテ大峰山上大權現ノ守軸ヲ竿頭ニ掲ケ毎戸ヲ回リ終リニ其ノ地ノ荒神社ニテ之ヲ收ム蓋シ惡魔ヲ拂フノ意ナルヘシ

二二、夏祭 六月中ハ各地ニ夏祭多シ然ルニ時炎熱ニ際スルヲ以テ衛生上ヨリ近來好期節ニ變更セシモノ少ナカラス

二三、七夕 七月七日寺子屋時代ニハ其ノ邸内ニ於テ織女ヲ祭ル供物ハ門人はヲ提供シ且ツ毎一名一本ノ笹ニ五色ノ短冊天ノ川ニ關スル歌ヲ附ケ最上部ニ大字ヲ書シタル旗ヲ吊シテ之ヲ並立シ其ノ間紅燈ヲ點シテ光彩ヲ添へ壯觀ヲ極ム門人ノ父兄等來觀シテ竹ノ大小短冊ノ多寡文字ノ優劣ヲ評シ師匠ハ門人ヲ饗ス半夜各我家ニ持歸リ翌朝海又ハ川ニ流スヲ例トス小學校設立以來ハ各兒童ノ家ニテ形式ノミヲ行フモノアリ此日ヲ七日ナナツビト稱シ墓所ヲ掃除シテ盂蘭盆ノ準備ヲナス

二四、中元盂蘭盆 七月十四日ヨリ十六日マテヲ云フ此三日間ハ主トシテ先祖ノ祭事ヲ勤メ新年ニ亞ク貴重ノ行事トシテ先ツ十日頃ヨリ進物ヲ贈答シ金穀ノ取引ヲ精算ス之ヲ盆節季ト云フ

(イ) 十三日 靈前ヲ掃除シ掛素繩吊菓子其ノ他ノ物品ヲ供シ墓所ニハ大小ノ幡ヲ立テ門庭ニハ精靈棚ヲ造ル檀那寺ハ棚經ニ巡回セリ夜ニ入レバ内外ノ燈籠ヲ點シ香茶ヲ献シテ精靈ノ光來ヲ待ツ又部落ニヨリテ有志者ハ白衣ヲ着シ念佛ヲ高唱シテ各家ヲ廻拜シ新靈ノ家ニハ特ニ之ヲ歡迎ス遂ニ拂曉ニ至リテ解散ス之ヲ夜念佛ト云フ新精靈ノ家ニハ百八本ノ燎竹ヲナス

(ロ) 十四日 靈前ヲ拜シ墓參ヲナシ近親ノ靈ヲ巡拜シ寺院ニ參集シ夜ニ入レバ迎火ヲ焚ク

(ハ) 十五日 前日ニ同シ但シ夜ニ入レバ送火ヲ焚ク

(ニ) 十六日 拂曉精靈棚及ヒ靈前ヲ收メ都テノ供物等ヲ海ニ流ス之ヲ佛送ト云フ

二五、盆踊 七月十四日ヨリ廿三日マテノ間ニ於テ各地ニ盆踊ヲナス其ノ趣向異同アルモ概ネ中央ニ涼亭二個ヲ置キ太鼓ヲ打チテ謠ノ拍子ヲ取ル之ヲ囃子ト云フ踊子ハ男女變相シ或ハ時代物(牛若辨慶敦盛熊谷)或ハ心中者(オ半長右衛門オ染久松)ニ裝ヒ又ハ何等ノ所作事ナキモノアリ臨時飛入りノモノアリ踊了リテ二和加狂言又ハ淨瑠璃ヲ演スルモノアリ維新前稍改良セラル廿三日淵崎淨源坊ノ踊ノ如キ本郡中ノ大會ニシテ各町村ヨリ踊子又ハ縦覽人無數參集スト云フ先年其

ノ筋ニ於テ此習慣ヲ嚴禁セシガ近來稍其ノ禁ヲ緩メシモ従前ノ如ク盛シナラザルハ時勢ノ進運ニ伴フノ結果ナルヘシ

二六、流水灌頂 七月二十四日ニシテ此日流水灌頂ヲ執行スル寺院多シ參詣者亦尠ナカラス

二七、八朔 八月朔日此月ハ氏神ノ祭典月ナルヲ以テ當日ハ業ヲ廢シ氏神ニ參詣シ且ツ祭典ノ準備ヲナス

二八、氏神祭典 八月十一日ヨリ十六日マテノ間ニ於テ鄉村社ノ祭典アリ一年中ノ大祭ニシテ在島ノ老若男女ハ勿論遠ク郡外ニアルモノモ此ノ祭典ニ會スルヲ無上ノ歡樂トシテ特ニ歸郷スルモノ多シ祭典ノ準備トシテ八月ニ入レバ被服ノ新調太鼓ノ練習ヲナシ祭日切迫スレバ神輿奉侍者ハ齋戒沐浴シテ神社内ニ寢食シテ身心ノ清潔ニ保持ス祭禮渡御ノ行列ニハ大幡ノ曲藝太鼓臺ノ扛昇アリ高張提燈鎗長刀其ノ他ノ神具並ニ神輿相連リ神官巫女氏子總代等之ニ從ヒ壯觀ヲ極ム

二九、重陽 九月九日ニシテ菊ノ節句トモ稱ス搗餅シテ當日ヲ祝シ業ヲ休ム從來當日又ハ其ノ以前ニ於テ素人演劇ヲナス町村アリテ常舞臺ノ設ケアリ部落ノ上

流者ハ八月ノ祭典後大阪ヨリ相當ノ俳優ヲ聘シ十數日間習得シテ演スルヲ例トセシカ維新後上流者之ヲ耻ヂ一時中止シ常舞臺ハ小學校ニ代用スルニ至レリ近來中流以下ノモノニシテ再興セシモノアリシモ往日ノ如クナラス近キ將來ニ於テ全然廢止サル、ニ至ルヘシ

三〇、後の月 九月十三日ニシテ團子及ヒ里芋ヲ供ヘテ月ヲ祭ル之ヲ月觀團子ト云フ

三一、亥の子 十月亥ノ日ニシテ幼童ハ稻藁ニテ金棒様ノモノヲ作り隣家近傍ノ家ニ到リ土地ヲ撲チテ短歌ヲ謠ヒ終リニ元正ト唱フ家ヨリハ餅蜜柑菓子等ヲ與フ近來此ノ風大ニ減シタリ各農家ハ斗樹ニ農作物ヲ盛リテ大黒様(大國主ノ神)ニ供ヘテ五穀豐熟ヲ祝シ他家ニ婚セシ者ヲ迎ヘテ之ヲ饗ス但シ亥の子ハ一番ハ農家ニ番ハ商家之ヲ祝ス

三二、埃落 十月中麥ノ傳播終レハ蒔仕舞ト稱シ業ヲ休ミ氏神ニ參詣シテ勞ヲ慰シ簡單ナル食物ヲ近親近隣ニ配贈シ小宴ヲ張ル

三三、萬靈法會 十月十一日ヨリ十五日マデニシテ各結衆會座堂ニ會シ三界萬靈ノ爲メ五日三時ノ大法會ヲ行フ參拜者無數殊ニ新精靈ノ遺族ハ必ず參詣ス之ヲ

秋ノ聽聞ト云フ

三四、紐落 十一月十五日ニシテ子女生レテ三歳ニ至レバ着衣ノ紐ヲ取り帶ヲ結バセ氏神ニ參詣シ其ノ成長ヲ祈ル之ヲ紐落シト云フ

三五、御衣替 十一月廿一日ニシテ高野山ニテ大師ノ御衣替ノ式アリ善男善女ノ大師參リヲナスコト三月廿一日ニ異ナラズ

三六、乙子の朔日 十二月一日ニシテ最終ノ月朔ナリ家業ヲ廢シ神社ニ詣デ一日ノ歡ヲ盡ス

三七、年末 十二月下旬

(イ) 煤拂 神棚ヲ始メ家宅内外ノ大掃除ヲナス

(ロ) 餅搗 親族知友ノ壯丁者相互往來シ搗餅ヲナス杵音人聲相和シテ勇壯ナリ餅ハ米粟蜀黍等ニシテ新年中ニ使用スルモノト乾饅(カキモチ)ニナスモノト水餅トナスモノトアリ其ノ量ハ一石二石三石以上ヲ搗クモノアリ近來ハ青年ガ受負事業トナス地方アリ頗ル簡便ナリ

(ハ) 松飾 門前ノ左右ニ松樹ヲ立テ下部ヲ松ノ割木三個ヲ以テ包ミ太繩ニテ之ヲ裝リ門上ニ注連ヲ飾ル注連ニハ讓葉裏白橙等ヲ附ケ之ヲ掲グ大小疎密一様ナ

- ラズ近來門松ニ竹及梅ヲ添フルモノアリ
- (ニ) 歳暮 親友交互ニ歳暮ノ祝儀ヲ贈答シ明年年賀ニ當ル家及ビ嫁婚ノ里方ヘハ鏡餅ヲ贈リ兒女ノ初新年ニハ破魔弓羽子板ヲ贈ル
- (ホ) 大節季 二十五日以後末日マデニ金穀取引ノ精算ヲナスヲ云フ
- (ハ) 除日 朝來神前ニ供物ヲ捧グ床飾ヲナシ祝杯鏡餅三寶(米伊勢海老榎搗粟蜜柑干柿等ヲ盛合ス)組重(野菜乾物干魚昆布田作等ヲ煮染トナシ來客ノ饗ニ供フ)等ヲ並列シ日暮神佛ニ年越參ヲナシ夜ニ入レバ炒豆ヲ投グテ鬼ハ外福ハ内ヲ大唱ス之ヲ鬼ノ豆ト云フ(節分ノ夜ニ之ヲ行フモノモアリ)斯クテ一家舉ツテ舊歲ヲ送り新年ヲ迎フルコト、ス。

第一章 風俗習慣

一、婚儀 内約整ヒタル時結納ヲ贈リ(從來ハ大概帶地ナリシガ近來ハ代料多シ)後吉日ヲトス當日ニ至レバ普通略式ハ婿入ヲ先ニス其ノ法式ハ婿及ビ數名ノ近親者ハ媒灼人ノ先導ニテ婚家ニ到リ輕易ナル饗ヲ享ケ婿ノ一行去リタル後嫁及ビ介添近親等媒介者先導ニテ姻家ニ到ル姻家亦親族故舊ヲ集メテ之ヲ迎フ媒灼人

祝言ノ盃ヲ行ヒ秘宴會ニ移ル宴會ノ間新婦ハ幾回モ衣服ヲ更メテ其ノ榮ヲ飾ル附近ノ者ハ新嫁ノ入家ヨリ其ノ宴席ヲ參觀セン爲メ群集雜沓シテ大ニ賑フ之ヲ嫁入ト云ヒ嫁ヲ見ルト云フ結婚三日目ヲ三日歸リト云ヒ新婦里方ニ歸リ土産トシテ祝餅其ノ他ノ品ヲ近族故舊ニ配ル又此ノ日婿入又ハ舅入ヲナスモノアリ新婚披露會ヲ開クモノアリ

二、帶祝 妊娠五月ニ至レバ岩田帶ヲナスヲ云フ

三、命名 生後六日ニシテ名ヲ命ス識者ノ撰ヲ乞フモノアリ數名ヲ撰ンデ神前ニトスルモノアリ父及祖父ノ特撰スルモノアリ

四、忌明 生後三十日ニシテ祝餅ヲ製シテ配贈スルヲ云フ

五、百日參 生後百日ニシテ母兒衣服ヲ裝ヒ氏神ニ參詣スルヲ云フ

六、誕生 生後一年ニシテ祝餅ヲ製シテ配贈シ兒女ハ氏神ニ參詣シテ其ノ成長ヲ祈ル之ヲ誕生祝ト云フ

七、年賀 各人四十二、六十一、八十八ノ三回ニハ神佛ノ祈禱ヲナシ親族故舊ヲ招キテ賀宴ヲ張ルアリ祝餅ヲ配贈スルアリ又ハ賀宴祝餅ヲ併セ行フモノアリ俗ニ之ヲいはひトモ云フ

八、參宮 各人一代ノ間一度以上伊勢皇太神宮へ參詣スルヲ希望シ特ニ壯丁ノ内ニ參宮センコトヲ欲ス而モ家庭其ノ他ノ事情ノ爲メ公然之ヲ許サレサルモノアリ此等ハ隠レテ參詣ス之ヲ拔ケ參ト云フ父兄之ヲ咎メサルノミナラス却テ歡迎スルモノ、如シ參宮者歸宅ノ後ハ氏神ニ繪馬ヲ掲ケ五社ノ宮第七編社寺宗教參(看)ニ參拜セシガ近來絶テ之ヲ行フモノナシ

九、出稼奉公 由來本郡ハ土地狹ク人口多ク著シキ工場等ノナキヲ以テ男子ハ石工又ハ船員等ニ出稼ヲナスモノ多ク女子ハ奉公ト稱シテ大阪ニ出テ下女ニ使役サル、ヲ常トシ又從來ハ良家ノ子女ト雖モ婚姻前必ス見習奉公ヲナシタリ近來交通ノ便開ケシヨリ獨リ大阪ニ限ラス便宜ノ地ニ出稼スルニ至レリ抑大阪ニ出ツルハ管ニ其ノ給料ヲ目的トスルニアラス婦道ノ傳習ヲモ兼ネ殊ニ良家ノ子女ハ之ヲ主眼トセリ然ルニ教育ノ完全ナル今日ニアリテハ其ノ要トスル所ノモノハ家庭ニ於テ之ヲ習得スルヲ得進ンデ女學校ニ於テ之ヲ修ムルヲ得ルニ至リシヲ以テ良家子女ノ見習奉公ハ全廢セラレ又一般ノ女子モ工場ニ稼キ町家ニ傭ハレ専ラ傭給ヲ爭フ状態トナレリ時ニ男女トモ出稼者ノ多キ爲メ郡内ニ於テ工ヲ起シ業ヲ進ムルモノハ其ノ人少ニ困難シツ、アリト云フ

一〇、若連中 一部落中若イ者ト稱シ壯丁者相團結シテ公共救援ノ業ニ努メ互ニ親睦ヲ厚ウスルヲ目的トシタル數個ノ結社アリキ名ハ甚タ美ナルモ内容ヲ探レハ謂フヘカラサル弊習ノ潜ムモノアリシカ近年青年團ト變シ内外相伴フ良團體ト進化シタリ

一一、諸講 從來或ハ伊勢講或ハ金毘羅講或ハ大師講或ハ藥師講或ハ何々或ハ何々ト數戸又ハ數十戸講ヲ結ヒ毎月輪番ニ會ヲ開キ敬神尊佛ノ傍ラ農事ヲ談シ商業ヲ話シ又或ハ積金ヲナスモノアリ頗ル有益ノ會合タルヲ認メラル

一二、用會 村民中不慮ノ災害ニ罹リ又ハ負債相嵩ミ生計難ヲ訴フル者アル時ハ之ニ同情スル者周旋シテ用會ヲ發企ス(從來ハ頼母子ト云フ)用會ニハ種々ノ方法アレトモ近來普通ニ行ハル、モノハ三十人會ナリコハ年限ニ於テ長キニ失スルノ感アレトモ會主ニ利益多ク且ツ會員モ亦些少ノ金ヲ出シテ巨額ノ金ヲ得ルヲ以テ一種ノ貯金方法トモ稱スヘク金融上最モ利便ナリ

一三、善根接待 春夏ノ候島四國遍路ト稱シテ八十八所ノ靈場ヲ巡拜スル者アリ從前旅舎ナカリシ時代ニハ無識ノ遍路ヲモ無料ニテ宿泊セシメタリ之ヲ善根宿ト云フ又一人或ハ數人聯合シテ飲食物其ノ他ノ品ヲ遍路ニ進ム之ヲ接待ト云フ

近來接待ノ數ハ却テ増加スルモノ、如ク巡拜者ハ一日數次ノ接待(飲食物)ヲ受ケテ隱ニ迷惑ヲ感スル程ナリ又巡拜者ハ路傍ノ幼童ニ炒豆又ハ菓子ヲ惠ム是レ接待ニ對スル答禮ナランカ

一四、葬儀 人死ニ臨メバ近親水ヲ進メ遂ニ落命スレバ北向ニ臥セシメ白布ヲ以テ面ヲ覆ヒ屏風ヲ以テ死體ヲ包ミ枕頭ニ燈火水花ヲ供ヘ魔除刀ト帚トヲ立テ近親知己侍坐シテ護ル之ヲ夜伽ト云フ斯クテ親族近隣相集リ葬儀ノ準備ヲ分擔ス棺調ヘバ最近親死者ノ髮ヲ剃リ湯ニ浴セシメ新調ノ白衣ヲ着セシメテ棺ニ納メ生前ノ愛玩品一二ヲ入ル之ヲ入棺式ト云フ葬儀當日ニハ弔問者多數ニシテ内ニ香奠ヲ持參スルモノト然ラザルモノトアリ前者ニ對シテハ簡單ナル臚部ヲ供ス之ヲしあげト云フ時至レバ寺僧來リテ引導ヲ授ケ出棺スレバ寺僧門經ヲ讀ミ行列ヲ始ム其ノ次第ハ花籠枕飯六本幡四本幡插花作花六塔水高張香爐寺僧位牌(持)棺天蓋ノ順序ニシテ白木綿ヲ柩ヨリ曳ク之ヲ禪ノ綱ト云フ婦人ハ被衣シテ禪ノ綱ニ連ル次ニ近親故舊一般會葬者送行ス墓所ニ到レバ寺僧ノ讀會葬者ノ弔辭近隣者ノ念佛近親者ノ焼香アリ終レハ會葬者歸途ニ就ク近親中ノ者墓境ニ下座シテ衆人ニ禮ス棺ハ最親者及近隣ノ者之ヲ葬ル寺僧ハ葬家ニ歸リテしあげノ讀

經ヲナシ寺僧歸リテ後遺族等寺ニ參リテ布施ヲ進ム僧讀經ス之ヲ以テ葬儀一段落トス

一五、逮夜 死後初七日、二七日、三七日、四七日、五七日、六七日、七七日ヲ逮夜ト稱シ毎七日親族故舊又ハ部落人ヲ招キテ看經念佛ヲ唱ヘ夜食ヲ饗ス近來二三若クハ一回ニ節シ夜食ヲ物品ニ換ルモノアリ遠方ノ向ハ逮夜ニ案内セスシテ茶の子ノ名ヲ以テ物品ヲ贈與ス五七日又ハ七七日ニハ檀那寺ヲ迎ヘテ回向スルヲ例トス

一六、年忌 追善供養ヲ九回トス初年、三年、七年、十三年、十七年、廿五年、卅三年、五十年、六十一年是レナリ毎年忌檀那寺ヲ迎ヘ親族ヲ會シテ追善供養ヲナス之ヲ年忌ト云フ而シテ六十一年ヲ弔揚ト稱シテ最終トナス此ノ期日ニ關シテハ檀那寺ニ於テ過去帳ヨリ抜抄シテ檀家ニ報告シ又ハ佛ノ正月ニ揭示ヲナス

第三十編 雜錄

本誌各編類ヲ分チテ其ノ記ヲ載ス然レトモ其ノ編ニ屬セサルモノ十餘項アリ今之ヲ雜錄ニ掲ク

第一章 來島ノ名流

古來來島ノ名士少ナシトセス今公人トシテ來島アリシ著名ノ人ヲ揚ク私人ニ就テハ別ニ記スル所アルヘシ

- 僧 行基 行基菩薩 天平十年來錫寶生院清見寺松林寺等開基
- 僧 空海 弘法大師 弘仁五年來錫龍湖寺極樂寺坂手觀音等開基
- 北條 時頼 最明寺 文應弘長ノ間微服行脚シテ中山ニ病ム
- 佐々木信胤 備前飽浦城主 興國元年星ヶ城ニ據リ南朝ニ盡ス
- 細川 師氏 掃部助 正平二年信胤攻撃
- 僧 增 虎空藏院 元中八年寶生院再建
- 加藤 清正 肥後守 天正十一年大阪築城用石奉行トシテ出張
- 片桐 且元 東市正 同前
- 黒田 孝高 筑前守 同前
- 仙石 秀久 權兵衛 天正十一年四國攻ノ時引田ヨリ來ル
- 豊臣 秀吉 太閤 文祿元年新造船アタケ丸ヲ督ス

- 衣斐左衛門 大阪奉行所員 寛文六年米作巡見後念々佛ノ記ヲ編ス
- 伊能 忠敬 測量家 文化五年幕命ニヨリ本島測量
- 松平 慶倫 津山藩知事 明治三年管内巡見
- 鞍懸虎次郎 同小參事 同前隨行
- 西郷 隆盛 參議 明治五年天皇御寄泊供奉
- 徳大寺實則 宮内卿 同前 更ニ同二十三年天皇御寄泊供奉
- 吉井 友實 宮内少輔 同前
- 河瀬 眞孝 侍從長 同前
- 西郷 從道 陸軍少將 同前 更ニ同二十三年天皇御寄泊供奉
- 川村 純義 海軍少將 同前
- 伊東 祐磨 龍驤艦長 同前
- 伊東 祐亨 春日艦長 同前
- 日下部東作 小内史 同前
- 谷森 眞男 權小内史 同前
- 米田 虎雄 侍從 同前

兒玉愛次郎	宮内小亟	同前
久保斷三	名東縣權令	明治七年管内巡視各區ニ於テ賞ヲ行フ
千家尊福	出雲國造	同年太田秋滿宅ニ於テ神教ヲ説ク
岩村高俊	愛媛縣權令	明治九年讃岐國巡視
關新平	愛媛縣令	明治十四年管内巡視
大洲鐵然	真宗一等巡教師	明治十五年西光寺及ビ真光寺ニ於テ布教
藤村紫朝	愛媛縣知事	明治二十年管内巡視
白根專一	愛媛縣知事	明治二十一年管内巡視
重野安輝	修史編纂局總裁	同年各府縣巡回古文書徵採
林董	香川縣知事	明治二十二年管内巡視
熾仁親王	有栖川宮	明治二十三年天皇御寄泊供奉
彰仁親王	小松宮	同前
土方久元	宮内大臣	同前 更ニ同四十一年神懸山ニ遊ブ
山口正定	主獵局長	同前
池田謙齋	侍醫局長	同前

股野琢	内閣書記官	同前
柴原和	香川縣知事	同年御寄泊奉迎
渡邊洪基	衆議院議員	明治二十五年國民協會遊説
和田彦次郎	衆議院議員	同前
品川彌二郎	前樞密顧問官	同前 尙ホ田中綏猷父子展墓
深野一三	香川縣知事	明治二十八年戰病死者招魂祭臨場
徳久恒範	香川縣知事	明治三十年管内巡視
小野隆助	香川縣知事	明治三十一年日本赤十字社委員部總會臨場
外山正一	前文部大臣	明治三十二年第二高等小學校講演及神懸探勝
威仁親王	有栖川宮	明治三十二年東宮神懸山下御遊獵供奉
中山孝麿	東宮太夫	同前
黒田久孝	東宮武官長	同前
末弘直方	香川縣知事	明治三十四年戰病死者招魂祭臨場
小野田元照	香川縣知事	明治三十五年管内巡視
菊麿王	山階宮	明治三十八年東宮御假泊供奉